

- 第七節 凡ソ機械器具ヲ毀損紛失セシメタルトキハ其損失ヲ辨償セシムヘシ
- 第八節 獨逸刻及ヒ足刻ニ於テ不良ノ軸木ヲ出ストキハ其函若クハ一呎ヲ沒收スヘシ
- 第九節 剝出ニ於テ不良ノ板ヲ出ストキハ其一臺ヲ沒收スヘシ
- 第十節 獨逸刻ノ板ハ高サ五寸三分枚數六十五枚ニ過クルトキハ其一臺ヲ沒收スヘシ
- 第十一節 温室火燥室ニ於テ乾燥充分ナラサル軸木ヲ仕揚クヘカラス
- 第十二節 各部各組受持ノ場所ニ於テ嚴ニ火ノ元ニ注意シ始終怠ルヘカラス
- 第十三節 各部各組受持ノ場所ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ
- 第十四節 温室火燥室ノ用心貯水ハ十分水ヲ滿タシ置クヘシ
- 第十五節 鐵材、木材、繩索等ノ物品ハ濫用スヘカラス
- 第十六節 第十一節以下第十五節迄ニ違フモノハ罰スヘシ
- 第十七節 凡ソ規則ニ通シテ罰ノ最モ重キモノハ退去セシム他ハ事ノ輕重大小ヲ案シ罰金、謝書、誓約年限延期、沒收、辨償金ノ五種ニ處スヘシ
- 第十八節 本則ノ條節ヲ改正シ若クハ追加スルトキハ其時々揭示スヘシ

製造品ノ價格及其販路

山田製軸所

| 種別 | 年 | 三十二年 | 三十三年 | 三十四年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| 一等 | 五、九四九 | 九、七九七 | 八、九三二 | 七、三一五 |
| 二等 | | | | 八、五三二 |

| 種別 | 年 | 三十二年 | 三十三年 | 三十四年 |
|----|-------|--------|--------|-------|
| 三等 | | | | 八三〇 |
| 計 | 五、九四九 | 一〇、一六〇 | 一一、八〇二 | 九、七二一 |

備考

明治三十年六月ヲ以テ開業シ當時ハ一等軸木ノミ製造シ同三十一年十月ヨリ原料ニ稍々腐朽ノ患ヲ來シタル爲メ黒軸トテ二三等品混合ノモノ製造同三十二年十一月ヨリ黒軸ヲ廢止シ一、二、三等ノ三軸ニ區別スルコトニ改正セリ同三十三年北清事伴ノ結果販賣地ノ在荷饒多ナリシ爲メ未曾有ノ不況ヲ告ケ輸出殆ント皆無ノ姿トナリ斯業者十中八九ハ一時休業スルノ悲境ニ陥リ同年七月以降軸木ノ厘角ヲ改正シ同十月ニ至ルノ間五厘軸木ヲ製造シ以テ事業ヲ繼續セリ其後再ヒ七厘角ヲ製造シ來リシカ本年六月以後五厘角ノ流行アリ依テ時流ニ應シ目下五厘角ヲ製造セリ一販賣ハ函館山田商店又ハ兵庫支店等ニ於テ專ラ之ヲ行ヘリ當工場ニテハ管ニ製造ノミナルヲ以テ確實ナル價格ハ詳記スル能ハス

一 販路兵庫良燈社ニテ精撰ノ上一等軸木ノミ印度地方へ輸出シ二等、三等軸木ハ本邦ニテ需要スルモノナリ

巖手縣 同縣ハ現時我邦ニ於ケル製軸地方中最モ古キ歴史ヲ有スル地方ニシテ事業ノ繁盛ナルコト北海道若クハ神戸地方ニ相亞ケリ然レトモ近來漸ク其原材料ノ不足ヲ告ケ從テ産額

モ亦甚タ大ナラス他ノ名聲藉甚ナルニ比シテ稍々遜色アルヲ免レス由來同地方ハ輸出向軸木ノ原料タル白楊ノ郷土ニ屬シ從來其野生ニ係ルモノ處々ニ點在シ材質ノ優良ナル生育ノ好適ナル洵ニ其特産タルノ名ニ背カス之ニ亞テやす材(さわるみ)モ亦同地方ニ能ク適シ其質一種ノ脂氣ヲ有シ其他色澤ノ點ニ於テモ又火付キノ點ニ於テモ將タ消火後危險ナキ點ニ於テモ總テ是ノ優良ナルニハ如カスト雖トモ凡其代用材料トシテ近來大ニ其需要ヲ増加シ輸出向トシテモ多少ノ聲價ナキニアラス産額モ亦是ノ比スレハ大ニ豊富ナルモノアリ尙ホ赤松材ヲ以テ原料トナセル軸木ニ於テモ同地方ハ著名ニシテ此種ノ軸木ハ殆ント内地用ニ止リ其品位甚タ劣等ナリト雖トモ火付キ容易ニシテ而カモ價格ノ低廉ナル又其材料ノ多大ナル好産物タルヲ失ハス而シテ同地方ニ於ケル赤松材ハ其質極メテ善良ニシテ一種ノ光澤ヲ有シ其産額モ亦甚タ豊富ナルモノアルカ故燐寸軸木トシテモ將來大ニ聲譽ヲ博スルニ至ルヘシ以上記載セシカ如ク同縣ハ軸木原料ノ産地トシテハ最モ其適スル所ナルカ故其造殖若クハ製軸ニ就テハ益々奮勵努力センコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ今回ノ出品點數ハ比較的少數ナラスト雖トモ製軸ノ彎曲セルモノ多ク或ハ色澤一定セス或ハ産額多カラサル等優賞ニ擬セラレタルモノ少シ僅カニ吉田某ノ出品ハ品質製造共ニ佳ニシテ工場ノ創設甚タ古ク現今蒸氣水力ノ二原動力ヲ使用シ産額亦少カラス左ニ其解説書ヲ抄録シテ参照ニ資ス

巖手縣下閉伊郡宮古町吉田嘉吉出品燐寸軸木解説書抄録

製造地 巖手縣下閉伊郡宮古町字藤原及ヒ同乙茂村字三田市ノ二箇所ニアリ

建物ハ土造木造ニシテ總坪二百五十坪也

原材料 白楊樹ニシテ巖手縣下各地ニ於テ民林又ハ官林ヨリ伐採ス運搬ハ冬期ハ雪上履ヲ用ヒ夏期ハ水利流下又ハ船搭牛馬付ケニテ運搬ス原材料ノ長サハ六尺五寸乃至二尺四寸迄丸太材ノ儘工場内へ搬入ス

製造機械 五馬力ノ蒸氣機關ト六馬力ノ水車ヲ原動力トシ各種ノ機械之レニ附隨シテ運轉ス先ツ丸材ヲ長サ一尺一寸ニ切斷シ之レヲ蒸室ニ容レ汽力ヲ以テ蒸スコト三時間後チ是レヲ(ムキ)機械ニ登セ長サ一寸七分厚サ七厘五毛ニ板トス(但シ細軸ナレハ五厘厚サトス)キザミ機械ニ掛ケテ方七厘五毛長サ一寸七分ノ軸木トナル

乾燥法 軸木ヲ徑三寸五分ニ束子之レヲ一把ト稱シ乾燥函ニ入レ(乾燥函一箇へ三十把入リ)乾シ棚ニ掲ケ(乾燥室ハ土造ニシテ建坪十五坪中ニ數箇ノ暖爐及鐵管アルモノ)華氏寒暖計百四十五度ノ溫度三十四五時間ニシテ燥乾了ル

産額及販路 一箇年ノ産額ハ百萬把乃至一千萬把ノ間ニアリ東京、横濱、神戸、大阪、名古屋等トス名古屋行キハ内國用ニシテ外四箇所ハ概シテ海外輸出トナル

沿革 明治十六年創始ニテ巖手縣青森縣北海道ノ創始者タリ當時製造ノ機械ハ不完全ノ人力運轉器ナリシ爲メ勞力多クシテ製品寡少收支償ハサリシカ種々改善ニ注意シ人力ニ更ルニ水力汽力ヲ應用シ其他微細ノ機械マテ改良ノ結果同業者ノ參考トナレリ由來東北ノ地ハ白楊樹良質ニシテ全國ニ冠タリ故ニ海外輸出燐寸ニハ奥州軸木トシテ名聲高ク優

等品トシテ歡迎セラレタリシヨリ近年各地ニ興リ目下海外輸出燐寸價金六百餘萬圓ノ原料ハ東北ノ産ニヨリ命脈ヲ繫クト云フモ過言ニアラサルヲ信セリ尙ホ前途多望ノ域ニアリト謂ヘシ

全國貿易品博覽會褒賞明治三十三年全國貿易品博覽會ニ出品シテ褒賞ヲ受ク

兵庫縣 同縣ノ産出軸木ハ之ヲ分テ四種トスルヲ得ヘシ一ハ南清、香港ヨリ海峽殖民地及ヒ濠洲等ノ英領諸邦ニ輸出向キノ安全製白楊一等軸ニシテ二ハ主トシテ印度及熱帶土人向キノ硫黃製ニ使用スル赤松其他ノ雜軸三ハ北清向キノ黃燐製ニ用フルポスト稱スル燐ノ短軸ニシテ四ハ専ラ中清漢口ニ向テ軸木ノ儘輸出スル所ノ槍ノ長軸是レナリ而シテ是等同縣ニ於ケル製軸業ハ一二ヲ除クノ外ハ何レモ其創業最近ニ屬スルモノ多キニモ拘ハラズ今ヤ工場ノ壯大ナル使用機械ノ精良ナル(原動力ハ蒸氣若クハ瓦斯)殆ント其比ヲ見ス産額ノ大ナル亦北海道若クハ東北地方ノ如キ多年從事セルモノヲ凌駕セントス前キニ記セル四種ノ軸木ノ内白楊ノ一等軸ハ其原料主トシテ北海道産船便ノ都合上冬期ハ小樽港ヨリ石狩國産ノ綿毬ノ夏期ハ網走港ヨリ北見國産ノ青毬ノヲ輸入スルヲ常トスニ係ルカ故材質ノ優良ナルハ同道製軸ニ異ナル所ナキノミナラス品様ノ均整シテ且ツ佳良ナル幾ント精巧ノ域ニ達セルヲ見ル今回ノ出品中築山八五郎ノ出品ノ如キハ殊ニ是等ノ諸點ニ於テ最モ傑出セルモノニシテ且ツ其産額ノ大ナル年々貳參拾餘萬圓ニ上リ工場ノ規模事業ノ組織共ニ甚々整頓シ今回優賞ニ入りシハ寔ニ其所ナルヲ知ルヘシ左ニ同人出品解説書ヲ轉載シテ參考ニ資ス

兵庫縣神戸市築山八五郎出品白楊細軸燐寸軸木同太同軸木燐寸軸木

解説書抄録

製造地 兵庫縣神戸市松原通七丁目一番地築山燐寸軸木製造所 工場 瓦葺及亞鉛葺煉瓦造八棟七百五十三坪瓦葺平家二棟百七十五坪 事務所 瓦葺二階建一棟三十一坪 瓦葺倉庫 六棟十二戸此坪數五百七十六坪計建坪一千五百三十五坪 乾燥用地 二千八百二十一坪五合四勺 原材料置場 千九百二十四坪總計六千二百八十坪五合四勺
原料 第一號及第二號ハ北海道産白楊樹丸太ヲ用ヒ第三號ハ同産樺木丸太材ヲ用フ
製造用品 自己考案ニ成レル器械刻キ二十二臺刻ミ二十五臺ヲ据付ケ二十五馬力蒸氣汽罐ニヨリ汽機ヲ運轉シ目下一日平均一俵四百把入ニシテ通例二百俵計ヲ製造シツ、アリ使役スル職工員數八百餘名
製造方法 他ノ製造場ニ於テハ概テ人力ニヨリ機械ノ運轉ヲナシ居ルモ當工場ノ特色ハ總テ蒸氣力ヲ以テ之レカ運用ヲナセリ
附言 其他細利ニ注意スルハ殊ニ本案唯一ノ秘訣ニシテ能ク全般ニ涉リ其心ヲ以テセサレハ結局何等ノ效果ヲ收ムル能ハサルヘシ左ハ拙者カ考案ニ出テタル手近キ一例ヲ示セルノミ他ハ茲ニ省畧セリ假令ハ板積ニ於テハ從來凡テ二尺五寸ノ丈ニシテ刻ミ臺ニ掛クルノ際前後各一寸計リノ切屑ヲ生セシモ之レカ廢物ヲ利セン爲メ其長ヲ三倍シ置キ更ニ之レヲ板積ノ一部ニ加フルナリ事項末ニ似タレトモ此節約ニ依リ目下當工場日々ノ製造

高ヨリ打算セハ優ニ參拾圓ノ收利ヲ得ツ、アリ
沿革 近年我邦輸出品中重要物産ノ一部ヲ占メ前途倍々好望ヲ有スルハ實ニ燐寸事業ニシテ而モ之レカ原料品タル軸木ハ全輸出價格ニ對スル十分ノ二、五乃至三ヲ要シ從前ハ總テ其供給ヲ北海道若クハ奥羽地方ニ仰キ居リシカ製品粗造且ツ不廉ナル等到底原料地ト製造地ト區分ノ必用ヲ感セシヨリ寧ロ集散ニ便ナル地ニ於テスルニ如カスト二十八年初メテ當市ニ之カ製造ヲ開始セリ乃チ先ツ原料地ナル北海道へハ當時最モ其產出ニ富メル北見國ヲ撰ミ人ヲ派シテ實地伐採搬出ノ衝ニ當ラシメ一方工場ヲ新開ノ土地兵庫運河ノ附近ニ設ケ以テ運送上ノ便ヲ計レリ又職工ハ市内多數ノ細民ヲ使役シ徐々之レカ事業ヲ營ミシカ幸ニシテ此計畫ハ機宜ニ適シ頗ル順調ニ進ムコトヲ得タリ尤モ拙者カ製造ノ軸木ハ在來品ト大ニ面目ヲ異ニシ能ク其倍數ノ條枝ヲ小函ニ容ル、ニ足ルモノニシテ凡ソ此等ニ對スル廢物利用若クハ器械改良上ニ付テノ考案ハ餘程苦心ノ結果ニシテ時ニ或ハ眠食ヲ忘ル、コトアリシカ果然細軸發明ノ效ハ忽チ海外各國燐寸需要者ノ好評ヲ博シ大ニ歡迎ヲ受クル所トナリ頓ニ需要ノ數ヲ増加シ倍々好況ヲ呈スルニ至レリ
茲ニ於テ工場ノ擴張原料増加ノ必要起リ内建造物ノ改築器械ノ増設職工ノ雇入等諸般ノ整備ヲ爲シ外原料收集ニ付テハ彼冬季航海ノ便惡シキ北見一國ヲ以テ最早永遠ノ供給地トナスニ足ラサルヨリ更ニ該道ハ鐵道沿線ニテ之レカ生産地ヲ探求シ三十一年始メテ石狩天鹽ノ國境タル上川地方ニ夥多ノ良材ヲ發見シ約ヲ調へ直ニ伐採搬出ニ著手現ニ今尙

ホ盛ニ其事ニ從ハシメリ凡ソ當時ニ於テ個人獨力此等ノ計畫ヲ試ミシモノ甚 稀ニシテ交通機關ノ全カラサル地ニアツテ辛苦經營終ニ克ク此目的ヲ達シタルハ只管忍耐熱心ノ效果トシテ今日自カラ許シテ多トスル所ナリ

然ルニ前記伐採ノ原材中ニハ從來ノ經驗ニ徴シ或ハ腐朽變質ノ恐レアリテ船車ノ便ニ據リ當地ニ廻送スルニ足ラサルモノアリ結局此等ハ廢物利用上同地ニ於テ其處分ヲナスノ得策ナルヲ以テ天鹽士別ノ出張所ニ附屬シテ假工場ヲ設ケ便宜製造ヲナサシメ以テ本店製品ノ補助ニ充テタリ

右畧陳候様ノ次第ニテ尙ホ將來事業ニ付テハ大ニ施設ヲ要スルモノ有之當地多數ノ製軸家中敢テ自カラ先覺者ヲ以テ任スル所ニ御座候

製造品ノ數量價格及其販路 明治二十八年ヨリ三十一年迄四箇年間製造數量六千七百二十萬把此價格六拾七萬貳千圓三十二年製造數量二千六百四十萬把此價格金貳拾九萬〇四百圓三十三年製造數量三千四百四十萬把此價格金參拾四萬五千四百圓三十四年製造數量四千〇八拾萬把此價格金四拾四萬八千八百圓三十五年製造數量參千五百八十萬把此價格參拾九萬參千八百圓也販路ハ總テ外國輸出品ナルモ燐寸用大阪へ九步地方へ一步ノ割合ナリ

效用 第一號及第二號ハ安全燐寸第三號ハ黃燐々寸ノ製造原料ニテ何レモ外國向タリ

燐材ヲ以テセル黃燐軸ハ主トシテ北清へ輸出スルモノニシテ其額甚タ少ナカラス原料材ハ

専ラ北海道産ニ係リ其材品白楊ノ佳良ナルニハ如カスト雖トモ價格低廉ニシテ販路廣ク軸木中ニ於ケル一ノ好種類タルヲ失ハス今回ノ出品中其品質ニ於テ甚タ好良ナルモノ少カラサルヲ得タリ漢口向ノ檜長軸ハ其原料材ハ主トシテ紀州尾州丹波及ヒ播州地方ニ仰キ總テ節多キ粗悪ナル小丸太材ナリ軸木中一種ノ異形ナルモノニシテ軸木ノ儘ニテ海外ニ出ルモノハ獨リ此一種ノミナリトス此種ノ製軸業ハ其創始以來既ニ五十六年ヲ經過セル所ナルニモ拘ハラス從來其販路ハ僅カニ漢口地方ニ限ラレタルカ如キ狀況ナルカ故ニ比較的其發達遲々トシテ未タ著シキ好績ナシト雖トモ近來漸ク其輸出額ノ増加ヲ來シ現ニ昨明治三十五年ノ如キハ拾七萬圓餘ノ多キニ達シタルヲ見レハ清國ニ於ケル燐寸製造業ノ發達ト共ニ漸ク其需要ノ増加スヘキヤ疑フヘキニアラサルナリ今回此種ノ軸木ノ出品ハ僅々三四點ニ過キスト雖トモ品質製造共ニ好良ニシテ定ニ其適良タルヲ見ル左ニ解説書ヲ拔萃シテ業況ノ一斑ヲ示スヘシ

之ヲ要スルニ其原料材ハ多クハ同縣産出ニアラスト雖トモ神戸港ハ燐寸製造業及其取引上ニ於テ最モ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ從テ軸木業ニ於テモ輸出向品様ノ適否ニ就テ最モ機敏ニ且ツ極メテ其真相ヲ知ルノ便アリトス希クハ將來益々其研鑽講究ヲ怠ラス以テ本邦有數ノ一大産物ニ向テ大ニ貢獻スル所アランコトヲ切望スルナリ

兵庫縣神戸市竹内棧藏出品檢問軸木檢一本半軸木解説書抄録

製造地 兵庫縣神戸市蘆原通四丁目五番屋敷製造工場瓦葺平屋八十八坪 同市松原通二

丁目二十九番屋敷瓦葺平家建七十六坪 同市松原通一丁目八番地瓦葺八十坪 總計二百四十五坪

原料 檜丸太紀州及尾張産大概二間物ニテ末口六寸以下ヲ用フ

製造用品 兵庫地方ニ於テ調製スル突刻器械ヲ用フ

製造方法 剝器械ノ製造法ト異リ俗ニ輸出軸ト稱スル製造法ニ依ル

沿革 明治二十年ノ創業ニシテ當時微々タル軸木ノ輸出ナリシカ漸次需要ノ多大ヲ來シタルカ故ニ事業ヲ擴張シ今哉三工場ヲ設置スルニ至ル

製造品ノ數量價格及其販路 明治三十二年數量 三百五十萬把 價格金四萬五千圓 明治三十三年數量 三百萬把 價格金參萬八千八百圓 明治三十四年數量 四百二十萬把、價格金五萬四千五百圓 明治三十五年數量 五百萬把 價格金六萬四千圓 販路 上海又ハ漢口へ輸出ス

效用 清國ニ於テ之レヲ折半シ黃燐々寸ノ軸木ニ供ス

褒賞 明治三十三年六月神戸市製産品評會ニ於テ三等賞ヲ受ク

審査請求 常ニ原料材ヲ精選シ且ツ厘角ノ正確ニ注意ス

愛知縣 梶子松ヲ以テ原料トナシタル軸木及函素地ノ出品ハ獨リ當縣ノミニシテ其材品ハ黃紅色ヲ帶ヒ赤松ト異リ輕ク短軸ボスノ如キハ幾ント搦原料ノモノト伯仲ノ間ニアリト雖トモ從來多クハ内地用トシテ赤松軸ト同用セラル、ニ過キス偶々其優良ナルモノハ輸出品

トシテ使用セラル、モノアリト雖トモ其産額多カラサル爲メ隨テ亦未タ多大ナラス今回ノ出品ハ其品質孰レモ佳ニシテ厘角モ亦好ク整一ヲ保チ殊ニ服部清太郎出品ノ姫子松太ボス及白楊太細ハ加工色澤共ニ甚タ佳良ニテ産額亦多ク優賞ニ擬セラレタリ左ニ其解説ヲ掲ケテ業態ノ一般ヲ示スヘシ因テ記ス姫子松ノ軸木ハ濕木ヲ吸收スルコト少ナキヲ特色トシ原料材ハ深山到ル處ニ生立スルヲ以テ十分利用ノ途ヲ講センニハ製軸上ニ更ニ一ノ生面ヲ開クニ至ルヘシ

愛知縣名古屋市正木町服部清太郎出品燐寸軸木解説書抄録

製造地 愛知縣名古屋市正木町五十番地ノ二 木造瓦葺平家工場 二棟此建坪六十六坪

木造瓦葺二階付倉庫 二棟此建坪三十三坪 木造瓦葺事務所 一棟此建坪六坪二合五

勻 干燥場 此建坪二百八十坪

原料品名 產地 姫子松 富山、信州、飛州産、ドロ 北海道、信州産

製造用品 中條式剝器械五臺 刻ミ器械大五臺、小七臺 兩引鋸三挺 西洋竈設ヘ付直徑

三尺五寸、大釜二箇

製造方法 長サ一丈五尺末差口七寸ヨリ一尺二三寸迄ノ木材ヲ以テ丈ケ七寸ニ切斷シ之

レヲ中條式剝器械ニ移シ而シテ板揃ヘヲ爲シ刻ミ器械ニ移ス此時始メテ軸木トナル之レ

ヲ干燥シ把ニ仕上ケ製品トナス

沿革 本業ヲ開始セシハ明治二十二年十一月ニシテ以來本業ヲシテ縣下ノ重要特産物タ

ラシメントノ目的ヲ以テ夫々手段ヲ講シ輸入品ノ一部ヲ防キ漸クニシテ現今ニテハ地方製造者ニ於テ使用スル原料ヲ補ヒ尙ホ輸出スルニ至ル今開業當時ノ産額ヲ對照スレハ左ノ如シ

開業當時一日産額 四百十入 十五叭

現今一日産額 同 五十叭

右ノ成績ナルヲ以テ到底從來ノ工場ニテハ狹隘ニシテ購入者ノ求メニ應スル能ハサルニヨリ本年六月前記工場ヲ新設シ一層營業擴張ニ著手シ尙ホ將來ハ一層規模ヲ擴張スルノ計畫ヲ以テ既ニ石油發動機ヲ据付ケ場所ヲ撰定シ當市専門家松井鐵工場ヘ之レカ購求契約ヲナシ不日其据付ケニ著手スルノ豫定ナリ

製造品ノ數量價格及其販路 明治三十二年(姫子松産額)四百五十六萬把此價格貳萬貳千八百圓同年(ドロ産額)百四十四萬把此價格壹萬貳千貳百四拾圓同三十三年(姫子松産額)三百六十把此價格壹萬九千八百圓同年(ドロ産額)二百十六萬把此價格壹萬八千九百圓同三十四年(姫子松産額)三百七十六萬八千把此價格貳萬貳千六百八圓同年(ドロ産額)二百五十九萬二千把此價格貳萬五千九百貳拾圓

販路地方 東京、神戸、伊勢、伊賀

效用 ドロ軸ハ貿易品ニシテ上等燐寸ノ原料ニ主用ス、姫子松軸ハ價格廉價ニシテ内國用燐寸ニ適スルト雖トモ細軸トシテハ輸入品ニ使用スルモノナリ

褒賞 明治三十四年十一月七日第五回愛知縣五二會品評會ニテ銅牌ヲ受領ス、同三十五年

五月十一日第六回愛知縣五二會品評會ニテ銅牌ヲ受領ス

審査請求ノ主眼 本店ニ於テ製出スル軸木ハ左記ノ特色ヲ具スルニヨリ高評ヲ博シ産額ヲ増加シ信用ヲ得ル原因ナレハ是等ニ就キ審査ヲ主眼トス

一、刀器ノ切口整ヘルコト

一、軸口方寸ニシテマツチ製造器械ニ適スルコト

一、品質ニ不同ナキコト及姫子松ハ價低廉ニシテ梅雨中ト雖トモ濕氣ヲ含ムコトナキ點官廳出品 今回御料局及巖手大林區署ヨリ軸木ニ關スル出品數點ヲ見タルハ甚タ有益ニシテ巖手大林區署所管坪毛澤園有林産とろ及大山澤園有林産やすニ就テ老樹とろハ樹齡約六十七年ニシテ胸高徑一尺七寸長十四間やすハ樹齡六十年胸高徑一尺長十一間幼樹とろハ樹齡十年ニシテ胸高徑七寸長十間やすハ樹齡四十年ニシテ胸高徑一尺長十一間幼樹とろハ樹齡約十年ニシテ胸高徑三寸長六間やすハ樹齡約二十三年胸高徑五寸長十間ノ三種ニ區別シタル原料材鑑軸木半製品及製品ヲ出品セリ外ニ内國向トシ需要多キ赤松原料ノ軸木同署管内影添園有林木ヨリ採製シタルモノヲモ出品シテ各其原木ノ材質并ニ系統的ニ其加工材ノ品質如何ヲモ併セ示シタルハ寔ニ其注意ノ周到ナルヲ見ル而シテ其材質何レモ佳良ニシテ軸木材トシテ幾ント些ノ缺點ナキヲ認ム惜ムラクハ其蓄積材量甚タ多カラス爲メニ此良材ヲシテ無限ノ需要ニ酬ユルヲ得セシメサルヲ當局者ノ須ラク其造殖ニ銳意盡瘁スル所アラシ

コトヲ要ス左ニ解説ノ一部ヲ抄録シテ參照トス御料局ヨリモ亦とろやまならししなのさ、板松蝦夷松ノ五種ヲ原料トナセル軸木及半成品ノ出品アリテ共ニ北海道御料林産出ニ係ルモノナリ何レモ其材品甚タ好良ニシテ軸木トシテ極メテ適材ナルヲ認ム

巖手大林區署出品とろやす原料燐寸軸木解説書抄録

林況ハ とろやす共ニ異ナル所ナク雜木林中ニ混生シ偶々群生スルモノアレトモ純林ハ多クハ谷ノ傍ヲ若シクハ山ノ半腹ニ天然ニ生立シ稚樹モ亦尠ナカラス

造林モ 亦兩樹種相等シク軸木ノ原料トスルトキハ伐木後直ニ幹技共ニ徑四寸以上ノ分ヲ長二尺七寸或ハ五尺四寸ニ小切リテ皮付丸太ノ儘山出シヲナシ工場ニ運フナリ

運搬ニ 於ケルモ亦相同シク概シテ不便ノ地ニアルヲ以テ工場ヲ林内若シクハ附近ヘ便宜ニ隨テ移轉設置スルノ例ナリ其所マテハ露水ニ依テ暖出シ管流シヲナシ或ハ牛馬人

力ニヨリ工場ヨリハ荷造シテ牛馬ニヨルナリ

效用 とろハ材質緻密ニシテ靱力ニ富ミ細角軸木トナスニ適シ點火容易ニシテ烟少ナク消火後直ニ灰トナルカ故殘火ノ危險少ナク材色白ク光澤美麗ニシテ變色シ難シ故ニ軸木トシテハ最モ好良ナリ又本材ハ眞田用經木材料トシテモ極メテ賞用セラル、所ナリやす軸木トシテとろニ劣ル點多ク色澤材質共ニ及ハス消火後直ニ灰トナラス其他種々ノ缺點アレトモ赤松はら等ノ軸木ニ優リ邊材ヨリ製セル細軸ハ海外向キニモ適ス本材ハ赤褐色ナル心材部多クシテ此部分ハ近來マテ軸木用トシテハ悉ク之ヲ棄却シタリシ

モ現今ニテハ内國用下等軸木トシテ之ヲ採ルニ至レリ

需要 巖手縣ヨリ他府縣ニ向テ輸出セルモノノ軸木ハ三十二年ニ四萬八千餘捆(一捆四百把入)三十三年ニ二萬八千餘捆三十四年ニ二萬八千餘捆ニシテやすノ他府縣ニ輸出セシ軸木量ハ三十二年ニ七千餘捆三十三年ニ七千七百捆三十四年ニ四千六百餘捆ナリシモ需要ノ度ハ年々益々加ハリ用途亦次第ニ廣マル見込ナリ産額益々ハ管内國有林ヨリ年々約千五百尺ベヲやすハ同シク毎年約七千尺ベヲ供給シ得ヘシ

價格 軸木ノ價格ハ變動多ク原料立木並ニアリテハ山元相場一尺ベ約四五拾錢以上やすニアリテハ同參四拾錢以上ナリ

備考 海外向軸木ハ細軸四厘五毛角ニシテ太軸ハ七厘角ナリトス並ニ材ハ約十年生ニ至レハ徑三四寸長五六間ニ達スヘク稍々軸木製作ニ堪フル大サナリ色澤極メテ美麗ニシテ材質靱力ニ富ミ最モ優品ヲ製シ得ヘキモ製作ニ手數ヲ要シ棄却スヘキ材部多ク一尺ベヨリ約三百把ノ軸木ヲ得ルニ過キス三十四年生徑七八寸長十間許ノ分ハ材質硬軟適度靱力色澤共ニ充分ニシテ製作モ亦最モ便ナリ軸木量モ亦多クシテ一尺ベヨリ約六七百把ヲ得ラルヘシ六七十年生徑一尺六七寸長十二三間トナルモノハ材質堅ク靱力光澤乏シク灰褐色ナル心材部多量トナリ且ツ太サニ於テ其儘普通ノ機械ニ掛ラサル杯ノ不便アリ軸木量ハ一尺ベノ材ヨリ約八九百把ヲ採製シ得ヘシ

ニ設ケ機械ノ運轉ハ水力又ハ蒸氣力ニヨル(一)運材シ來レル丸太ヲ九寸ノ長サニ切斷ス(二)之レカ皮ヲ剝キ(三)剝材機械ニ懸ケ幅一寸七分厚サ四厘五毛或ハ七厘ニ剝リ(四)剝キタル品ヲ心材邊材ノ別其他品質ニヨリテ分類シ木羽ヲ揃ヘ重子適當ノ長サ畧ホ三尺ニ切斷ス(五)更ニ綿密ニ木羽ヲ分類シ刻ムニ最モ適當ノ形ニ揃ヘシム(六)刻ミ器ニ掛ケテ厚サト同寸法ニ刻ム(七)刻ミタル軸木ヲ徑三寸五分丸束ニ木綿絲ヲ以テ結束シ晒シ板ニ入レ乾燥室ニ運フ(八)乾燥了レハ束子絲ヲ結ヒ直シ束ノ大ヲ更ニ整フ(九)四百束ヲ一捆トシ蓆ヲ以テ荷造ヲナス(十)冬期原料材ノ凍フル時ハ蒸氣ヲ以テ之ヲ蒸スナリ



地素箱 = 竝地素及木軸寸燐
品出縣庫兵及道海北

經木

我國ニ於ケル經木ノ廣ク海外ニ輸出セラレ且其製作上著シキ改良ヲ加ヘタルハ洵ニ近年ノ事ナリト雖トモ其内國ニ使用セラレタル年代ハ甚タ古ク且其用途モ亦廣シ而シテ此木材ノ薄片即チ匏削製品ヲ一般ニ經木ナル名詞ヲ以テ通稱セシ所以ハ蓋シ經文ヲ書スル木片ノ意義ナルヘシトノ説甚タ多數ニシテ稍々信ヲ措クニ足ランカ貝多羅葉ニ經文ヲ書スル印度ノ習俗ニ模シ薄木片ヲ經木ノ形狀ニ倣ヒ長方形ニ作り或ハ卒塔婆形ニ刻ミ之レニ經文ヲ書シ若シクハ法名ヲ記シテ施餓鬼ノ爲メ河水中ニ投スルノ舊例ハ高野山天王寺及其他ニ於テ之レヲ見ル而シテ其創始タル勿論佛法渡來以後ナルヘシト雖トモ本邦ニ於ケル經木ノ使用モ亦古シト謂フヘシ

往時ノ經木ハ甚タ粗製品ナリシコトハ想像ニ難カラスト雖トモ重ニ扁柏材ノ使用セラレタルコトハ亦事實ナルカ如シ元來檜材ハ加工容易ニシテ匏削スレハ光澤ヲ生シ且彈力ニ富ミ纖維甚タ強シ是レ各種ノ用途ニ好適スル所以ナリ今其從來經木用途ノ重ナルモノヲ擧クレハ都會ノ地ニ在テハ菓子料理等ノ食料品及其他ノ包裝現今此種ノモノニハ多ク樅其他ノ材ヲ用フニ廣ク使用セラレ會敷ノ別名アリテ常ニ櫛ノ上位ニ在リ又土佐、紀伊、信濃、加賀及其他ノ地方ニ於テ檜經木ヲ以テ製出スル筥、繩籠類ノ産額亦少カラス且加州産檜笠ノ如キハ甚タ精巧ヲ極メタルモノアリ孟蘭盆ノ舊例ニ依ル流燈及燈籠ノ如キ又明治初年ノ頃經木ヲ卷テ喇叭ヲ作りタルモノ一時非常ナル流行ヲ來セシ如キ各種ノ遊戯玩弄品ニ使用セララル、モノ

及近來經木織物ヲ以テ作ル座蒲團及枕ノ類モ亦甚タ少シトセサルナリ
夫レ經木(支那ニテハ此種ノモノヲ匏片ト稱スト云フ)ハ此ノ如ク從來種々ナル用途ニ需要セ
ラレタリト雖トモ元ヨリ粗製品多ク特ニ人目ヲ牽ク程ノモノ少カリシヲ以テ輕々看過セラ
レ永ク改良進歩ノ認ムヘキモノナカリシカ近年内國ニ於ケル需要ノ途愈々増加スルニ從ヒ
漸次改良ヲ加ヘ今ヤ全般ノ製品其面目ヲ一新スルニ至レリ殊ニ桐神代杉杉柾樟樺ノ玉杵等
良材ノ經木ヲ厚紙若クハ他ノ廉價ナル板類ニ貼附シテ函類其他ノ諸細工ニ使用セラル、モ
ノ、如キハ最近ノ進歩ト稱スヘキナリ然レトモ今之レヲ海外ニ輸出スル經木ニ比較スル時
ハ技術ノ點ニ於テ一步ヲ讓ラサルヘカラス即チ輸出品ハ其開始以來日尙ホ淺キニモ拘ハラ
ス外國需要者ノ刺戟ニ依リ絶エス斬新ナル工風ヲ凝シ常ニ改善ヲ加フルヲ以テ其發達進歩
ノ速ナル今ヤ其光澤色彩品質共ニ木材天然ノ美質ヲ彌々發顯シ來リ而カモ其美質タルヤ幾
多人士ノ苦心慘澹以テ製出セシ染織物ニ於テモ尙ホ且之ヲ見ルヲ得サル高雅ナル美觀ヲ呈
スルニ至レリ是レ寔ニ林產物中一大異彩ヲ放テルモノト云フヘシ
輸出經木ノ製造ニ使用セラル、原料ハ扁柏及白楊樹類最モ多ク羅漢柏、朴赤楊等之ニ亞ク而
シテ扁柏ノ製品ハ重ニ關西地方ニ限ラレタルモノ、如キ近江ノ工場ハ木曾産ヲ使用シ播丹
地方ハ各其原木所在地ニ小工場ヲ設ケ岡山及廣島地方ノ工場ニ於テハ重ニ土州産ヲ使用ス
白楊樹ノ製品ハ東北地方ノ產出最モ多ク羅漢柏ノ製品ハ青森地方ニ限レルハ是レ一ニ原木
供給上便否ノ然ラシムル所ナリトス今其製品即チ經木ノ種類ヲ大別スレハ平(東北ニテハ滑

ト云フ縮ミ類(東北ニテハ薄縮ミヲ霞ト云フ)しごき、千筋、萬筋、細繩等ニシテ更ニ之ヲ細別スレ
ハ其數極メテ多シ因ニ記ス檢しごきハ其儘上海ニ輸出スルモノ及織物原料トシテ使用セラ
ル、モノヲ合算セハ甚タ多額ヲ要シ而カモ此種類ハ扁柏ノ背板ヨリ其しらたヲ以テ製出ス
ルモノナレハ木材利用上洵ニ經濟的ノ事業ナリトス又是等各種ノ經木ヲ製作スルニハ普通
ノ匏ヲ用ヒテ削ルアリ或ハ大形匏ヲ据付ケテ突き出スモノアリ近者亦一種ノ器械匏發明セ
ラレ今回大阪市西區本田通銚工業鈴木善太郎ノ製造ニ係ルモノ出品アリ二等賞ヲ得タリ本
器械ノ製出スル厚縮ミノ如キハ到底手匏ノ及ハサル所ナリト雖モ前記ノ如キ正角ナラサル
扁柏ノ背板其儘ノ形狀ヨリしごき用ノ薄片若クハ長モノヲ製スルノ便ナキヲ以テ未タ廣ク
使用セラレサルナリ

今爰ニ參考ノ爲メ二三地方ノ調査ニ係ル或ル定量ノ原木ヨリ製出セラル、經木ノ數量ヲ揭
クレハ廣島縣下ニ於テハ原木尺 メ 一本十二立方尺ヨリ檢經木ハ七十五斤白楊ハ五十二斤四
分四厘朴ハ九十三斤五分六厘ヲ得ルト云フ東京地方ニ於テハ白楊樹尺 メ 一本ヨリ滑及縮ミ
類ナレハ七貫目(五十八斤三分三厘)乃至十貫目(八十三斤三分三厘)此枚數四千五百枚乃至六千
五百枚位ヲ得ヘク霞ミナレハ三貫目(二十五斤)乃至五貫目(四十一斤六分七厘)此枚數二萬枚乃
至四萬枚位ヲ得ルト云フ北海道函館地方ニ於テハ白楊材尺 メ 一本(一石二斗)ヨリ滑ハ七十二
斤霞ミハ三十六斤ヲ得ルト云フ而シテ同一種類ノ經木ニシテ此クノ如ク枚數ニ於テ甚シキ
差異アルハ經木其物ニ厚薄ノ差アルニ依ル又同一樹種ト雖トモ氣候、土地、樹齡、乾燥及取扱上

ノ關係ヨリ各地製品ノ斤量ニ於テ多少ノ差異アルハ亦免レサル所ナリ
 尙ホ經木ノ製品ニ就テ一言センニ前ニ述ヘシ各種類中縮ミ其他ノモノニシテ經木其儘輸出
 セラル、物ハ重ニ歐洲向ニシテ該地殊ニ伊國ニ於テハ同地產出ノモノト合シテ染色ヲ施シ
 眞田ニ組ミ更ニ米國其他ニ向ケ輸出セラル、ナリ又しむきハ米人ノ手ニ依リ一旦上海ニ輸
 送セラレ寧波附近ニ於テ低廉ナル支那勞力ニ依リ帽子ニ編ミ更ニ米國へ輸入セラル彼ノ地
 ニ於テ粗製帽一箇ノ編賃最高四錢半ニシテ本邦ハ最低五錢ナリト云フ又經木ノ半製品ナル
 眞田ハ平及縮ミヲ以テ組立テラレ履ミ及細繩ノ類ハ其裝飾ニ用ヒラル而シテ東北地方ニテ
 製出セル經木ハ東京附近重ニ大森地方ニ於テ關西地方ハ中國及四國ニ於テ眞田ニ編組ノ上
 重ニ英米兩國ニ向ケ輸出セラル又經木ヲ多分ニ使用シテ製作セラレタル大小ノ小函、盆等ハ
 滋賀縣甲賀郡水口町盛進社ニ於テ席物類ハ兵庫縣水上郡柏原町山大工場ニ於テ帽子類試製
 中ニ屬スルヲ以テ多額ナラスハ同町岸本工場ニ於テ製造セラレ孰レモ在神戸市外人商館ノ
 手ヲ經テ歐米ニ向ケ輸出セラル、ヲ常トセリ

今以上經木、眞田及他ノ製品ノ三種ヲ合算スルトキハ昨三十五年度ニ於ケル其輸出額ハ殆ン
 ト百萬圓ニ近カルヘキ盛況ニシテ其製産地域モ北ハ北海道ヨリ南ハ四國、中國ニ及ヒ二府十
 數縣ノ多キニ亘リ就中東北ニテハ巖手、青森地方關西ニテハ兵庫、廣島地方最モ盛ニシテ就中
 巖手ハ其工場三十五ニ及ヒ職工千七百五十人ノ多數ヲ有シ産額拾數萬圓ノ上ニアリ今ヤ全
 國ニ於ケル工場數九十五職工三千八百二十四人以上ニ達スルニ至レリ尙ホ奈良、宮城等工場

アルモ其數ノ詳カナラサルモノヲ除キ今其他ノ府縣應ニテ調査セシ經木工場及職工數ヲ列
 記スレハ左ノ如シ

| 府縣名 | 工場數 | 職工數 |
|-----|-----|-------|
| 青森 | 一五 | 三六五 |
| 巖手 | 三五 | 一、七五〇 |
| 東京 | 一五 | 六〇〇 |
| 長野 | 一一 | 二〇〇 |
| 滋賀 | 九 | 六〇 |
| 大坂 | 二 | 一〇〇 |
| 兵庫 | 二 | 八五 |
| 岡山 | 一 | 三九一 |
| 廣島 | 六 | 二四二 |
| 高島 | 四 | 一五 |
| 計 | 九五 | 三、八二四 |

(備考) 廣島縣下ニ於テハ製作季節ニ至レハ工場二十二職工千八百五十人ニ達スト云フ
 又兵庫縣下ニハ夥多ノ小工場アレトモ本表ニ記載セス

如此今ヤ漸ク盛況ヲ呈スルニ至リシト雖トモ其創業ニ當リテハ實ニ微々タルモノニシテ今
 ヲ去ルコト十七八年前播丹地方四國及其他一二箇所ニ於テ槍しむきヲ製出シテ上海へ輸出

セシヲ以テ嚙矢トシ白楊ハ十年前神奈川地方ニテ製出シ其産額モ少ク品質モ優良ナラス價格モ低廉ナリシカ其後尙ホ價格ノ低落ト共ニ遂ニ廢業スルモノ多ク僅カニ一二地方ニ於テ原料ノ廉ナルヲ以テ繼續スルニ過キサリシナリ爾來需要供給ノ關係其他經濟上ノ變動ニ從ヒ一與一廢ヲ免レサリシモ漸次外國注文増加シ昨三十五年ノ如キハ注文俄カニ増加セシ爲メ價格暴騰シテ非常ノ高價トナリシヲ以テ各地方競フテ開業スルニ至リ其輸出額一躍シテ九十三萬三千六十五斤此代金參拾七萬八千四百參拾圓ニ上レリ尙ホ其半製品タル眞田ニ付テ見レハ百三十三萬九百八十三束此代金四拾六萬六千參百八拾九圓ニシテ總計金額八拾四萬貳千八百拾九圓ノ多額ニ達セリ更ニ輸出ノ狀況ヲ知悉センカ爲メニ明治三十五年度ノ輸出國別表ヲ掲クレハ次ノ如シ

明治三十五年度薄葉木片(經木)輸出國別表

| 輸出國名 | 數量 | 價格 |
|---------|---------|-------------|
| 澳地利、匈牙利 | 八、七七〇 | 四、〇九一、〇〇〇 |
| 白耳義 | 三六、七六八 | 一一、七〇九、六五〇 |
| 支那 | 四六九、七二三 | 一四六、一九六、三八〇 |
| 佛蘭西 | 一〇八、八九七 | 五六、六二〇、三九〇 |
| 獨逸 | 三〇、五五四 | 一三、三七七、三四〇 |
| 英吉利 | 六九、五九三 | 八七、五八九、七三〇 |
| 香港 | 三五、四一四 | 一三、七八一、七二〇 |

| 輸出國名 | 數量 | 價格 |
|-------|---------|-------------|
| 伊太利 | 一五四、四八一 | 八二、二八六、六七〇 |
| 北米合衆國 | 一五、〇四六 | 八、七五一、七三〇 |
| 其他諸國 | 四、三九九 | 三、〇二六、〇〇〇 |
| 通計 | 九三三、六〇五 | 三七八、四三〇、六一〇 |

明治三十五年度柳サナダ(經木)輸出國別表

| 輸出國名 | 數量 | 價格 |
|--------|-----------|-------------|
| 英領亞米利加 | 二七、三二〇 | 九、六九二、七五〇 |
| 支那 | 一五、九二一 | 三、四〇五、四八〇 |
| 佛蘭西 | 一〇、一七二 | 四、七二五、四〇〇 |
| 獨逸 | 七、六七〇 | 五、五〇〇、〇〇〇 |
| 英吉利 | 二二六、三七九 | 一〇八、一一二、八三〇 |
| 香港 | 二二、一五八 | 一一、六〇二、三〇〇 |
| 北米合衆國 | 一、〇〇四、六三九 | 三二八、九五七、七三〇 |
| 其他諸國 | 五、七二四 | 二、三九三、四八〇 |
| 通計 | 一、三三〇、九八三 | 四六四、三八九、九七〇 |

本表ニ依テ之ヲ見レハ其輸出先ハ多クハ文明ノ中心開化ノ樞區タル歐米諸國ニアリト雖トモ由來該製品タル敢テ我國獨占ノモノニ非ス即チ我國ノ外經木ノ生産國ハ瑞西伊太利獨逸等ニシテ彼等ハ常ニ貿易ノ事情、風俗、習慣等ニ通曉スルヲ以テ嗜好ニ投シ流行ニ先ンズルノ便アリテ甚タ強敵ナリトス然レトモ本邦ニ在テハ好良ナル原料木ノ種類甚タ多ク且其材量

亦鮮少ナリトセス而カモ勞力ノ比較的低廉ナルモノアルカ故時ニ或ハ商況ノ不振ニ遭遇ス
ルコトアルモ決シテ之カ爲メ挫折逡巡シテ此好箇産物ノ發達ヲ怠ルヘカラス益々奮勵努力
シテ樹種ノ撰擇、品質ノ佳良、製作巧妙、價格ノ低廉等ニ注意シ漸次彼ノ製品ヲシテ市場ヨリ驅
逐スルノ覺悟ナカルヘカラサルナリ今參考ノ爲メ海外ノ商況ヲ大日本山林會報ニヨリ左ニ
抄録スヘシ

米獨伊國ニ於ケル經木薄片并ニ眞田商況

(山林會同令ニ) (對スル報告ニ) (外務省通商局)

一三十五年十月十日付在紐育帝國總領事館報告

當國ニ於ケル經木眞田ノ輸入高ハ漸次増加ノ傾向アレトモ統計ノ據ルヘキモノナク當國稅
關ニ於テ關製スル輸入品統計表中ニモ本品ハ帽子材料ト云フ名稱ノ下ニ麥稈眞田其他ノ混
同合算シアルヲ以テ其精確ナル輸入高ヲ知ルニ由ナシ然レトモ紐育ニ於ケル重ナル麥稈眞
田及本品輸入商ノ云フ所ニ據レハ其輸入高ハ帽子材料全輸入高ノ二割乃至二割五分位ナル
ヘシトノコトナリ而シテ當港ニ於ケル明治三十三年、三十四年及本年一月以降六月ニ至ル麥稈眞田
及帽子材料ノ當港輸入高ハ左ノ如シ

明治三十三年 五二一、二三六弗

同 三十四年 五二九、四四九弗

同 三十五年 自一月至六月 二一九、二六四弗

前記價格中二割乃至二割五分ヲ本品ノ價格ト見テ差支ナカルヘシ

經木眞田需要ノ目的ハ殆ント皆婦人用帽子製造ノ材料ニ供セラル、モノトス目下當市ニ於
ケル帽子製造所ニ使用スル本品ハ伊太利產其大部分ヲ占メ本邦製ハ漸ク近年ニ至リ伊太利
製ノ需要地ヲ侵蝕シツ、アリ現今日伊兩國產需要ノ割合ハ日本產一伊國產三位ナラント云
フ當市場ニ於ケル本邦產ハ素地多ク伊國產品中ニハ染分ノモノアレトモ右ハ近來賣口少ク
單口素地ノ方賣口多シト云フ又從來ハ編方幅廣ノモノ、ミナリシカ來ル季節ニハ幅狹キ方
多少流行スルナラントハ當業一般ノ豫想ナルカ如シ要スルニ本品ハ麥稈眞田ト同シク「フハ
ン」高ヨリハ單純ナル「ステール」高方賣行夥シ

茲ニ最近流行ノ經木眞田ノ見本及相場ヲ擧クレハ左ノ如シ(見本并ニ相場表等ハ橫濱商業會
議所ヘ送附シ置キタリ編者附記)

右ハ(表ハ橫濱商業會議所ニ送附シ
タルヲ以テ本紙ニ掲載シ得ス)昨今當地ニ於ケル經木眞田ノ概價ヲ記セシニ止マルモ其昂落

ハ一ニ生産地ニ於ケル仕入直段ニ基ツクモノナレハ當業者ハ左ノ計算法ニ據リ本邦仕入地
ニ於ケル相場ヲ以テ當地ニ於ケル價格ヲ算出スルコトヲ得ヘシ

一金九百圓也

經木眞田十函原價、但每函三百束入、一函ノ大サ十八「キ」ト「ピ」ク「フ」イト

一金拾五圓也

十函荷作費、但每函壹圓五拾錢ノ割

一金五圓〇貳錢也

領事證明手数料

一金拾圓也

船積費用

一金六拾七圓五拾錢也

「コンミッション」但七分半ノ割

一金五圓五拾錢也

保險料壹百圓ニ付五拾錢ノ割但此保險金額壹千壹百圓也

小計壹千參百貳錢也

此米貨六百六弗五拾參仙也但換算相場五拾仙半

以上ハ日本ニ於ケル諸勘定トス

一米貨四拾五弗也

右横濱紐育間運賃但百八十立方呎ヲ一噸トス

一米貨六拾八弗六拾參仙也

原價四百五拾七弗ニ對スル一割五分ノ輸入税

一米貨八弗也

通關手續費用

小計百貳拾壹弗六拾參仙也

右ノ計算ニ據レハ本邦ニ於ケル經木眞田ノ原價每束參拾錢ノモノハ當地ニ於テ米貨貳拾壹仙トナル勘定ナリ

經木薄片ハ多ク佛國ヲ經由シテ當國ニ輸入シタリシカ近來ハ本邦ヨリ多少直接ノ輸入アリ去レトモ其額ハ尙ホ僅少ニシテ或ル當業者ノ說ニヨレハ價格壹千弗(年額)内外ニ止マレリト云フ本品ノ用途ハ全ク婦人帽子ノ縁飾ニ供スルモノナリ婦人帽子ノ縁飾ハ曾テ専ラ白絹ヲ使用セシモ其費用ヲ節約スル爲メ見本第七號ノ如キ「ラミー」ヲ以テ之ニ代用セシカ其後更ニ今回大日本山林會ヨリ送附セル如キ經木薄片ヲ以テ之ヲ代用スルニ至リタルモノトス尙ホ茲ニ當業者參考ノ爲メ附記スヘキハ日本製經木薄片ヲ清國へ輸出シ別封ヲ以テ送附セル見本第一號ノ如キ帽子ヲ製造シ更ラニ之ヲ當國ニ輸出スルモノアリ該品ハ取扱人カ當國ニテ三割ノ輸入税ヲ拂ヒ其運賃保險等一切ノ費用ヲ支辨シタル上尙ホ相當ノ利潤ヲ見積リ昨今當地ノ相場一打ニ付壹弗五拾仙ナリトス然ルニ當地當業者ハ其原料日本品ナルニヨリ曾テ在本邦出張員ニ該品見本ヲ送リテ其仕入方ヲ命シタルモ本邦商ハ日本渡シ參圓ノ高値ヲ請求シ到底引合ハサルニヨリ依然清商ヨリ仕入レ居レリト云フ又別封見本第二號ハ矢張り清國產ニテ前記經木製帽子ト同様一切ノ費用并ニ相當ノ利潤ヲ計算シテ當地渡シ毎打五拾仙ナリト云フ右ハ何レモ婦人帽子ニ用フルモノニシテ勿論店頭ニ排列シテ顧客ノ需要ニ充ツル迄ニハ之ヲ精白ニシ或ハ染色スル等尙ホ幾多ノ加工ヲ要スルモノナリトス別封見本第三號ハ當地ニ輸入セル日本產經木薄片ナリトス(見本ハ山林會ニアリ)

一三十五年九月五日付在シカゴ帝國領事館報告

當國ニテハ右薄片ヲ其肉ノ原薄形狀ニヨリ「シエーピング」チップ「スクラップ」ト唱へ種々ノ名稱ヲ附スレトモ要スルニ其用途ハ一ニシテ之ヲ別封見本(見本ハ山林會ノ如ク各種ノ組織(Brand)ヘ返送シタリ)ニ編織シ婦人用帽子ノ原料ニ使用ス其輸入先ハ伊太利、瑞西、日本、支那、南洋諸島ニシテ薄片ノ儘若シクハ「Brand」ニ編上ケタルモノヲ輸入ス伊太利、瑞西ハ重ニ後者ヲ日本、支那等ヨリハ前者ヲ輸入シ當國ニテ夫々意匠ニ應シテ編織ス當市ニ於テ本品ヲ取扱フ向ハ婦人用帽子製造者ニシテ紐育ノ仲買人ヲ經テ買入レ直輸ヲナサ、ルヲ以テ其年々當市ニ入來ル高ハ税關及商業會議所ニ就テ取調フルモ判然セス元來婦人帽子ノ原料ニハ夏季ハ麥稈眞田ヲ春秋二季ハ近來重ニ經木薄片ヲ使用スルコト流行セリ從テ當市ニ於テモ不尠ル高ヲ消費スル由ニシテ過日當市「ゲーヂ」兄弟商會ノ原料買入掛リニ面會ノ節談偶々薄片直輸入ノ件ニ及ヒタルカ今日ノ所ニテハ日本、支那ノ本品製造者ハ未タ當國ノ事情ニ通セサル點多キヲ以テ或ハ注文者ニ満足ヲ與ヘサルヤノ慮アルニ反シ在紐育仲買人ハ其事情ニ精通スルヲ以テ彼等ノ手ヲ經テ買入ル、トキハ些ノ不便ナク適當ノ品ヲ得ラル、ニ依リ多少ノ口錢ヲ仕拂フモ結局其方利益ナリ左レトモ直接製造者ヨリ買入ル、ニ至ル機アルヘキヲ信ス云々查スルニ本品ハ前途甚タ有望ナルヘシト信ス

當市ニ於ケル重ナル婦人用帽子製造者ハ左ノ四店ナリ

M. Rich Henry & Co.,

122 Wabash Ave., Chicago.

Sage Brothers & Co.,

129-131 Michigan Ave.,

D. B. Fisk & Co.,

130 Wabash Ave.,

Edson Keith & Co.,

132-134 Michigan Ave.,

一三十五年九月十八日付在桑港帝國領事館報告

經木薄片ノ用途 當國ニ於ケル本品ノ用途ハ帽子用各種ノ眞田ニ使用セララル、モノニシテ從來本邦ヨリ當國ニ輸入セラレタルコトアリシカ其需要至テ僅少ナリ聞ク所ニヨレハ二箇年前佛獨兩國ニ於テ其使用盛ンナリシニヨリ昨年中當國ニモ輸入ヲ務メタルモノアリシカ終ニ成功セサリシト云フ

小函裝飾用薄片ハ當國ニ於テ漸ク需要アレトモ當國ハ勞働賃高キカ故ニ該薄片ノ仕上賃嵩ムニ因リ有利ナル商品トナスコト困難ナリシカゴ市ノ重ナル當業者ニシテ當國當業中第五位ヲ占ムル商店ニ於テモ昨年ノ使用高ハ僅カニ參拾弗ヲ過キス本年中ノ使用高モ百弗ヲ超ヘサルヘシト云フ

北米ニ於ケル經木ノ狀況ハ概略上來記述セル所ノ如シト雖トモ歐洲大陸ニ於ケル狀況ハ未

タ之ニ關スル十分ノ調査等アラサルヲ以テ詳知スルニ由ナク加之本品ノ輸出ハ悉ク神戸、横濱兩港ニ於ケル外國商館ノ手ヲ經山シ幾ント直輸出ニ係ルモノナキヲ以テ彼ノ地ニ於ケル需要ノ程度并ニ市場ノ價格販路擴張上重要ナル點ニ就テハ當業者ハ殆ント其歸スル所ヲ知ラサルモノ、如シ故ニ刻下ノ急務ハ常ニ彼ノ地ニ於ケル實況ヲ探究報告スルコトヲ努メサルヘカラス

今回經木ノ出品ハ其區域二府十縣ノ多キニ及ヒタルモ其點數僅ニ六十四點ニシテ出品人員十九名ニ過キス殊ニ北海道及神奈川、愛知二縣ノ出品ハ内地向包裝用ノ經木ナルヲ以テ輸出經木ノ出品者ハ全ク十六名ナリトス然レトモ前來記述セシカ如ク輸出經木ノ發達ハ近年ノコトニ屬スルカ故本品ノ出品ハ實ニ今回ヲ以テ嚆矢トシ而カモ是レ等ノ出品者ハ孰レモ地方ニ有數ナル工場ノ所有者ニシテ所謂各地ニ於ケル斯業ノ粹ヲ拔キタルモノナレハ事業ノ一般ヲ知悉スルノ便利ヲ得タリ加之出品者十九名ノ内十三名ハ賞格ニ入り且比較的高等ノ授賞者多カリシハ初回ノ出品トシテハ洵ニ好績ヲ奏シタルモノニシテ即チ亦本部出品中ノ一光彩タルヲ失ハサル所ナリ今左ニ府縣別出品及授賞點數表ヲ掲ケテ尙ホ其主ナルモノニ就キ更ニ評記スル所アルヘシ

經木府縣別出品數出品人員及授賞數一覽表

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 授賞數 | | | | 計 | 備考 |
|-----|------|------|-----|----|----|----|---|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 愛知 | 六 | 一 | | | | | 一 | |
| 神奈川 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 北海道 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 北陸 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 島根 | 二 | 一 | | | | | 二 | |
| 廣島 | 九 | 一 | | | | | 九 | |
| 岡山 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 兵庫 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 大分 | 五 | 一 | | | | | 五 | |
| 滋賀 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 長野 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 東海 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 東京 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 手取 | 一 | 一 | | | | | 一 | |
| 合 | 六四 | 一九 | 二 | 三 | 八 | 一三 | | |

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | 三等 | 褒狀 | 計 | 備考 |
|-----|------|------|----|----|----|----|----|----|---|----|
| 愛知 | 六 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 神奈川 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 北海道 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 北陸 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 島根 | 二 | 一 | | | | | | | 二 | |
| 廣島 | 九 | 一 | | | | | | | 九 | |
| 岡山 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 兵庫 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 大分 | 五 | 一 | | | | | | | 五 | |
| 滋賀 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 長野 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 東海 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 東京 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 手取 | 一 | 一 | | | | | | | 一 | |
| 合 | 六四 | 一九 | 二 | 三 | 八 | 一三 | | | | |

嶺手縣 同縣下ニハ白楊樹多量ニ産スルヲ以テ製出スル經木ハ一ニ白楊ニ限レルモノ、如シ今回ノ出品亦然リ而シテ其種類ハ僅ニ浦田命助出品中ニ平縮ミ(最モ薄キ霞ニシテ恰モ眞綿ノ如シ)ノ一點アリシノミ餘ハ悉ク滑ノ細物ナリ其幅ハ二ミリ、三ミリ、三ミリ、三、五ミリ、六ミリ半及八ミリノ六種ニシテ是レ等ハ總テ東京ニ輸送シテ眞田ニ編織セラル而シテ以上出品中二三ノ精巧ナル良品ヲ認メタリト雖トモ尙ホ一般技術ノ進歩ヲ望マサルヘカラス又浦田ノ出品中赤、黄、紫、藍ノ染色ヲ施シタルモノアリシカ其淡濃光澤等果シテ外人ノ嗜好ニ適スル

ヤ否疑ナキ能ハス且温氣ニ接スレハ多少褪色スルノ恐アリ尙ホ研究ヲ要スヘシ今ヤ同縣ニハ三十五箇所ノ工場アリテ白楊専門ノ經木ヲ產出シ年額拾數萬圓ニ達セリト云フ然レトモ工場ノ規模ハ寧ロ小ナルモノ、ミナルヲ以テ今回ノ出品者五名ノ内授賞者ハ四名ノ多キニ及ヒタルモ孰レモ褒狀ノミニシテ高等ノ賞格ニ入りシモノナカリシハ誠ニ惜ムヘシトス左ニ一二ノ解説書ヲ抄録シテ該地方ニ於ケル事業ノ一斑ヲ示スヘシ

巖手縣盛岡市浦田命助出品經木解説書抄録

製造地 巖手縣盛岡市東中野

製造場 木造二階家二棟六十四坪

原料 白楊木 巖手縣巖手郡產

製造用品 鋸鉋(樺長サ三尺幅四寸ノ臺ヲ付ケ突口ノ先一寸八分ノ處ニ二メートルノ針ヲ据付ク)

製造法 白楊木ヲ現出品ノ長サニ切斷シ短冊形ニ挽割リ之ヲ鉋臺ニ載セ突出シ汚點其他瑕疵ナキモノヲ擇ヒ小把トナシテ乾燥シタル後尙ホ二貫匁ヲ一把トナシ萬力ニ掛ケ堅ク結束ス

沿革 明治三十二年開業以來繼續營業ヲナス

製造品ノ數量、價格及其販路
數量價格 明治二十二年 二百七十箇 價格金千五百貳拾圓

| | | | | |
|---|------|-----------------------------|---|----------|
| 同 | 三十三年 | 五百四十箇 | 同 | 金貳千貳百四拾圓 |
| 同 | 三十四年 | 七百二十箇 | 同 | 金四千參百貳拾圓 |
| 同 | 三十五年 | 九百箇 <small>一箇五十斤</small> | 同 | 金五千四百圓 |

販路 東京市

效用 夏帽子製造ニ用ヒラル

兵庫縣 同縣ニ於ケル營業者ハ現時水上郡柏原町ニ於ケル山大及岸本ノ二工場ニ過キスト雖トモ兩者共ニ播丹地方ニ散在スル數十箇所ノ分工場ヲ有シ且神戸市ニ近キ便アリテ常ニ直接外商ノ注文ヲ受ケ傍ヲ男女ノ帽子及席物類ノ織物等ニ從事セルヲ以テ業務甚タ盛大ナリ今回ノ出品ハ扁柏及白楊ノ平縮ミ共ニ佳良ニシテ殊ニ槍しごきノ如キハ孰レモ製作巧妙ニ且品質甚タ好良ナリ又山大工場ハ上海行槍しごきノ荷造セシモノ大小數箇ヲ出陳シテ海外輸出運送ノ方法ヲ示セル如キハ其用意誠ニ周到ナリト云フヘシ左ニ山大(二等賞岸本(三等賞)ノ解説書ヲ抄録シテ參考ニ供ス

兵庫縣水上郡柏原町山大工場出品槍及ヒ白木鉋屑槍織物解説書抄録

製造地 兵庫縣水上郡柏原町内柏原新町千六十八番地山大商店工場ニ於テ製造シ其工場ノ建坪及構造左ノ如シ

工場木造三階付瓦葺 間口七間奥行十一間 一棟 事務所木造二階付瓦葺 間口五間奥行六間半 一棟 染場木造瓦葺平家 間口二間奥行二間半 一棟 木挽工場木造瓦葺平

家 間口八間興行四間 壹棟

此他水上郡内十五箇所京都府下天田郡福知山、同府下船井郡須知村、同府下何鹿郡綾部町、滋賀縣甲賀郡水口町、鳥取縣八頭郡智頭村ニ各一箇所宛分工場ヲ設置シ製造ヲナス

原料 檜ハ本邦内ノ産其品質ノ佳良運搬ノ利便ニ於テ最モ適當スト雖トモ近時本業ノ隆盛ニ伴ヒ價格昂上ノ憂アルヲ以テ京都府下天田郡本縣多可郡多紀郡等ヨリ集收シ白楊樹

ニ在テハ主トシテ但馬村岡附近ノ物ヲ使用製造ス

製造用品 本業ハ單純ナル加工品ナルヲ以テ格段ナル器械ノ裝置ヲ要セスト雖トモ織物ニ在テハ織機及竹ヲ以テ製シタル箴及線ヲ要シ出品目錄第一號ヨリ第十號ニ至ル各種ハ

銳利ナル鉋ト一種ノ裝置ヲ施シタル鉋ヲ用フ

製造方法 檜材ヲ原料トシテ用フル者第八號及第九號ヲ除ク外(コロ)即チ白キ部分ヲ裁斷面ノ一側ヨリ適宜ノ厚サニ削ラシム其變形シタル第五號第六號ノ如キハ鉋ニ一種ノ裝置ヲ施シ木片ヲ壓迫シテ各種ノ形狀ニ變セシム織物ニ在テハ經緯共ニ削工ヲシテ削落サシメタル薄片ヲ一括シテ揉伸セシメ織機ニ上シ織上ルモノトス

沿革 本出品ノ内織物類ハ明治十五六年頃當時京都貿易雜貨製造家タル金商店ト合議創意ニ成リ各所ニ製造ヲ試ミタル處爾來當工場ノ織物ハ色澤ノ純白ナルト品質ノ佳良ナルハ斯業中ニ一頭地ヲ抽キ丹波生地ノ通稱ヲ得ルニ至ル又第一號乃至第四號及ヒ第十號ノ出品ハ明治二十五年頃當工場ノ創案ニ成リ試ミニ小數ノ數量ヲ神戸ノ商館ニ輸出シタル

ニ幸ニ嗜好ニ投シ佛國馬耳塞及ヒ上海ニ輸出セラル、ニ至リ時ニ乘シテ續々同業者ヲ生シ半途是等同業者カ非常劣等品ヲ輸出シタルヲ以テ一時殆ント輸出ノ途ヲ失スルニ至リ其間當工場ハ一意品質ノ改善ニ勉メ日夜輸出ノ復舊ニ勵ミ或ハ直チニ上海ニ其販路ヲ求メ或ハ神戸ノ五十六番館フレザー商會及九十九番館米國貿易商會ノ手ヲ經テ委託販賣ヲ試ミ專ラ目前ノ小利ニ汲々ラス非常ノ損失ト非常ノ苦心トヲ賭シテ生産額ノ減少ト價格ノ不廉ヲ防キ殆ント倒産ノ逆境ニ陥リタルコト一再ニ止マラス然レトモ能ク忍耐刻苦ノ結果茲ニ一道ノ光明ヲ得タリ即明治三十二年前記ノ二商館及ヒ在上海ノ日本領事館ヨリ前途好望ノ報告ヲ得爾來益々品質ノ改善ニ留意シ勉メテ注文期日ヲ愆マラサルヲ期シ銳意經營其效ヲ奏シ明治三十三年以降注文頻繁大ヒニ信用ヲ博シ當工場ノ製品ハ一般雜貨ノ貿易販賣ニ免レサル品質ノ検査ヲ受ケス我商標アルモノハ外人ノ確信ヲ得俵裝ノ儘輸出セラル、ノ幸運ニ際シ今ヤ新ニ本品企望ノ諸外人ハ橫濱其他ノ居留地商館へ輸出ノ注文ヲ爲シ各地居留地商館ハ本品ノ主商地ト稱シ多ク兵庫縣丹波ヲ的トシ來リ當工場ニ蠅集スル海外ノ華客日ニ月ニ多ク年々其數量ヲ増加スルニ至レリ

製造品ノ數量價格及其販路 本品ヲ創製シタル已來沿革ノ項ニ陳述シタル如ク一時其販路ヲ中止スルノ不幸ニ陥リタレトモ熱心ト忍耐ノ結果年々著シク其數量ヲ増加シ既往五箇年間ニ於ケル製造高及價格販路ハ左ノ如シ

| 年 別 | 數 量 | 價 格 | 輸 出 先 |
|--------|------------|-----------|-----------|
| 明治三十一年 | 九千八百四十斤 | 千五百七拾四圓餘 | 上海、馬耳塞、香港 |
| 同 三十二年 | 五萬七千六百斤 | 九千七百九拾貳圓 | 倫敦、新嘉坡、紐育 |
| 同 三十三年 | 十一萬七千八百四十斤 | 貳萬千貳百拾壹圓餘 | 桑港、セノア |
| 同 三十四年 | 二十三萬七千六百斤 | 四萬七千五百貳拾圓 | 安多厄布 |
| 同 三十五年 | 四十一萬二千斤 | 九萬四千七百六拾圓 | 同 |

效用 本出品ハ出品ノ儘需要者ノ手ニ移ル者ニ非スシテ織物ヲ除ク外悉ク加工再製ヲナス者ノ如シ其中七八ハ之ヲ上海ニ輸送シ支那人ノ手ニ之ヲ帽子ニ編マシメ歐米各國ニ輸出シ其一部ハ佛國又ハ以太利等ニ直送ス而シテ其帽子タル最モ輕量ニシテ柔軟價格廉ニシテ一種ノ雅致ニ富ミ婦人及ヒ小兒ノ所用トシテ歡迎セラル殊ニ海水浴用ニ適シ其柔軟ナルカ爲メ頭顱ニ附著シ風波ニ奪ハル、恐レ少ナク其輕量ナルカ爲メ頭部ニ感覺ヲ受クル頗ル微而シテ其廉價ナルハ更改ヲ屢々スルニ得易ラシム依テ浴客ノ歡迎スル所以ナリ

審査請求主眼 貿易品ハ最モ其產額ノ多量ヲ要スル者ナルハ論ヲ俟タズ殊ニ其用途ノ帽子ナルニ於テハ多大ノ製産ヲ爲スニ非ラサレハ以テ其需要ヲ充ス能ハス隨テ販路ノ擴張得テ望ムヘキニ非ス而ルニ本品ノ如キハ創始日尙ホ淺ク未タ世人ノ皆知セサル處產額ノ僅少固ヨリ怪ムニ足ラス是レ御審査ヲ得度第一

貿易品カ常ニ蹊躓ヲ來ス所以ノ者製品濫造必ス其一ニアリ當工場ハ本品創意以來十年一日ノ如ク終始非常ノ艱難刻苦ヲ經テ漸ク今日アルヲ致セリ今ヤ本出品ノ供給ハ需要ヲ充スヲ得ス前途益々多望ナルニ際シ一種ノ奸商其間ニ奇利ヲ博セント試ミ製造家ヲ誘フテ早ク已ニ濫造ノ弊ヲ演セシメントス以テ黨黨混淆ノ恐レアリ此レ御審査ヲ得度第二

本出品ノ如キ其發達ノ幼稚ナル未タ世人カ疑懼ノ念ニ驅ラレ容易ニ手ヲ下シ資ヲ投スルヲ肯ンセス然レトモ其實操業頗ル簡易ニシテ世ノ細民ヲ利用スルノ多キ且ツ原料槍ハ我國豊富ナル特殊ノ木材ニシテ加之殆ント其建築用材トシテ使用シ得ラレサル部分ノ原料トシテ使用シ得特ニ第七號乃至第九號出品白楊樹ノ如キ薪炭材ニスラ使用セラレサル原料ヲ以テ製造シ得ルカ如キ最モ其發達伸張ヲ扶掖獎勵スヘキ國家的遺利收集ノ事業是レ御審査ヲ得度第三

本出品カ帽子ノ原料トシテ(一)價格ノ廉ナル(二)其重量ノ輕量ナル(三)其ノ質ノ柔軟能ク屈折ニ堪フル(四)一種ノ雅致ニ富メル(五)其耐久ノ麥稗真田ニ劣ラサル其特色ノ發揮ヲ得度此レ御審査ヲ得度第四

本出品カ發達ニ伴ヒ細民ヲ利スルノ多大ナル老若男女ヲ撰ハス多々辨スルノ益決シテ生絲事業ニ讓ラス併セテ地方山林事業ニ間接ニ一大新面目ナル裨益ヲ與フル等本業カ内地ニ與フル特色此レ御審査ヲ得度第五

幸ニ世人ノ注意ヲ喚起シ能ク事業ノ性質ヲ紹介シ各地ニ正實ナル同業者ヲ得テ相互提携

扶助本業ノ擴張ニ資セハ獨リ當工場ノ利益ナルノミナラス 國家ノ利益亦鮮少ニ非サルナリ此レ審査ヲ得度第六

兵庫縣丹波國水上郡柏原町ノ内古市場町岸本儀三郎出品
檜鉋屑解書抄録

製造地 兵庫縣水上郡柏原町工場 建坪五十坪二階付
外ニ四十五箇所ノ分工場及一手販賣特約工場ヲ設置セリ
産地 全國ニ生スルト雖トモ殊ニ三丹州ハ最モ多クシテ光澤及色合且ツ粘力等他ニ比類ナシ

製造用品 鉋

製造方法 適宜ノ原料ヲ生木ノ儘鉋ニテ品質ニ依リ厚薄、細廣或ハ縮等ニ削リ是ヲ揃へ干カスモノニシテ自己ノ實驗上案出ニ係ルモノナリ
沿革 明治二十五年最初檜織物業ヲ開始セシカ該鉋屑ノ光澤及色合且ツ堅緊ニシテ其用途ノ廣キヲ考へ同二十六年神戸市居留地ノ商館ニ囑託シ簡單ナル見本ヲ輸送セシカ幸ニシテ同年八月ニ若干注文ヲ受ケ其後注文到來次項表ノ如ク漸次増大シテ輸出シ來リ明治三十二年ニ到リ阪鶴鐵道線ノ開設ヲ得テ其運搬ニ便ナルト共ニ製品改良大ニ進歩シ從テ需要ノ途廣マリ其販路モ擴張シ爲ニ産出額ヲ増大スルノ必要トナリ郡内所々ニ工場ヲ開設セシメ勞働男女ヲシテ廣ク此業ニ就カシメ今日ニ至リテハ郡内ノ主産物トシテ耻ナサ

ルノ盛業トナリ猶ホ進ンテ他郡ニ及ホシ目下ノ如キハ勞働者ノ缺乏ヲ感シ爲メニ篠山監獄署ニ出願シ縣下ノ囚人ヲ借用シ就業セシムル迄ニ到リ猶ホ益々前途有望ノ傾向ナリ
製造品ノ數量、價格及其販路 神戸及横濱ノ各商館ニ依頼シ支那國上海ニ輸出

| 年次 | 數量 | 價格 |
|--------|---------|----------|
| 明治二十六年 | 1,000斤 | 150.00 |
| 明治二十七年 | 1,500斤 | 200.00 |
| 明治二十八年 | 1,800斤 | 280.00 |
| 明治二十九年 | 3,000斤 | 510.00 |
| 三十年 | 5,000斤 | 800.00 |
| 三十一年 | 10,000斤 | 1,600.00 |
| 三十二年 | 8,000斤 | 1,400.00 |
| 三十三年 | 10,000斤 | 1,900.00 |
| 三十四年 | 10,000斤 | 4,000.00 |
| 三十五年 | 4,800斤 | 9,000.00 |

效用 純白ニシテ粘力及光澤ニ富ミ且著色自由ナレハ多ク夏帽子其他諸種細工品織物等ニ應用ス

廣島縣 本縣下ニ於ケル工場ハ平常ハ六箇所ナルモ製作最盛ノ季節ニ至レハ二十二箇所ニ増加スト云フ然レトモ今同ノ出品者ハ備後國福山町ノ清水豐太郎一名ノミナリシヲ以テ見レハ此多數ノ工場ハ同人ニ聯絡アル分工場類似ノモノニハ非ラサルカ同人ノ出品ハ十二點ニシテ其種類ハ別紙解説書ニ記載シアル各種ノ内稍々異リタルモノヲ類別シ長三尺ニ取揃ヘタルモノナリ本品ハ二等賞ヲ得且宮内省ノ御用品トナルノ榮ヲ荷ヒタル所ニシテ何レモ其製作ノ巧妙ナル意匠ノ斬新ナル品質ノ高雅ナル他ニ其類ヲ見ス殊ニ檜幅三寸ノ薄縮ミ千筋、細繩及白楊平薄ノ如キハ最モ精巧ヲ極メ寔ニ經木出品中ノ白眉ニシテ林業館中ニ異彩ヲ放ツモノト稱スルヲ得ヘシ因ニ記ス關西地方ニ於テ使用スル白楊樹ハ中小木ノミナルヲ以テ純白ニシテ且光澤ニ富ミ其製品ノ美麗ナル東北産白楊樹ノ良ニ及ハサルハ是レ該地方ニ

於テハ重ニ大中木ヲ使用スルノ故ノミナラス専ラ氣候ノ然ラシムル所ナラント思考セラル
、ナリ

廣島縣備後國深安郡福山町清水豊太郎出品經木解説書抄録

製造地 廣島縣備後國深安郡福山町字新町四十九番邸

原料 檜材(產地ハ高知縣土佐國山柳村(產地ハ廣島縣備後國))

製造用品 鉋

製造方法 寸法ヲ定メ板ニ挽キ鉋シ普通大工ノ削ル如ク鉋ニテ削リ落セシヲ一枚ツ、揃
ヘ束トナス

沿革 本業ノ創始ハ明治二十五年ニアリテ始メハ麥稈真田ノ中へ編ミ入ルヘキ普通ノ鉋
層ニ過キサリシモ同二十八年ニ至リ鉋ニ改良ヲ加ヘ漸ク縮ミ削ヲ爲スニ至リタリ元來經
木ニ製造スヘキ木材ノ種類ハ山柳(胃柳)檜材ノ三種ナルモ就中山柳樹ハ薪炭ノ原料トモナ
ラス木材ニモ爲スヘカラス殆ント廢物ニ等シキモノ(近時漸ク燐寸軸木トシテ使用スルニ
至リシモ其製額甚ク僅少ナリ)ハ重モニ此原料ヲ使用スルコト、セリ然ルニ山柳樹ハ潤濕
ノ性アルヲ以テ春季彼岸ヨリ秋季彼岸ニ至ルノ間草木發芽期ノ候ニ在テハ變色ヲ免レス
隨テ製造モ石發芽期ヲ除キテ冬期ニ於テセサルヘカラス故ニ二十八年以降三十二年迄ノ
製出高ヲ閱スルニ平均一箇年千三百三十貫目ニ過キス本製造者ハ之ヲ以テ頗ル遺憾ナリト
シ此間種々苦心經營ヲ積ミタル結果明治三十三年ニ至リ薰蒸漂白ノ方法ヲ案出シ數次改

良ヲ加ヘ爰ニ初メテ變色ノ憂ヲ免レタリ故ニ同年ヨリ同三十五年ニ至ル三箇年ノ産額ハ
平均一箇年一萬七千八百七十五貫目ニシテ之ヲ薰蒸漂白法實行前ニ比較セハ實ニ十五倍
強ノ増加ナリトス夫レ斯ノ如ク一方製出品ノ増額ヲ偉大ナラシムルト共ニ鉋ニ數次ノ改
良ヲ加ヘ益々製品ノ改善ヲ圖リタレハ同年秋ニ至リ佛國へ輸出シタルニ幸ニモ同國人ノ
嗜好ニ適シ爾來年々ノ輸出額増加シ即チ前掲ノ製造額ニ達シタリ本品ハ主トシテ裝飾用
及織物原料トシテ使用セラル、モノ、如ク超ヘテ同三十四年十月ニ至リ販路ハ彌々擴張
セラレ伊多利國其他獨英米諸國へノ輸出ヲ見ルニ至レリ而シテ製品及販路ノ進歩ハ今日
モ銳意擴張シ目下海外諸國ニ見本ヲ送致シ尙ホ近時網目製出ノ鉋ヲ創造シテ更ニ製品ニ
一光彩ヲ放ツニ至レリ

製造品數量、價格及販路

| | |
|---------------------|------------|
| 明治三十三年製造高柳中薄縮四百貫目 | 此價格貳千四百圓 |
| 柳極薄縮七百二十貫目 | 同 四千百四圓 |
| 柳平薄八百五十貫目 | 同 貳千九百四拾壹圓 |
| 柳ヒシコギ六百四十貫目 | 同 千四百七拾貳圓 |
| 柳改良縮五百六十貫目 | 同 貳千五百貳拾圓 |
| 明治三十四年製造高柳中薄縮二千四百貫目 | 同 壹萬五千六百圓 |
| 柳極薄縮一千八百五十貫目 | 同 壹萬貳千貳拾五圓 |

| | | |
|---------------------|---|------------|
| 柳中薄縮五千六百貫目 | 同 | 此價格貳千五百五拾圓 |
| 柳極薄縮一千八百六十貫目 | 同 | 參萬貳千四百八拾圓 |
| 柳平薄五千六百貫目 | 同 | 壹萬七百八拾八圓 |
| 柳ヒシコギ四千三百貫目 | 同 | 壹萬九千四拾圓 |
| 柳改良縮千七百七十貫目 | 同 | 壹萬千八百八拾圓 |
| 明治三十五年製造高槍中薄縮四千五百貫目 | 同 | 七千七百八拾八圓 |
| 槍極薄縮二千五百貫目 | 同 | 貳萬七千圓 |
| 槍ヒシコギ三千二百貫目 | 同 | 壹萬五千五百圓 |
| 槍引付縮四百八十貫目 | 同 | 八千圓 |
| 槍中薄縮七千八百貫目 | 同 | 貳千七拾八圓四拾錢 |
| 槍千筋二百四十貫目 | 同 | 四萬參千六百八拾圓 |
| 槍繩十六貫目 | 同 | 千五拾六圓 |
| 柳極薄縮二千六百五十貫目 | 同 | 百貳拾八圓 |
| 柳平薄百六十貫目 | 同 | 壹萬四千四拾五圓 |
| 柳ヒシコギ二千八百八十貫目 | 同 | 五百六拾圓 |
| 柳改良縮千六百四十貫目 | 同 | 七千貳百圓 |
| | 同 | 七千百壹圓貳拾錢 |

朴中薄縮百六十貫目

同 五百六拾圓

販路ハ佛、伊、獨、英、米各國

效用 帽子裝飾及織物等ノ原料真田用トス

審査請求ノ主眼 本製品原料ハ山柳、檜、朴ノ三種ナルカ就中山柳樹ハ他ニ使用ノ途乏シク殆ント廢物ニ近キモノナルニ之ヲ以テ佛、伊、獨、英、米各國人ノ嗜好ニ恰適セル裝飾及織物ノ原料ヲ製造輸出シ目下二萬六千二百二十六貫目ノ輸出高トナルノミナラス前途尙ホ増加ノ模様アリ

蒸蒸漂白法ヲ創始シテ明治三十三年以後ノ製造ハ其以前ノ十五倍強ニ増加セシメタリ元來本製品ノ重モナル原料タル山柳樹ハ潤濕ノ性質アルヲ以テ毎年春季ヨリ秋季ニ至ル發芽期ニ變色ヲ來シ爲メニ其期間ニ製造ヲ止メタルニ前記ノ蒸蒸漂白法ニ依リ年中間斷ナク製造シ得ルニ至リ隨テ前記ノ如ク其產額ヲ増加セリ

製造用飽ニ數次ノ改良ヲ加ヘ柄柄ヲ自由ニ削出スルニ至リ爲メニ佛、伊、獨、英、米各國人ノ嗜好ニ適シ裝飾及織物用トシテ海外諸國ニ輸出セシムルニ至リ實ニ國益ヲ増進スル前途有

製ノ製造品ナリ

官廳出品 經木ノ出品ハ青森及高知ノ二大林區署ニ過キス然レトモ青森縣下ニハ十有五箇

所ノ製作工場アルニモ拘ハラス今同一點ノ出品モアラサリシヲ以テ纔カニ同大林區署ノ出品ニ依テ該縣下ニ於ケル經木ノ樹種製作法及品質ノ一端ヲ知り得タルハ誠ニ多トスル所ナ

リ今其出品ノ種類ヲ舉クレハすべし、こき、ちみ、かすみ、きすか、ありちみ、おほやま、こきしばり、かすみこき、なめらこき、ちみこき等ト稱スル十數種ニシテ其點數數十點ノ多キニ及ヘリ是レ等ハ重ニ該地方ノ特有産タル羅漢柏ト白楊樹ヲ以テ製作セラレ神代杉ヲ原料トナセシモノ僅ニ一二點ニ過キス本品ハ三戸郡八戸町龜勝工場ノ製作ニ係リ孰レモ雅美ニシテ且巧妙ナリ就中薄霞ハ眞綿ヲ薄ク引伸ハシタルカ如ク萬筋ハ細キコト絹絲ノ如ク如何ニシテ此ク微妙ニ製作セラレタルカヲ疑ハシムル程精巧ヲ極メタリ高知大林區署ヨリハ高知市某工場製ニ係ル扁柏及白楊樹ノ製品數點ノ出陳アリ重ニしごき及眞田用細平ノ類ニシテ甚々精巧ナラサルモ白楊製品ノ如キハ純白ニシテ佳麗ナリ其他特ニ記スヘキ點ヲ認メス參考ノ爲メ左ニ青森大林區署ノ出品解説書ヲ掲クヘシ

經木各種解説

本品ニ就テノ要旨 眞田材料ノ經木トシテ青森ひのき材、羅漢柏及ぞろ材ノ品質及色澤等ヲ示スモノナリ

製作 經木ノ種類ハ殆ント百種ニモ上リ之レカ製作方一樣ナラサルモ要スルニ厚木ハ普通長一尺二寸乃至二尺幅一二寸乃至四五寸ニ小切り之レヲ飽ニテ削リ製ス但縮ミタル經木ヲ製スルニハ特種ノ飽ヲ要スルモノニシテ本品ハ宮坂勝藏專賣特許番號第四五六七號ノ飽ヲ用ヒテ製シタリ

效用 青森ひのきは木理通直材色淡黄ナルカ故之レヨリ製スル經木ハ美麗ナル一種ノ黄

金色ヲ呈シ從來眞田材料トシテ賞用セラル、所ノ白色清妍ナルぞろ材ト共ニ頗ル高尚雅

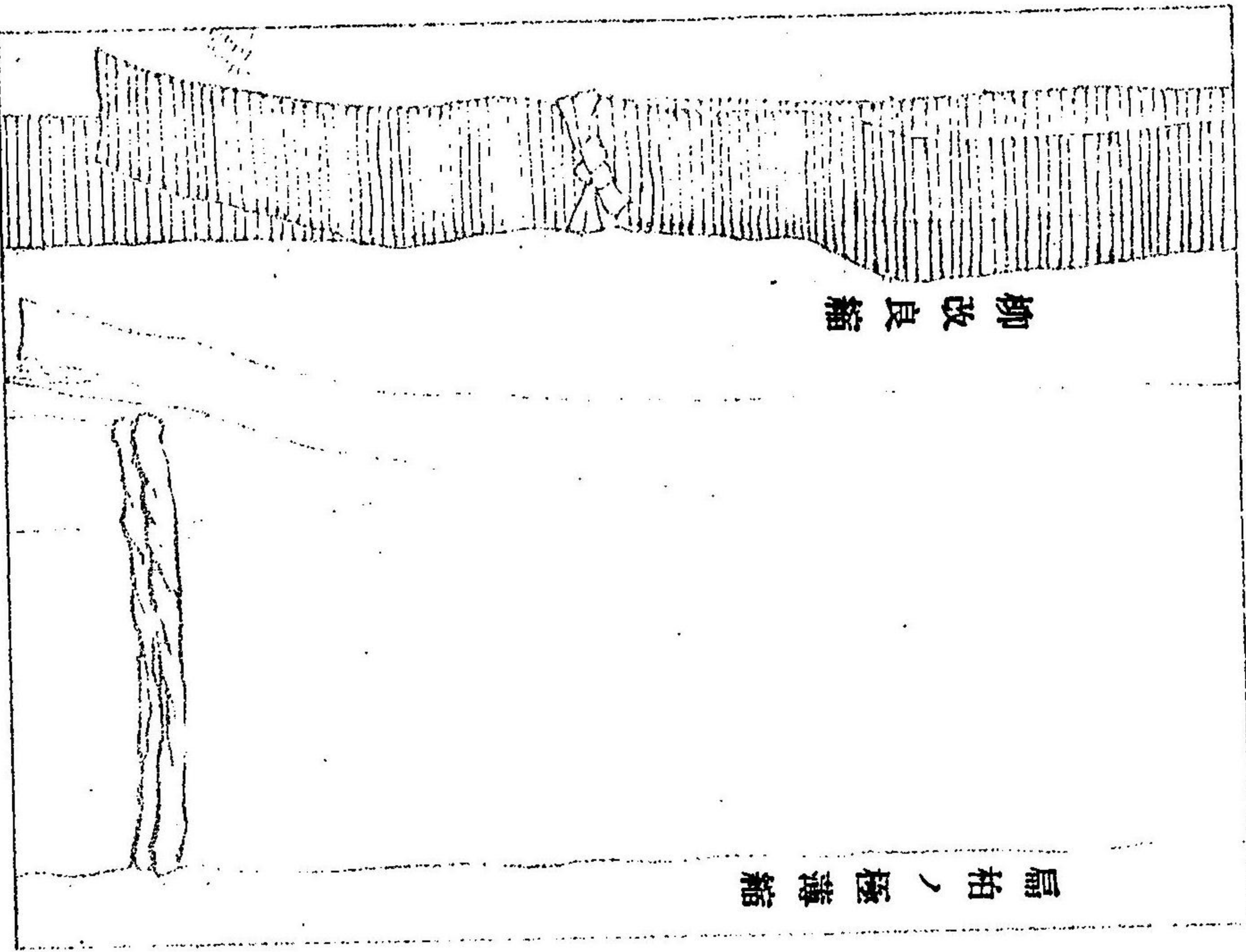
致ニ富ム

備考 本品ハ東京市日本橋區西河岸町宮坂勝藏所有ノ青森縣三戸郡八戸町龜勝經木製造工場ニテ製作シタルモノニシテ青森ひのき材ノ經木ハ明治三十五年三月初メテ此工場ニ於テ製作シ爾來需要甚々多シト云フ

經木ノ寫生

一

其



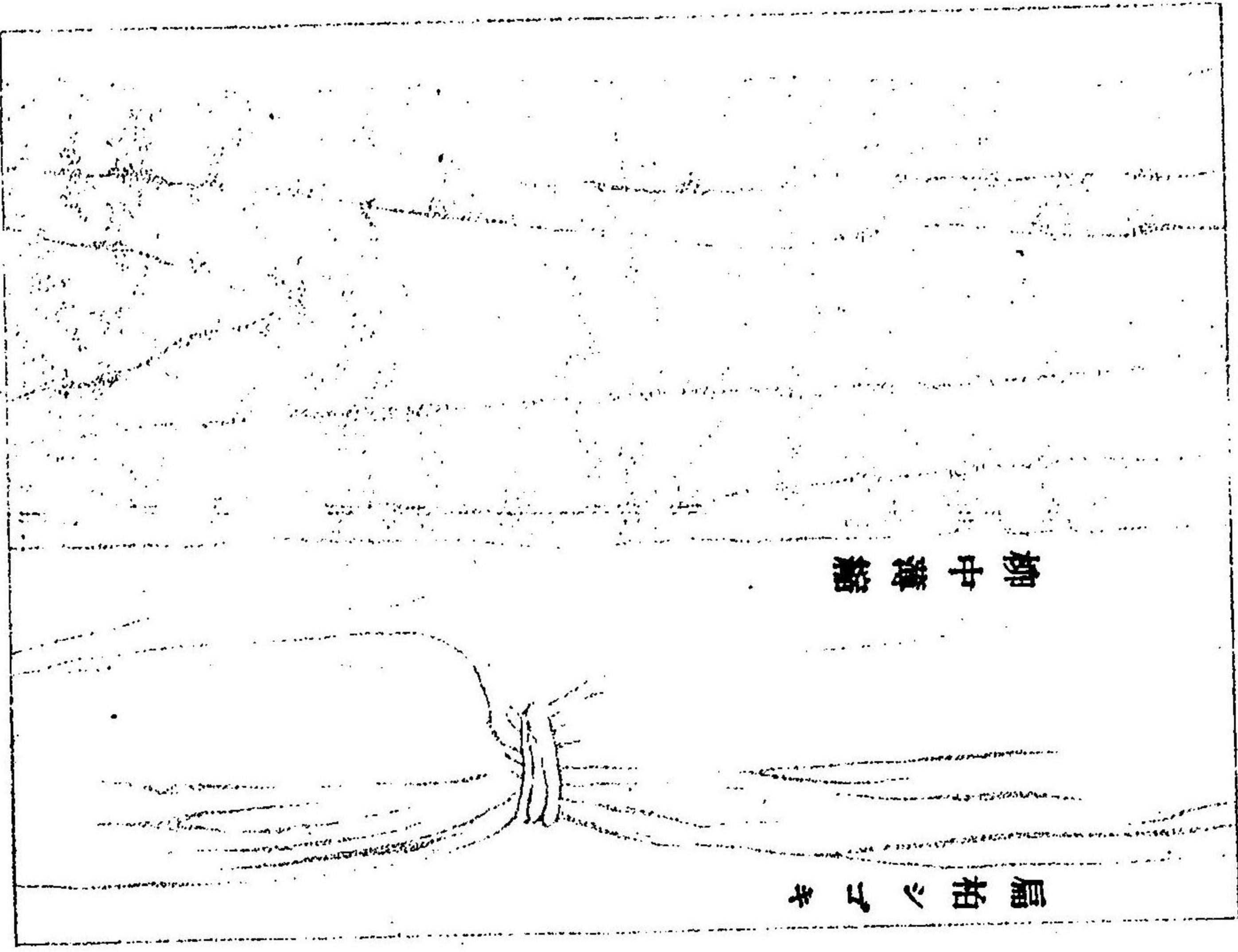
(廣島縣若水豐太郎出品)

上

同

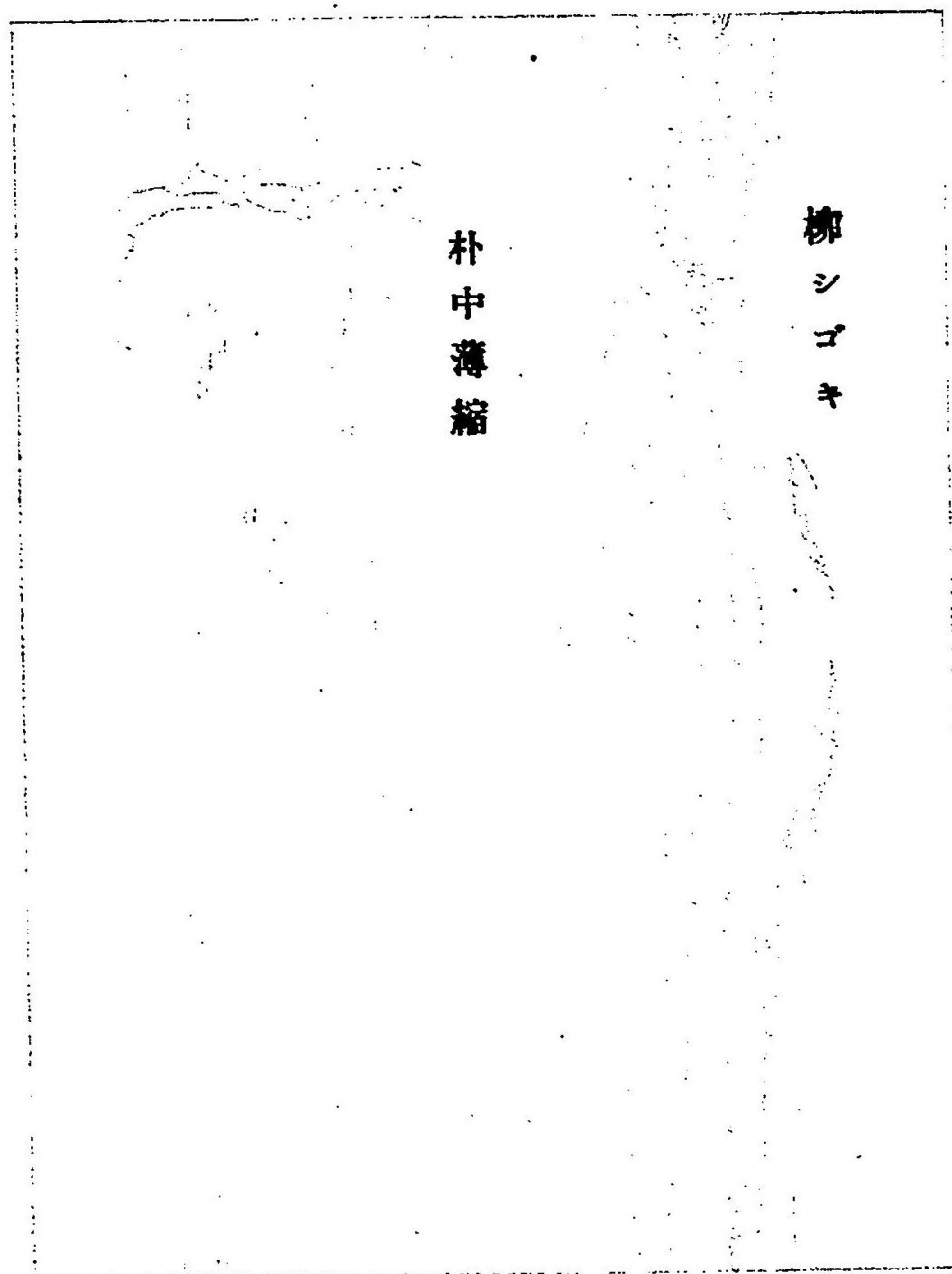
二

其



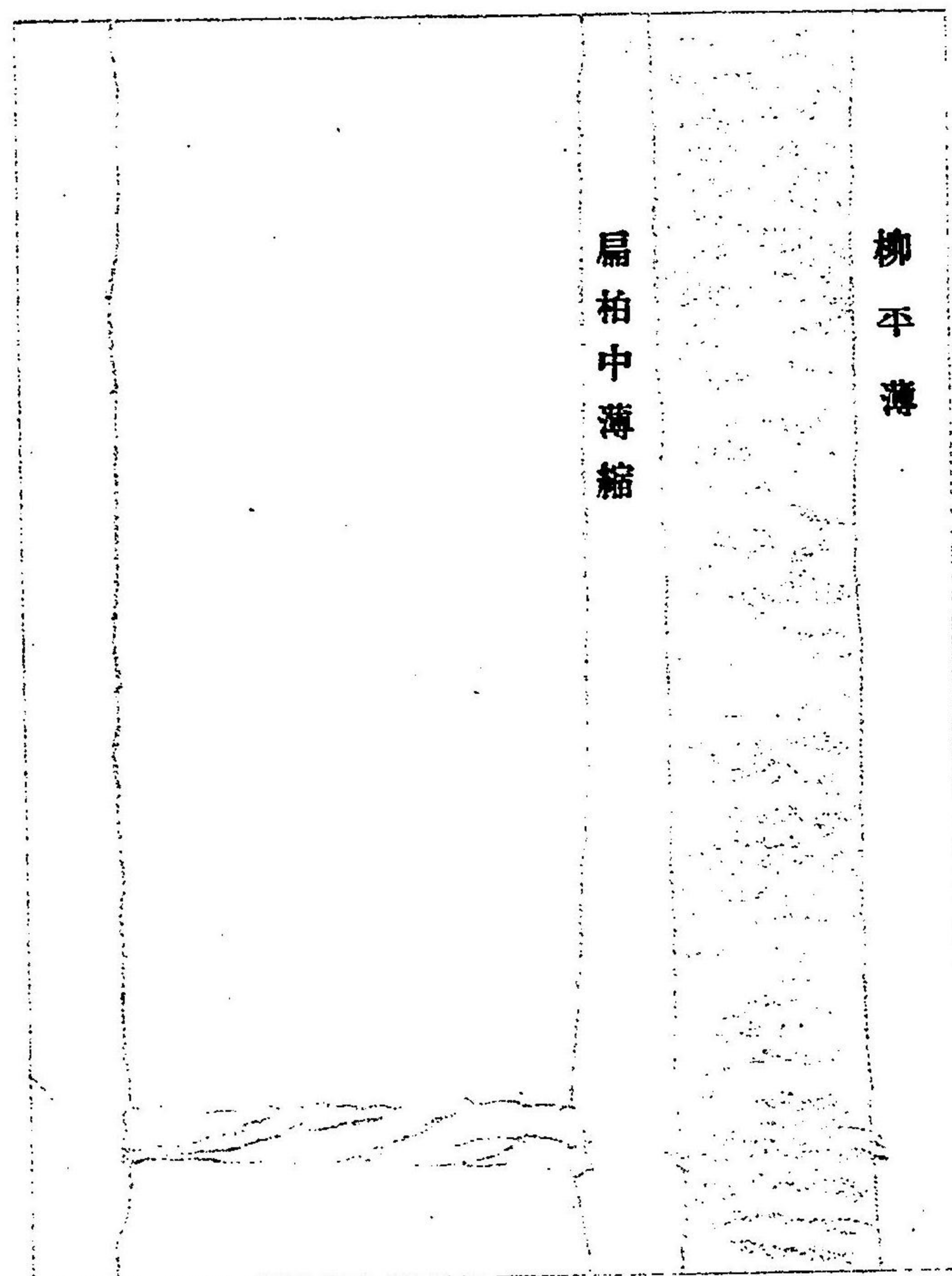
(同上)

上 同
四 其

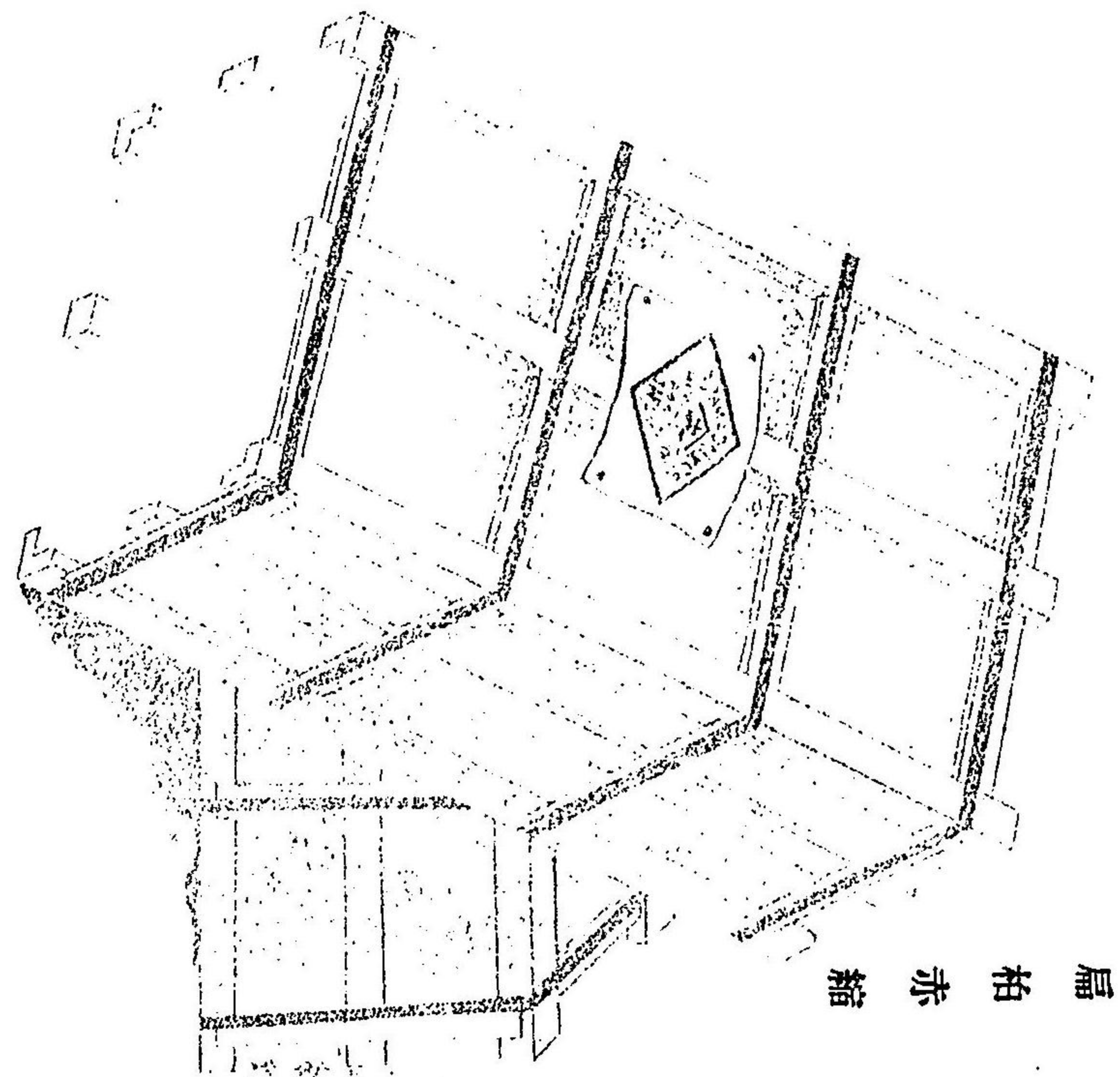


(同)
上

上 同
三 其



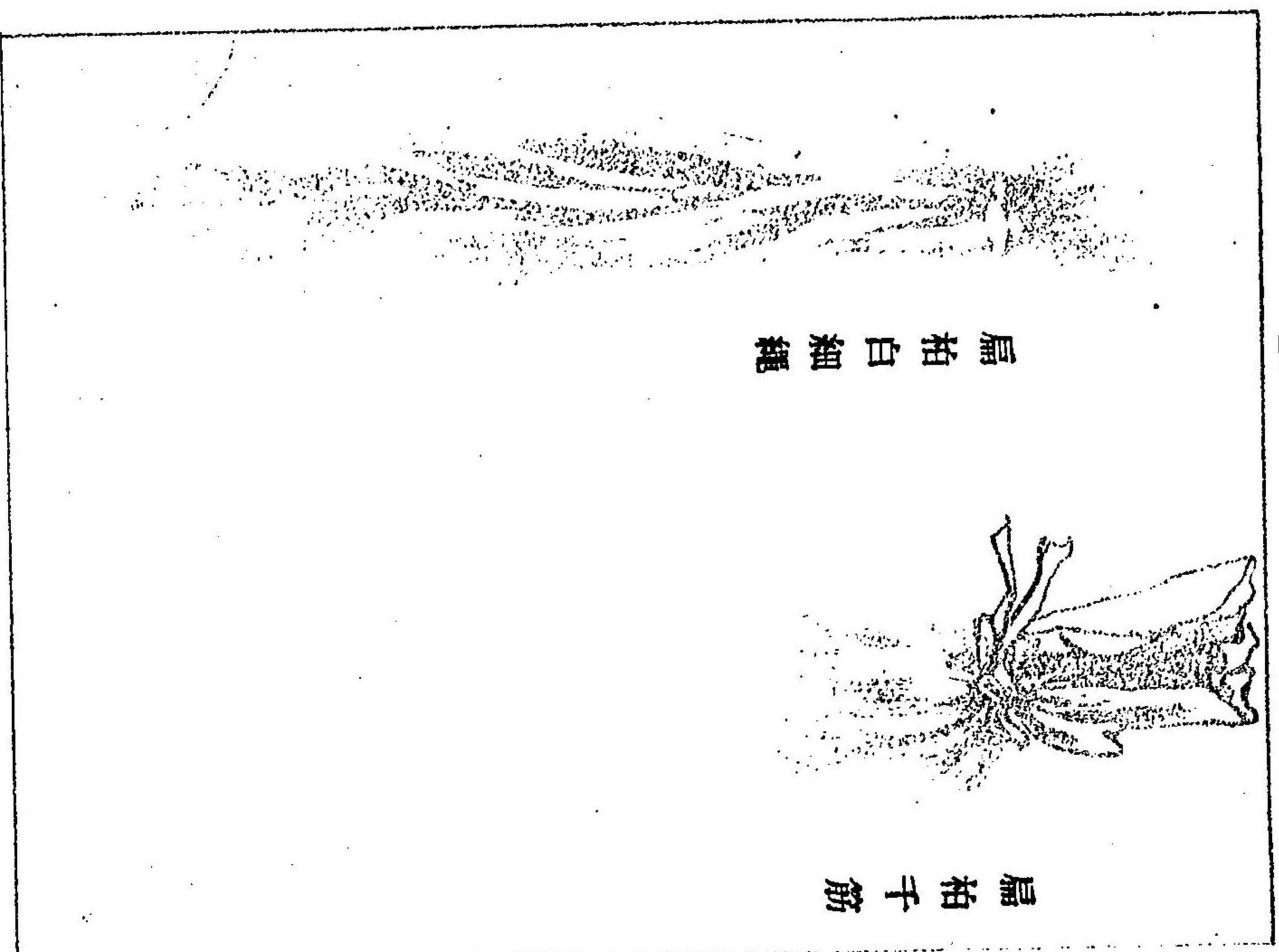
(同)
上



扁柏赤箱

(系原漆柏原 山工場出品)

上 同
(樣仕造荷木經出輪)

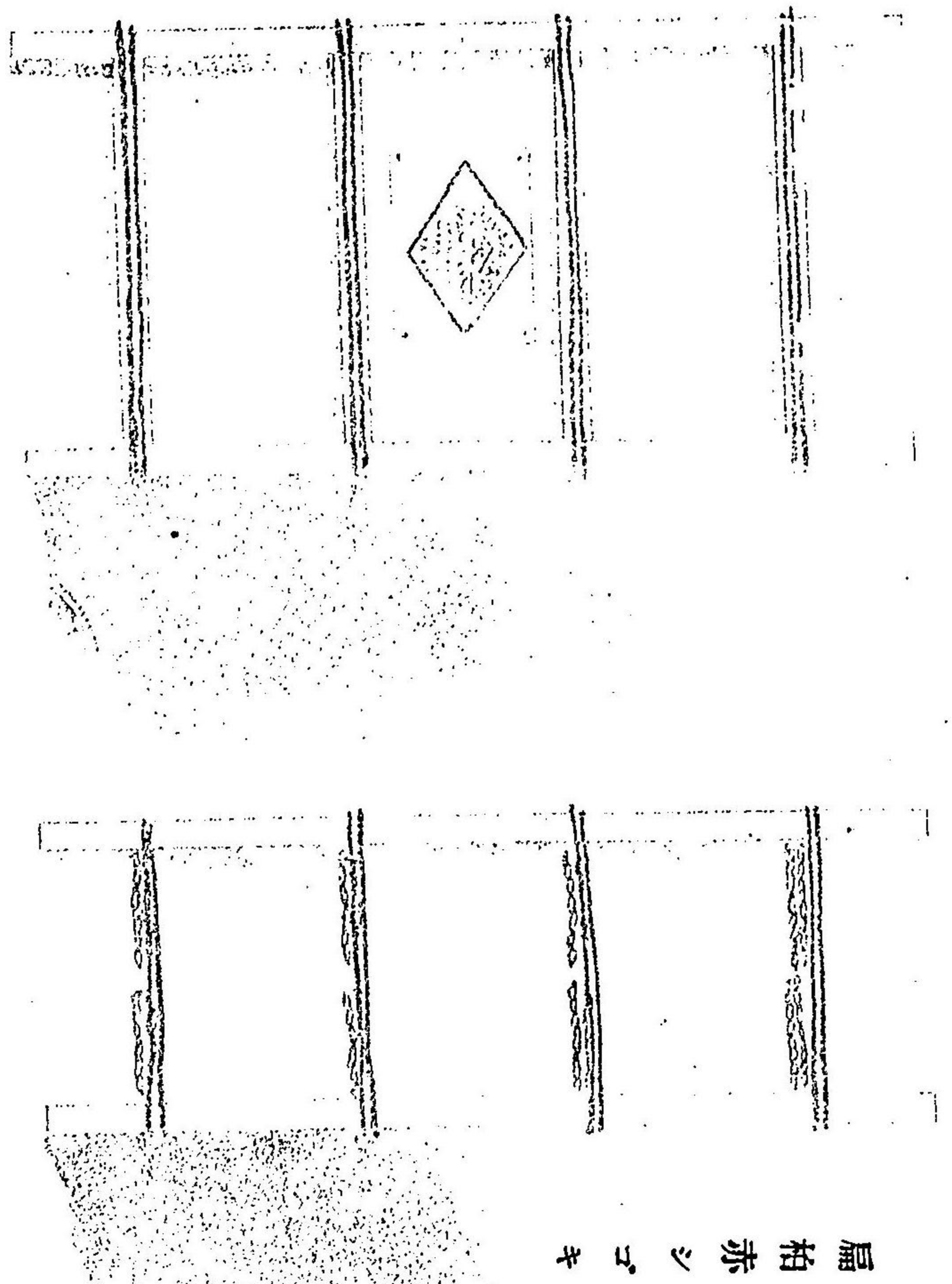


扁柏千筋

扁柏白細繩

上 同
五 其

上 同



扁柏赤シゴキ

上 同 (上)

其他ノ加工木竹材

審査官 白澤保美 報告

本項ニ屬スルモノハ機械器具及ヒ製作用ノ加工木竹材ト稱スルモノ、中樑寸軸木及ヒ經木ノ二種ヲ除キ其他一切ノ加工木竹材ニシテ即チ或ル程度迄加工シテ更ニ之ヲ以テ或ル製作用ニ供フルモノタラサルヘカラス故ニ其範圍甚タ廣カラス其種類亦極テ少數ナルカ如シト雖トモ其關係ノ大及ヒ其效益ノ多キハ寧ロ木竹材上ノ中堅トモ稱スヘキモノニシテ即チ此種木竹材ノ多寡隆替ハ一面之ヲ供給上ヨリ云ハハ以テ木竹材利用進歩ノ程度ヲ知ルニ足リ又之ヲ一面需要上ヨリ云ハハ以テ各種工藝ノ發達ノ度若シクハ是等ニ關スル貿易上ノ進境如何ヲトスルニ足ルヘキナリ故ニ再言スレハ將來海外諸州ニ對スル貿易益々開發シ彼等ノ需要陸續トシテ出テ若シクハ内地製作業愈々發達シテ其原料ヲ要スルコト頻出スルニ至レハ加工木竹材ナルモノ、種類及ヒ其産額ヲ多大ナラシムルコト明ナリト云フヘク又林業上ニ在テモ伐木造材運輸等ノ如キ總ヘテ利用上ノ秩序及ヒ其業技益々進歩ノ域ニ達スルニ至レハ是レ亦此種木竹材ノ供給ヲシテ愈々多大ナラシムヘキヤ必然ナリ之ヲ要スルニ本項ニ屬スヘキモノ、前途ハ甚タ好望ニシテ亦甚タ有力ナルモノタルコト諒トセサル可ラサルナリ今回ノ出品ヲ視ルニ或種類ノモノニ於テハ出品點數敢テ少カラス良品名産亦必スシモ無キニアラスト雖トモ概シテ著シキ進境ノ認めヘキモノ尠ナシ只一種ノ新用途ニ對シ試製

セル加工材アリ或ハ海外ニ於ケル新需要ニ向テ之カ輸出ヲ開始セル加工材ノ出品ヲ見ルハ將來ニ於ケル曙光トシテ斯業上賀スヘキコトニ屬ス希クハ後回ニ於テハ是等ノ事業及ヒ産材ノ大ナル發達ヲ見ルト共ニ亦其出品トシテモ充分需給兩者ノ好資料トナリ就中外人顧客ノ注目ニ値ヒスルモノヲ得ンコト切望ニ耐ヘサルナリ左ニ今回出品種類ヲ掲ケ各其梗概ニ就テ評説スル所アルヘシ

一 清酒用樽丸(同底丸、口前共)

二 酒桶樽底木、口前共

三 其他ノ各種樽桶材、醬油樽、砂糖樽、ビール樽、セメント樽、風呂桶、盥等用

四 各種下駄材、同齒材、原料桐材

五 木棉(木材ヲ機械ニテ刻ミ細線狀トナシ荷作ノ函詰其他蒲團ノ中綿代用トス)

六 張付板

七 茶函板、石油函板、ビール外函板及ヒ其切組

八 櫓材、櫓容木、取手、櫓杭共、櫓材

九 各種柿板、木羽、桎粉トモ稱ス

十 塗物木地、挽物木地、木管紡績用曲物類、側曲物、側柄、側筒、側火桶、側等、杓子木

十一 各種柄類、大槌、鋸、鎌、庖丁、洋刀等柄用、車輛用材

十二 電信柱腕木、銃床木、蒸籠板、稻扱ノ臺木、原料檜板、旋木、版木板、火鉢用材、柳箸、白箸、同原料、杵

槌、土瓶敷等

十三 木槌、器具用各種天然木、埋レ木

以上加工木材

十四 鞭根、烟管ノ羅字竹、筆軸、竹繩、團扇竹、ヒゴ(チヤク)、箴羽、籜竹、目釘竹

以上加工竹材

右ノ内全ク一ノ製作品ニ屬スルモノアリト雖トモ其原料ト共ニ併セ出品シタルモノナルヲ以テ本項ニ組ミ入レタリ又何程ノ加工ニモアラサル材様ノモノ若シクハ幾ント採取ノ儘ニ出テタル天然木ノ類アリト雖トモ其效用主トシテ器具材ナルヲ以テ特ニ本項ニ屬セシメタリ凡ソ醸造物用ノ樽桶材ト其醸造物トノ關係ハ極メテ其利害ノ密接ナルモノニシテ殊ニ清酒ニ在テハ之カ爲メ其風味ヲ増減シ若シクハ其著色上ノ品位ヲ異ニスル等種々ノ關係甚大ナルモノアルヲ以テ古來樽桶材ニ就テノ選擇若シクハ注文ハ酒造家并ニ其販賣業者等ノ最モ留意スル處ニシテ即チ亦之カ供給者モ益々其材質ノ點及ヒ加工上等ニ留意シ以テ其特色ヲ互ニ誇ラントスル所ナリ故ニ樽桶材ノ品質上ニハ種々ノ區別アリテ之カ爲メ自然其用途マテモ異ニスル場合ナキニアラスト雖トモ要スルニ其主ナル點ハ木理ト色澤及ヒ木香トノ關係ニシテ全部心材ヲ以テスルモノト心材、邊材兩部ニ跨レル材部ヲ以テスルモノトノ區別ニシテ其加工上ニ於テ兩材部ノ木取り方若シクハ其揃ヘ方及ヒ總ヘテ是等木理ノ廣狹、曲直、色澤ノ濃淡、美醜、木香ノ良否其他造リ方及ヒ乾燥等ハ即チ樽桶材一般ノ品柄名稱若シクハ産出

者毎ニ記號別ヲ異ニスル所以トナルナリ而シテ之カ需要高ハ甚タ多大ナルモノアリテ酒類醸造額ノ増進ト共ニ益々其多キヲ加ヘ加之近來樽丸ノ如キハ海外ヘ輸出スルモノ亦少カラスト云ヘリ從テ之カ供給モ各地ニ於テ多少産出セサルハナク即チ其效用ニ就テモ將タ産額ニ就テモ從來ノ本邦加工材中實ニ無比ノ勢力ヲ有スルモノナリ殊ニ吉野地方ノ如キ其特産ノ美材ハ此種樽材ニ供用シテ極メテ適良ナルヲ以テ名アリ故ニ同地方森林ニ於テ特ニ是等ノ材ニ適セシムヘク作業スルモノナキニアラストス從テ其附近三重和歌山大阪等亦皆此産材若シクハ加工産出ニ名アリ現ニ今回ノ出品ニ於ケルモ是等ノ地方ノ出品ニ係ルモノハ特ニ好良ナルモノヲ得又其業績ノ著シキモノヲモ見タリ之ニ亞テハ熊本縣ニシテ同地方産材ハ木香ニ於テ材色ニ於テ能ク樽桶材トシテ不適ナラサルヲ見ル而テ近來著シク其産額ヲ増加セルニモ拘ハラズ今回ノ出品中特ニ好良品ヲ見サリシハ遺憾トスル所ナリ其他秋田杉ヨリ採製セルモノ亦可ナラサルニアラス尙ホ多少ノ見ルヘキモノアリシト雖トモ是等總ヘテハ細評ニ於テ更ニ記スル所アルヘシ

其他各種ノ樽桶材中醬油樽ハ清酒用樽丸ノ如ク好良ナルヲ要セスト雖トモ是レ亦多額ナル需要ヲ有スルモノニシテ産地甚タ乏シカラス將來ニ於テモ亦益々好良ナルヘキカ故之レカ加工上ニ於テ又産出ニ於テ適當ナル進歩ヲ圖ラサルヘカラサルナリ砂糖樽モ亦其需要甚タ多ク品質上特ニ至難ナル選擇ヲ要スルニアラサルカ故適當ナル供給ヲ用意セサルヘカラサルナリビール樽ハ本邦ニ於テハ近來ノ創始ニ係ルモノナリト雖トモ同醸造額頗ル多キヲ加

ヘ猶ホ益々増進シテ止マサルノ傾嚮アルカ故之ニ對スル容器材ハ好望ナル需要ヲ有スルモノトシテ大ニ其産出ヲ圖ラサルヘカラサルナリ本品ニ對シテハ其適應スヘキ樹種ノ選定及ヒ加工上ノ研究等未タ盡サ、ル所アルヘキカ故夫レ等ニ向テモ亦斯業者ノ留意勵精スル所アラシコトヲ要スルナリ「セメント」樽ニ於ケルモ亦同シ本品ハ「ビール」樽ニ比シテハ其適合條件甚タ容易ナルヘキカ故管ニ内地用ニ供スヘキモノ、ミナトス海外輸出ノ目的トシテモ猶ホ其産出ノ多大ナランコトヲ企畫セサルヘカラサルナリ以上ノ四種ハ何レモ有要材種ニシテ又甚タ好望ナルニモ拘ハラズ今回僅カニ數點ノ出品ニ止リタルハ甚タ遺憾ナリ次回ニ於テハ是等ニ對スル進歩及ヒ發達ヲ徵スルニ足ル出品ノアラシコト希望ニ耐ヘサルナリ風呂桶、鹽等用材モ又僅ニ一兩點ノ出品ニ過キスシテ其品種ノ總ヘテヲ見ルヲ得ス又其產地産額等ノ著シキモノニ就テ見ルヲ得サリシハ太々遺憾ナリ同品ハ他ノ多クノ日用必需ノ桶類ト共ニ最モ有要ニシテ且其消費額モ亦極メテ多大ナルモノアルヘキカ故次回ニ於テハ之ヲ表示スルニ足ルヘキ出品ノアラシコト切望ニ耐ヘサルナリ

各種下駄材ハ其出品セシ地方甚タ多カラスト雖トモ出品點數ハ寧ロ少數ナラサルモノアリ又其原料樹種若シクハ材品ノ種類モ尠カラズ殆ント現在應用ノ各種ハ其一斑ヲ見得タル所ナリト雖トモ未タ必スシモ進歩ノ顯著ナルモノアルヲ見ス且ツ頗ル多大ナル消費力ヲ有スル下駄材ノ出品トシテハ未ダ甚タ其盡クサ、ルモノアルヲ憾マスンハアラサルナリ就中桐下駄材ハ其需要頗ル著大ナルモノニシテ今ヤ都鄙上下ヲ通シテ之ヲ使用セサルモノナク

逐年ノ需要高ハ益々其多キヲ加ヘ遂ニ本邦ノ産額ヲ以テシテハ此多額ナル需要ヲ充タスコト能ハス遠ク清國ヨリ其原木供給ヲ仰クニ至レリト云フ而シテ大阪市ニ於ケル或當業者ノ説ニ明治三十年乃至三十四年同市内桐下駄材一箇年ノ統計概算左ノ如シ

仕入高 六拾貳萬四千六百圓

販賣高 八拾七萬九千六百圓

已上ハ單ニ大阪市ニ於ケル取引高ニ過キスト雖トモ若シ之カ全國ヲ通シタル需要總額ヲ打算スルトキハ實ニ驚クヘキノ多額ヲ示スヘキヲ信スルナリ而シテ前記ノ清國輸入材ハ其品質多クハ我邦産ニ劣ル所アルニモ拘ハラズ近來漸ク其少カラサル輸入ヲ仰クノ已ムヲ得サルハ一ニ本邦産桐材ノ供給不足ヨリスル者ニシテ桐材ノ培養繁殖ハ實ニ目下ノ要務ナルト同時ニ又之レカ代用材ノ發見并ニ製作ニ大ニ努メサルヘカラサル所ナリ其輕質ニシテ優美ナル假令桐材ニ及ハスト雖トモ好ク加工上ニ工夫シ品質上ニ吟味スルトキハ本邦幾多ノ林中中之レニ代用シ得ヘキ材種甚々少カラサルヘキヲ信スルナリ加之本邦産桐材ハ其品質ノ佳良ナルモノハ價格甚々不廉ナルカ故遂ニ此點ヨリシテモ亦清國材ノ輸入ヲ頻多ナラシメタル者ナラストモ産材者及ヒ商業者共ニ大ニ注意ヲ要スル所ナリトス下駄齒材ノ出品モ亦甚々少數ナラサル所ニシテ殊ニ今回ノ出品ニ於テ其山毛櫨材ヲ應用セル好良品ノ漸ク多キヲ見タルハ寔ニ喜フヘキノ現象ナリトス齒材ニ於ケルモ亦下駄材ト等シク從來專ラ使用セシ櫨櫨、朴等ノ外代用材敢テ少シトセサルカ故努メテ其應用上ノ開發ヲ圖ラサルヘカラサ

ルナリ桐丸太材ノ出品ハ僅ニ數點ニ過キサリシト雖トモ何レモ不可ナラサル良材タルヲ認メタリ

木棉ハ荷造リノ詰メ合セ用トシテ其他此種ノ用途ニ向テ需要甚々多ク歐米諸州ニ於テハ從來盛ニ之ヲ使用セリト雖トモ本邦ニ於テハ今回初メテ之カ出品ヲ見ルニ至リ木材利用ノ一端トシテ注目スヘキコトニ屬ス今回ノ出品ニ於ケル製造法等ハ後ニ細評ニ於テ其解説ヲ抄出スヘキカ故茲ニ之ヲ省クヘシト雖トモ本邦ノ如キ産材ニ富メル所ニ在テハ此種ノ利用ニ供スヘキ樹種若シクハ産額甚々尠シトモ而シテ其之カ需要ハ獨リ本邦ニ於テ將來益々頻出スヘキノミナラス之ヲ海外ニ輸出スルモ亦必スシモ有望ナラサルニアラサルヘシ故ニ此種ノ製産ニ向テハ大ニ斯業者ノ留意センコトヲ要スルナリ

張付板ハ今回改良板ノ名稱ヲ附シテ僅ニ一點ノ出品ニ過キサリシカ是レ亦泰西ニ於テハ夙トニ行ハル、處ニシテ今ヤ此種加工材ノ發達ハ實ニ端倪スヘカラサルモノアルナリ然ルニ本邦ニ於テハ近來ニ至テ創メテ之カ製出ヲ見ルヲ得タリ本品ニ對スル用途製法等ハ後段細評ニ於テ今回出品ノ解説書ヲ抄出シテ參照ニ資スヘシト雖トモ要スルニ徒ラニ貴重材ヲ消費セシテ之ヲ薄片ニ剝截シテ巧ニ他ノ板其他ニ張り付ケ以テ加飾美裝ノ目的ヲ達セシムルモノナルカ故將來器具什器ハ素ヨリ殿堂房室ニ至ルマテ益々其美觀ヲ競ヒ裝飾ニ務ムルニ當リ此種加工材ノ需要ハ實ニ甚大ナルモノアルヘキヲ信スルナリ而シテ一面ニハ本邦ニ於ケル貴重材種漸ク其產出ヲ減シ到底昔日ノ豊富ナルカ如キヲ得サルカ故其消費ヲ節約ス

ル必要上ヨリシテモ亦此種加工材ノ發達及ヒ其產出ノ大ナルヲ期セサルヘカラサル所ナリ
幸ニ斯業者ノ特ニ留意精勵センコトヲ要ス

茶函板、石油函板、ビール外函板及ヒ其切組板ノ如キハ是レ亦近來著シク其產額ヲ増シ又其原
材ノ選定及ヒ加工上共ニ著シキ進步ヲ認ムル所ニシテ茶函板ハ主トシテ印度地方ニ輸出シ
原料ハ樺、樺等ナリトス其他ノ函板モ亦多クハ海外へ輸出スルモノニシテ原料ハ前兩種材及
ヒ松材ヲ以テセリ即チ輸出材トシテハ甚タ好望ナルモノニシテ今回は等出品數ノ多カラサ
ルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ本品ハ其需要益々増加シ販路亦漸次其廣キヲ加フル所
ニシテ之カ原料材ノ產出モ亦致テ尠少ナラストスル所ナルカ故努メテ其製出ニ奮勵シ益々
貿易上ノ隆盛ヲ期センコトヲ要スルナリ

櫛材、櫛材等ハ舊ニ依テ櫛材ヲ以テ最トシ其需要益々盛ニ増加ヲ見ントスルノ傾嚮ナリ櫛材
ハ其產地幾ント暖地ニ限ラル、所ナリト雖トモ他ノ地方ニ於ケル各種產材中能ク之ニ代用
シ得ヘキモノナキニアラス或ハ其櫛材中ノ或ル部分ニ限り他ノ材種ヲ以テ之ニ代用シテ堪
ヘ得ヘキモノアリ宜シク櫛材ノ増殖ヲ圖ルト共ニ又他ノ代用材應用ノ加工上ニ就テモ留意
センコトヲ要スルナリ

各種櫛板類ハ其出品點數甚タ多ク出品ノ府縣亦頗ル多キニ涉リシカ近來ノ進境トシテ最モ
注目ニ値ヒセシハ器械種ノ出ルニ至リシコトニシテ其品質ヲ整一ニシ其產額ヲ大ニシ從テ
價格ヲ低落ナラシムルノ效ハ最モ嘉スヘキ所ナリトス其他總ヘテノ櫛板類ニ於テモ品質必
スシモ不可ナルモノナク產額亦見ルヘキモノアリシハ多トスル所ナリ

塗物木地及ヒ挽物木地其他曲物類用材ハ其需要極メテ多ク之ニ適スル材種亦甚タ少カラス
トス而シテ是等諸品ノ前途ハ其品様ノ改良ヲ行ヒ其製造法ヲ巧妙ナラシムルニ於テハ需要
益々増加シ原料亦太々豊富ナルニモ拘ハラヌ著シキ進境ヲ認メス今回ノ出品ニ於ケルモ極
メテ少數ニシテ特ニ見ルヘキモノアラサリシハ遺憾ナリ

紡績用木管ハ近來紡績業ノ隆盛ナルト共ニ其需要甚タ少數ナラサルヘキニモ拘ハラヌ今回
ノ如キ僅ニ一點ノ出品ニ過キサリシハ未タ同材產出ノ著シカラサルヲ示スモノニシテ大ニ
將來ノ發達ヲ期セサルヘカラサルナリ

各種柄類及ヒ車輛用材等是レ亦極メテ少數ナル出品ニシテ特ニ見ルヘキモノナキハ遺憾ナ
リ然ルニ是等加工材ハ其範圍狹少ナルカ如クシテ反テ其消費額大ナルモノアリ且車輛ノ如
キハ益々其產額ヲ増加スヘキカ故之カ用料加工材トシテノ供給ハ大ニ圖ル處ナカラサルヘ
カラサルナリ

前キニ第十二ニ列記セシ項中ノ各種加工材ハ何レモ少數ナル出品ニシテ用途又甚タ廣キニ
アラサル種類ノモノアリト雖トモ電柱腕木ノ如キ銃床木ノ如キ必スシモ將來ニ望ミナキニ
シモアラサルナリ其第十三ニ屬スルモノハ總ヘテ天然產出ノ儘ノ如キモノニシテ只現ニ產
出セルモノナルカ故一種ノ應用ヲ試ミシト云フニ過キサルヘク一廉ノ產物トシテ之ヲ評說
スルノ要ヲ見サルナリ

鞭根俗ニ竹根ト云フ地下莖ハ近年海外貿易品ノ一トシテ數ヘラレ前途太タ有望ナルモノナルカ故決シテ輕々ニ看過スヘキ者ニアラサルナリ其採收製法等ニ就テハ別項細評及解説書ニ譲リ此ニ詳論セサルヘシ烟管羅字ハ是亦一種ノ特用品ニ過キスト雖トモ需要額ニ於テハ決シテ侮ルヘカラサルモノアリ筆軸ニ於テモ亦然リ竹繩ハ未タ其製造ニ就テノ發達ヲ認メス隨テ其産額モ亦僅少ナリト雖トモ之カ應用ノ途ハ決シテ狭シト云フヘカラサルナリ團扇竹ニ就テハ前回報告ニ於テ已ニ之ヲ詳悉シヒゴ箴羽籠竹目釘竹等ハ出品點數僅ニ一二ニ過キサルノミナラス著シク進歩セシ點ヲ認メサルカ故凡テ之レカ評說ハ省畧スヘシ左ニ甲號表樽丸桶樽材乙號表加工木材及丙號表加工竹材出品點數并ニ受賞數ヲ掲載シ更ニ其主ナルモノニ就テ細評スル處アルヘシ

(甲 號)

樽丸酒桶材出品點數及授賞數表

| 府縣名 | 出品 | | | | | 授賞 | | | 備考 |
|-----|----|----|---|----|---|----|---|---|----|
| | 人 | 具 | 點 | 數 | 一 | 二 | 三 | 等 | |
| 京都 | | 一九 | | 一 | | | | | |
| 大阪 | | 一 | | 五 | | | | | |
| 兵庫 | | 一 | | 五 | | | | | |
| 奈良 | | 二 | | 七 | | | | | |
| 三重 | | 三 | | 四 | | | | | |
| 合計 | | 二四 | | 二七 | | 四 | | 七 | 一五 |
| | | | | | | | | | 一六 |

(乙 號)

加工木材出品點數及授賞數表

| 府縣名 | 出品 | | | | | 授賞 | | | 備考 |
|-----|----|----|---|-----|---|----|---|----|----|
| | 人 | 具 | 點 | 數 | 一 | 二 | 三 | 等 | |
| 滋賀 | | 二 | | 三 | | | | | |
| 岐阜 | | 三 | | 八 | | | | | |
| 長野 | | 三 | | 五 | | | | | |
| 青森 | | 四 | | 六 | | | | | |
| 福島 | | 四 | | 五 | | | | | |
| 鳥取 | | 六 | | 一 | | | | | |
| 和歌山 | | 一 | | 〇 | | | | | |
| 徳島 | | 一 | | 六 | | | | | |
| 熊本 | | 三 | | 六 | | | | | |
| 宮崎 | | 二 | | 三 | | | | | |
| 合計 | | 六三 | | 一九四 | | 六 | | 一六 | 二三 |
| | | | | | | | | | 四五 |

| 府縣名 | 出品 | | | | | 授賞 | | | 備考 |
|-----|----|----|---|----|---|----|---|---|----|
| | 人 | 具 | 點 | 數 | 一 | 二 | 三 | 等 | |
| 北海道 | | 一 | | 三 | | | | | |
| 東京都 | | 二 | | 四 | | | | | |
| 大阪 | | 八 | | 二六 | | | | | |
| 大坂 | | 四 | | 二 | | | | | |
| 群馬 | | 三 | | 三 | | | | | |
| 群馬 | | 四 | | 二 | | | | | |
| 合計 | | 二二 | | 七二 | | 二 | | 二 | 一一 |
| | | | | | | | | | 二二 |

第二部 機械器具及製作用ノ加工木竹材

| 府縣名 | 出品 | | | | 授賞 | | | | 備考 |
|-----|----|---|---|---|----|---|---|---|----|
| | 人 | 比 | 點 | 數 | 一 | 二 | 三 | 等 | |
| 京都 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 兵庫 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 埼玉 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 群馬 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 奈良 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 靜岡 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 滋賀 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 岐阜 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 福井 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 岡山 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

三七一

(丙) 號 加工竹材出品點數及授賞數表

| 府縣名 | 出品 | 授賞 |
|-----|----|----|
| 大分 | — | — |
| 熊本 | — | — |
| 熊崎 | — | — |
| 宮崎 | — | — |
| 鹿兒島 | — | — |
| 薩摩 | — | — |
| 合計 | — | — |

| 府縣名 | 出品 | 授賞 |
|-----|----|----|
| 奈良 | — | — |
| 三重 | — | — |
| 愛知 | — | — |
| 靜岡 | — | — |
| 岐阜 | — | — |
| 長野 | — | — |
| 福島 | — | — |
| 巖手 | — | — |
| 青森 | — | — |
| 山形 | — | — |
| 秋田 | — | — |
| 福島 | — | — |
| 石川 | — | — |
| 富山 | — | — |
| 鳥取 | — | — |
| 島根 | — | — |
| 岡山 | — | — |
| 和歌山 | — | — |
| 德島 | — | — |
| 香川 | — | — |
| 愛媛 | — | — |
| 高知 | — | — |
| 合計 | — | — |

第二部 機械器具及製作用ノ加工木竹材

三七〇

| | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 愛媛 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 高知 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 大分 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 熊本 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 宮崎 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 鹿兒島 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 合計 | 八 | 七 | 一 | 七 | 一 | 八 | 二 |

大阪府 喜多井利兵衛出品ノ酒桶樽ハ一號乃至四號ニシテ其品質何レモ頗フル適良ナリトス而カモ之ヲ他地方ノ出品ニ比シテ亦甚タ優逸ナルヲ認ム而シテ同府ノ出品ハ獨リ同人ノミナラス概シテ原料ヲ吉野地方ニ仰ケルカ故ニ材質上ヨリ見ルトキハ奈良縣出陳ト大差ナク唯加工上ニ於テ多少ノ優劣アルヲ認ムルニ過キス元來桶樽ハ之ニ適スヘキ材質ノ撰擇ヲ要スルハ勿論又之レカ加工上及ヒ乾燥ノ良否カ其品質ヲ上下スル一要素タルコトハ前キニ評説スル所ノ如クナルカ同人ハ其祖先利兵衛ナルモノ實厯年間ヨリ斯業ニ從事シ現代利兵衛ニ至リテハ獨リ内地ノ需要ニ向テ廣ク之ヲ供給スルノミナラス又海外支那朝鮮等ニ至ル迄之レカ販路ヲ開キ年々ノ産額亦頗フル多大ナリト云ヘリ以テ其斯業上ニ貢獻スルトコロノ鮮少ナラサルヲ知ルヘキナリ次キニ同府中谷楠太郎出品ノ桶樽ハ他ノ同業者ハ擧ケテ原料ヲ吉野地方ニ仰ケルモ同人ハ府下南河内郡天見村ノ産出品ヲ採用シ其品質ノ如キハ幾ント吉野産ヲ凌駕セントスルモノナリ其原料撰擇ニ用意ノ周到ナル又其加工及ヒ乾燥等ノ適

良ナル頗フル嘉賞スヘキモノアルヲ認ム同人年々ノ産額ハ甚タ多大ニシテ販路ハ大阪堺兩市ヲ始メトシ名古屋東京等ノ各地ニ及ヒ日ニ月ニ事業ノ擴張ヲ圖リツ、アリト云ヘリ又同府山村作次郎出品樽丸ハ原料ヲ奈良縣吉野郡ニ仰キシモノニシテ同人ノ祖先ハ天保年間ヨリ斯業ニ從事シ今年々ノ産額頗フル多額ニシテ明治三十三年ヨリ同三十五年ニ至ル毎一年ニ遞加スルモノ實ニ二千九以上ニ達シ且其品質モ亦適良ナルヲ失ハサルカ如シ又同府辻村榮助出品ノ桶樽及ヒ樽丸ハ一號乃至五號ニシテ原料ハ同ク奈良縣吉野産ヲ仰キ年々ノ産額亦前者ニ讓ラス販路ハ内地ハ勿論達ク韓國仁川京城釜山及ヒ清國地方ニ至ル迄已ニ其輸出ノ途ヲ開キ前回博覽會ヲ始メ爾來各品評會等ニ於テ幾多ノ賞與ヲ得シ所ナリト云フ今回ノ出品ニ於ケルモ亦其品質甚タ優良ナルヲ認ム其他大阪桶木合資會社出品桶樽ノ如キモ品質産額共ニ已上ノ數者ニ下ラス其販路ノ如キハ臺灣及ヒ魯領浦羅斯德等ニ至ルマテ之ヲ擴張シツ、アリト云ヘリ概シテ府下ノ斯業者ハ多クハ個人的事業ナルモ時勢ノ推移ト共ニ會社組織ノ必要ヲ感シ同志者合資シテ以テ同社今日ノ盛大ヲ見ルニ至リシト云フ已上數名ノモノハ何レモ今回優等ノ賞格ニ入りタルモノニシテ左ニ參照ノ爲メ喜多井利兵衛ノ解説書ヲ抄録スルコト左ノ如シ

大阪府大阪府喜多井利兵衛出品桶木自至五解説書抄録

原料 杉材大和國吉野郡川上村字上多古村神ノ谷

製造用品 鋸、墨、漆、金

第二部 機械、器具及製作用ノ加工木竹材

製造方法 凡ソ桶木トナスニハ其材料ヲ撰ヒ當店ハ主トシテ吉野杉年齢一百十年長二間末口一尺三寸又ハ一尺四寸ノ物ヲ凡ソ一寸五分ニ鋸斷シ日光ニ乾スコト三箇月トシテ後チ必ス六箇月以上ヲ陰乾シ之ヲ販賣ニ供ス
弊店ノ桶木ハ第一土地ヲ撰ヒ第二木相ヲ撰ヒ第三木取リニ精通セシハ多年ノ實驗ニ依リテ然リトス

沿革 本業ヲ開始セシハ遠ク寶曆三年ニシテ今ヨリ數代前利兵衛ナルモノ、經營ニ係レリ而シテ桶木製造ノ起原ハ之ヲ知ルニ山ナキモ其當時大阪ニ有名ナル桶木商共喰屋善兵衛今ノ共喰屋橋ノ名之レヨリ始マルト傳フナル者ヨリ傳習ヲ受ケタルモノニテ同人ハ最モ桶木製造ニ熟練シ實ニ一家特得ノ方法アルヲ以テ開業後數代聯綿ト繼續營業ヲナシ益々醸造家ノ信用ヲ受ケ内地ハ勿論清國、朝鮮國等へモ輸出シテ製造愈々多キニ及ヘリ

| | | | |
|------------|----|--------|----------|
| 製造品ノ數量及其販路 | | | |
| 明治三十二年 | 數量 | 八千五百坪 | 清國并朝鮮 |
| | | 内二千坪 | 代價 |
| | | | 九萬八千五百圓 |
| | | | 貳萬圓 |
| 同 三十三年 | 同 | 九千坪 | 同 |
| | | 内二千五百坪 | 同 |
| | | | 拾萬七千五百圓 |
| | | | 貳萬五千圓 |
| 同 三十四年 | 同 | 一萬百坪 | 同 |
| | | 内三千坪 | 同 |
| | | | 拾壹萬六千五百圓 |
| | | | 參萬圓 |

效用 酒造ノ用ニ供シ必ス佳良ノ清酒ヲ保有スルノ效アリ

褒賞 明治二十八年七月十一日 褒狀 第四回内國勲業博覽會

審査請求ノ主眼 土地又ハ木品ノ撰擇香氣ノ保有ニ注意セシ點木品乾燥ノ適度ナルノ點
奈良縣 同縣富倉松藏出品ノ樽丸及ヒ酒桶樽ハ特ニ優良ナル佳品ニシテ材料ノ撰擇甚々宜キヲ得加工上ニ於ケル諸點亦太々適良ニシテ幾多出品中特ニ出色ナルモノタルヲ認ム而シテ産額ノ如キモ明治三十五年ノ如キハ實ニ一萬丸ノ多キヲ産出セリト云フ同縣五味磯貴知出品ノ樽丸及ヒ同縣前田利雄ノ出品酒桶樽同縣山本源治郎出品同品ハ何レモ品質ノ上ニ於テモ産額ノ上ニ於テモ販路ノ廣キ點ニ於テモ前者ト伯仲ノ間ニアリテ著シク遜色ナキモノトス四名共今回優等賞格ニ入りタリ右ノ外三等賞格ニ入りシモノ七名褒狀ヲ受領セシモノ五名ノ多キニ至リシハ同縣ノ榮譽ニシテ眞ニ其名產地タルニ背カサルナリ參照ノ爲メ左ニ富倉松藏ノ解説書ヲ抄録スヘシ

奈良縣吉野郡川上村大字大瀧富倉松藏出品樽丸内桶白一解説書抄録

産地土質及反別 産地 奈良縣吉野郡川上村大字大瀧 土質 肥沃ニシテ小石交リノ焦土ニシテ少量ノ石灰分ヲ含ム 反別 四町三反歩(採收反別)百五町步(栽培反別)
種植及採收 種子ハ八九十年生ノ杉樹ヨリ十月中旬頃ニ採取シ三月下旬ヨリ四月初旬迄ノ間ニ苗圃ニ播付シ三年若クハ四年ヲ經テ能ク發育シタルモノヲ採リ之ヲ三月頃山林ニ移植ス

採收ハ九十年生ノモノヲ春期ニ伐採シ直ニ皮ヲ剝キ殊更ニ枝葉ヲ剪ラス五箇月間放置シ、

充分澁氣抜ケ去リタルトキ初メテ幹ヲ切斷シ製作ニ著手ス

培養及保護 一町歩ノ面積ニ凡一萬本ノ苗ヲ植付ケ大抵十箇年間毎年下草及蔓草ヲ刈リ

取ルモノトス而シテ十年以後樹木ノ繁茂スルニ從ヒ下草ヲ刈リ取ル要ナク只二十年生ニ

シテ二三回枝葉ヲ拂ヒ蔓草ヲ除クヲ以テ足ル其後ハ年々適度ニ間伐ヲナシ八九十年ニ至

リ最初植付タル一萬本カ減シテ僅カニ四百本乃至五百本ニ至ル

效用 酒ヲ容ル、樽ヲ作ル材料ナリ樽丸一箇ニテ四斗入ノ樽六箇ヲ作り得ルナリ此樽丸

ヲ用ヒテ樽ヲ作ルトキハ左ノ三特效アリ

一 酒ノ色ヲ優美ナラシム内種外面白色ニシテ内面淡紅色ヲ帶フル物ハ酒ノ固有セル色

ヲ少シモ變スルコトナク益々優美ナラシム極種全部濃紅色ヲ帶フル物ハ樽丸ノ色ト酒

ノ色ト相化合シ以テ酒ノ色ヲ稍々濃紅ナラシム

二 酒ノ味ヲ醇良ナラシム木香ハ能ク酒ノ味ヲ醇良ナラシメ久シキヲ經ルモ變味スルコ

トナク腐敗スルコトナシ而シテ木香ト酒香ト相調和シ一種微妙ノ芳香ヲ發ス内種ハ木

香淡キカ故ニ淡泊ナル酒ヲ容ル、ニ適シ極稀木香強キカ故ニ香色ノ強キ酒ヲ容ル、ニ

適ス

三 酒ノ漏出セサルコト久シキ間酒ヲ容レ置クモ木理ノ間ヨリ漏出(俗ニメモリト云フ)ス

ルコトナシ是レ木理密ニシテ且整正ナルカ故ナリ

産出額 祖先以來本業ニ從事セルモ最近三箇年間ノ産出高ヲ掲クレハ左ノ如シ
三十三年 五千八百九 三十四年 六千九 三十五年 一萬九

褒賞 無之

審査請求主眼 近來大ニ販路ヲ擴張シ到ル處ノ酒造家ニ賞讚セラレ其聲價ヲ發揚セシ所

以ハ要スルニ效用部ニ於テ述ヘタル三特效アルカ爲メニシテ酒ノ容器ヲ作ル材料トシテ

ハ恐ラク最善最良ヲ極メ絶エテ他ニ其比類ナカルヘシ故ニ主トシテ此點ニ付審査セラレ

ンコトヲ望ム

滋賀縣 同縣井上文五郎出品酒桶材ノ原料ハ同縣東淺井郡田根村ノ産出ニシテ品質ハ大阪

奈良等ニ比シ稍々遜色ナキニアラスト雖トモ決シテ適良品タルヲ失ハス明治三十二年ニ二

千坪此價格壹萬貳千圓同三十三年ニ二千五百坪此價格貳萬壹千五百圓同三十四年ニ三千

坪此價格貳萬九千貳百五拾圓ニシテ同縣ニ於テ今回斯材ノ出品セルモノナキニ獨リ同人ノ

該出品ヲ見シハ太々多トスヘキ所ナリ

秋田縣 同縣千葉喜藏出品ハ酒及ヒ醬油樽丸ノ二點ニシテ其品質比較的好良ニシテ大ニ見

ルニ足ルヘキモノナリ就中醬油樽丸ノ如キハ他府縣ヨリハ一點ノ出品ナキニ拘ハラス獨リ

同人ノミノ出品ヲ見タルハ太々多トスヘキ處ナリ原料杉材ニ最モ豊富ナル處ナルカ故力メ

テ其選材ニ留意シ又其加工上ニ一層ノ熟達ト奮勵ヲ望マサルヲ得サルナリ

鳥取縣 同縣ノ出品ニ係ル酒桶樽及ヒ樽丸ハ凡テ五點ニシテ内賞格ニ入リシモノ獨リ大村

文太郎ノミナリトス同人出品ノ原料ハ同縣八頭郡山鄉村ノ産出ニシテ杉樹ノ百二十年乃至百六十年ノモノヲ加工セシモノニシテ同人ハ夙ニ斯業ノ改善ニ意ヲ潜メ徒來山中ニ於テ製作シ來リシモノハ品質粗悪ニシテ到底他府縣ノモノニ匹敵スヘカラサルヲ慨シ自カラ奮テ其改良ニ從事シ又同志者ト協心同力シテ竟ニ今日ノ好果ヲ收メタリト云フ産額ハ明治三十二年ニ三百五十本此價格五千九百圓同三十三年ニ四百本此價格七千六百圓同三十四年ニ五百本此價格壹萬〇五百圓ニシテ此ノ如ク年々産額ノ遞加シ來リシハ以テ其斯業ニ熱心盡瘁セシコトヲ想知スルニ足ルヘキナリ

和歌山縣 同縣ノ草加與兵衛松尾忠兵衛ノ兩名ハ共ニ樽丸及ヒ酒桶樽ヲ出品セシ所ナルカ該地方ハ近年著ク斯業ノ發達ヲナシ殆ント原産地タル吉野地方ヲ壓倒シ去ラントスルノ趨勢ナリト云フ而シテ原料ハ擧ケテ之ヲ吉野地方ニ仰ケルヲ以テ材質及ヒ品容ハ共ニ吉野産出ニ酷似スト雖トモ尙ホ聊カ遜色アルヲ免カレス然リト雖トモ今回出品ニ係ル右兩名ノモノ、如キハ幾ント斯材ノ好模範トシテ耻サルモノタルヲ認ム

熊本縣 同縣出口勸次郎出品ノ樽丸ハ品質ニ於テハ奈良地方ノモノニ比シ稍ヤ劣レル所アリト雖トモ同縣ニテハ近年大ニ之レカ改良進歩ノ途ヲ圖カリ隨テ産額モ亦大ニ増加シ已ニ平均一箇年ノ産額一萬五千九百已上ニ及ヘリト云フ若シ夫レ一層ノ注意ト熱心トヲ以テ更ラニ斯業ノ發展ヲ圖レハ九州地方ニ一頭角ヲ顯ハスニ至ルヘキヤ蓋シ難キニアラサルヘシ長野縣 同縣ノ松原熊五郎出品ノ桶材ハ前記清酒桶樽ト趣キヲ異ニシ麥酒ノ容器ニ供スル

加工樽丸ニシテ原料ハ樽材ヲ供用セリ産額ハ目下不明ニ屬スレトモ一旦中央鐵道ノ貫通ヲ告ケ交通機關ノ設備完成ヲ見ルニ至レハ少クトモ十萬樽ノ輸出ハ爲シ得ヘシト云ヘリ假令卒カニ其豫期ノ如キ産額ヲ見ストスルモ同人カ他ニ卒先シテ該樽材ノ出品ヲナシタルハ寔ニ多トスヘキ處ニシテ近年麥酒ノ醸造高年々歳々ニ増加シ隨テ之カ容器ノ必須ハ甚タ其急ヲ告タルモノアルカ故茲ニ此種ノ樽材産出ヲ圖ルハ頗フル時機ニ適シタルモノト云フヘシ當業者須ク銳意奮勵益々其増産及ヒ改善ヲ期セサルヘカラサルナリ

已上ノ數人ハ今回二等乃至三等ノ受賞格ニ入りタルモノニシテ是獨リ出品者ノ榮譽ナルノミナラス亦以テ地方ノ聲譽ヲ發揚セルモノト云フヘキナリ
巖手縣 高畑榮次郎出品桐丸太及木履材及ヒ同小野寺平次郎出品木履材ハ何レモ品質適良ニシテ且ツ産額ハ前者ハ一箇年平均一萬五千足後者ハ七萬足ニ達シ地方有數ノ當業者ナリト謂フヘキナリ販路ハ専ラ東京地方或ハ青森方面ニシテ益々用途ノ擴張ヲ圖リツ、アリト云フ若シ今日ノ有様ニ安セス努メテ品質ノ改善ト産額ノ增多ヲ圖ラハ地方ノ一特産タルニ至ルヘキヤ疑フヘカラストス

福井縣 同縣上林吉平出品ノ下駄木地ハ原料ハ越前桐横梗ニシテ品質適良大ニ見ルヘキモノナリ産額モ亦年々三萬足此價格七千五百圓ヲ下ラス販路ハ専ラ京阪地方ナリト云フ而シテ明治三十二年以來各共進會等ニ於テ屢々賞牌受領ノ名譽ヲ博シ斯業ノ爲メニハ明治二年已來大ニ盡瘁シツ、アリト云フ已上ノ兩名ハ共ニ優等ノ賞格ニ入りタルモノニシテ右ノ外

今回衰狀ヲ受領セシハ下駄齒板材、桐材、木履等ニ於テ大阪府一名、埼玉縣二名、奈良縣二名、三重縣三名、靜岡縣一名、巖手縣六名、青森縣一名、秋田縣一名、岡山縣一名、福岡縣一名、宮崎縣四名、臺灣二名ナリ

大阪府 同府青岡又次郎同稱原虎之助出品ノ桐材ハ輸入清國材トシテハ何レモ優良ナル材質ニシテ前者ハ山東省ノ産出ニシテ後者ハ芝罘地方ナリトス今之レカ輸入高ヲ聞クニ青岡又次郎分ハ明治三十二年ニ於テ一千百本此價格壹萬五千五百圓、同三十三年ニ一千二百本此價格壹萬六千貳百圓、同三十四年ニ一千八百本此價格壹萬七千八百圓、稻原虎之助分ハ明治三十三年ニ於テ二百六十本此價格六千五百圓、同三十四年ニ二百八十五本此價格六千九百五拾圓、同三十五年ニ三百十五本此價格七千參百六拾圓ナリトス右兩名ノ手ヲ經ルモノ、ミニシテ已ニ此ノ如シ其本邦產桐材培養ノ急ハ一日モ等閑ニ附スヘカラサル所ナリ

靜岡縣 同縣島田木工所出品櫛ビール外國ハ年々ノ産額ハ二十五萬兩ヲ下ラス茶函モ亦十五萬兩ヲ超ユルト云ヘリ而シテ其材品加工共ニ太ク精良ニシテ何レモ見ルニ足ルヘキモノナリ同縣龍東木材株式會社ノ出品茶函及ヒ石油函組板モ亦前者ニ讓ラサル良品ニシテ且ツ茶函ハ年々六萬兩此價格貳千八百圓ヲ産出シ横濱アーノルドツナム商會ノ手ヲ經テ印度ヘ輸出シ又石油函ハ年々五萬兩此價格八千五百圓ヲ製出シ販路ハ重モニ京濱地方ナリト云フ何レモ海外貿易品トシテ好望ナル品種ナルカ故努メテ品質ノ改善ヲ圖リ益々顧客ノ信用ヲ博センコトヲ望ム

和歌山縣 同縣尾崎作次郎出品ノ茶函ハ是亦品質好良ニシテ且ツ産額モ亦年々十萬兩ヲ下ラスシテ販路ハ印度、錫蘭、古倫母、孟買及ヒ臺灣地方ナリト云フ以テ其海外貿易品トシテ經視スヘキモノニアラサルヲ知ル而シテ已上兩縣ノ出品ハ今回何レモ優等ノ賞格ニ入りタルナリ

宮崎縣 同縣新原吉兵衛出品ノ石櫛材ノ櫛木ハ其品質極メテ好良ニシテ大ニ見ルヘキモノナリ而シテ毎年ノ産額ハ約三千挺一挺ノ價平均貳拾五圓ナリト云ヘハ之カ總額實ニ七萬五千圓トナルヘシ又以テ其産額ノ尠少ニアラサルヲ知ルヘシ今回特ニ優等賞格ニ入りタルハ又榮トスルニ足ルヘキナリ

京都府 同府長島常次郎出品木綿ハ新規ノ考案ニ出テタル者ニシテ前途頗フル有望ナル加工材ナリトス而シテ出品者カ茲ニ著目シテ以テ斯業ヲ創始シ竟ニ今日ノ好果ヲ收メタルハ林産製作上ノ一進歩トシテ賞揚セサルヲ得サルナリ今左ニ之カ解説書ヲ抄録シテ參照トス

京都府京都市室町通三條上ル役行者町長島常次郎出品木綿解説書抄録

製造地 京都府愛宕郡鞍馬字二ノ瀬長島木綿製造場所有構造木造平家建三十六坪一棟

原料 鞍馬産松材 一種

製造用品 米國製スクルーマシン機械乃附屬器 一式

製造方法 水力ヲ以テ機械ヲ運轉シ原料ハ松材ヲ以テ木綿ニ刻ム是迄歐米ニテ製造シツ、アルヲ自己ノ實驗ニ依テ製造ス

沿革 明治三十五年五月ヨリ創業シ今日ニ至ルモ繼續ス但別ニ沿革史ヲ添附ス
製造品ノ數量價格及其販路 明治三十五年五月創業以來八箇月間數量
一一萬二千八百貫目 其價格 金四千圓也

内地全國一般

效用 陶磁器漆器家具硝子諸機械類總テ破損シ易キ物品ノ函詰合又ハ軍機運搬ノ荷詰原料及陸海軍ノ寢具馬車人力車汽車汽船ノ蒲團或ハ寢臺等ノ中綿代用ニ適當ス

褒賞 ナシ

審査請求主眼 夫レ木棉ヲ製出スルニ到ル該木棉ノ用途トシテハ陶磁器漆器家具硝子諸機械類等總テ破損シ易キ物品ノ函詰又ハ軍器運搬ノ荷詰原料及陸海軍ノ寢臺馬車人力車汽車汽船ノ蒲團或ハ寢臺等ノ中綿代用トシテハ最モ適當セリ既ニ木棉原料ハ精良ナル松材ヲ以テ製造シタルカ故ニ幾年月ヲ經ルモ蠱害ノ憂ナシ又塵埃更ニナク腐敗スルコトナシ最モ質ハ軟カニシテ必要品ナリ爲メニ温クシテ寢心ヨク衛生上缺クヘカラサル必要品ナリ又荷詰ニハ取扱ノ如何ニ荒クトモ荷造ニ變形スルコトナシ故ニ物品ノ破損皆無ナリ容積ヲ減スルヲ以テ運賃及外函ノ費用ヲ節減ス又幾回ニテモ使用スルヲ得故ニ取捨ノ費ヲ要セス順次販路モ擴張シ既ニ福知山歩兵第二十聯隊ノ御用命ヲ蒙リ爰ニ缺クヘカラサル必要品ト御認定相成績々用命ヲ辱セリ又内地陶磁器銅器硝器貿易家當業者間ニモ多ク用ヒラレツ、アリ又海外輸出ハ神戸五十二番館ミシグルストンベタ商會同百番館ウイン

クシル商會同六十九番館ブリスト商會同九十六番館エヌストラッス商會等ノ手ヲ經テ續々輸出ス尙ホ將來益々販路ヲ擴張シテ海外ニ輸出スルヲ目的トス

東京府 同府清水廣吉出品張付板ハ是レ亦前記木棉ノ如ク近年ノ創始ニ係ルモノニシテ枕近貴重木材漸次拂底ヲ告クル今日ニ於テハ最モ有益ナル加工品トシテ且ツ最モ有望ナル事業トシテ其開始ニ著手シタルハ大ニ之レヲ多トセサルヘカラサルナリ左ニ其解説書ヲ抄出シテ參照トス

東京府東京市神田區三崎町清水廣吉出品改良板自一解説書抄録

製造地 本品ハ東京府東京市本所區徳右衛門町二十五番地出品人所有ノ工場ニテ製造セリ其製造工場ハ間口四間奥行八間ノ平家建ニテ此建坪三十二坪ナリ

原料 本品製造ニ要スル原料ハ如何ナル木材ニテモ最モ價格ノ高價ナル多數ヲ得ルニ難キ原料ヲ使用シ之レヲ普通ノ廉價ナル木材ノ面ニ固著セシメテ高價ナル木材ノ如ク外見ヲ裝飾スルモノニシテ其原料ハ一定セサルモ本品中第一號ハ神代杉第二號ハ杉柎ヲ普通ノ廉價ナル杉板ニ固著シテ製スルモノトス

製造ノ機械及製造方法 本品ヲ製スルニハ其表面トナスヘキ薄板ヲ製スルコト最モ肝要ナル者ニシテ其薄板ヲ製スルノ機械ハ出品人ノ發明ニシテ目下特許出願中ニ係ルモノニテ即チ長二間二尺幅四尺ナル鉋臺ニテ一種特製ノ構造ヲ有スル鉋ト木材面ヲ磨擦スル轉軸トヲ具ヘ勢輪付螺旋軸ニ依リテ進退スヘキ裝置ト其鉋臺上ヘ載セタル木材ヲ適宜ニ壓

追シツ、支持スルニ足ルヘキ木材支持装置トヨリ成ル一種ノ薄板製造機ニテ剝キ取リタル薄板ヲ更ラニ壓迫機ニ依リテ平面ニ癖ヲ直シ之レヲ一種ノ塗料ニテ普通ノ廉價ナル板ニ張り合セテ製スルモノニシテ該薄板製造機械ニテ本品ニ要スル薄板ヲ一時間凡ソ一百枚ヲ容易ニ製スルコトヲ得ヘキモノトス而シテ此表面トナルヘキ薄板ヲ普通ノ廉價ナル板ニ張り合スニハ廢、藪、玉、生、澁、漆ヨリ成ル合成塗料ヲ以テ固著乾燥セシメタルモノニシテ此塗料モ種々實驗ヲ經テ出品人ノ考案シタルモノナリ

效用 近年ニ至リ太キ木材ノ缺乏セシ爲メ幅廣ナル板類ノ著シク騰貴セシノミナラス之レヲ多數ニ得ントスルモ甚タ容易ナラサルニ至レリ然ルニ本品ノ如クナストキハ四分板一枚ヲ以テ凡ソ之ヲ八枚ニ製スルコトヲ得其表面トナルヘキ板ノ如キハ其幅ヲ接キ足シテ製スルモ敢テ妨ケナキヲ以テ天井板等ニ使用スルトキハ高價ナル木材ヲ以テシタルモノト毫モ其觀ヲ異ニスルコトナク又其張り合セノ塗料ヨリ蟲ヲ生シ或ハ剝離スル等ノ患更ラニナキヲ以テ裏面ノ板ト同等ノ年數間ヲ保ツコトヲ得ヘキモノトス本品ノ製出セサル前ヨリ經木ト稱スル鉋屑ヲ板或ハボール紙ニ張り付ケ外見ヲ裝ヒタルモノ行ハル、ト雖トモ之レ等ハ僅カニ長二尺幅三四寸位ノモノヲ製シ附著スルニ止マルモノニシテ之レヲ附著スル糊モ不完全ナルカ故ニ一見シテ張り合セ品ナル事ヲ見別ケ得ヘキモノニシテ本品ト同一視スヘキモノニアラサルナリ

沿革 本品ハ其原料タル薄板ヲ製作スヘキ薄板製造機械ト共ニ明治三十四年五月始メテ

發明考案シタルモノニシテ製造ヲ開始セシハ本年六月ナリ故ニ沿革トシテ記スヘキ程ノ事蹟ナク又製造額及ヒ販路等ニ付テ記スヘキコトナシ今ヨリ益々業務ヲ擴張セント欲シツ、アルモノナリ

審査請求ノ主眼 本品ニ就テ審査ヲ乞ハント欲スル點ハ少量ノ原料ニ僅カニ工賃ヲ加ヘテ高價ナル天然之板ト同一ノ美觀ト耐久力トヲ保タシメ天井板等ニ適當ナラシムルニア

北海道 同道成田忠治出品屋根用材ハ其製法ニ於テハ普通ノ品種ト大差ナシト雖トモ其材質ヲ精撰セル點ニ於テ其加工上ニ特殊ノ注意ヲ施セル點ニ於テ優ニ他ニ超越セルモノアルヲ認ム本品ハ主ニ建築用品トシテ缺クヘカラサル必要品ニ屬スルカ故需要ノ途ハ甚タ廣ク前途益々有望ナルモノナリトス況ンヤ北海道ノ如キハ其原料ニ富メルカ故之レカ製造ヲ爲スニ甚タ利便ナルモノアルニ於テヤ今左ニ之カ解説書ヲ抄録スヘシ

北海道後志國小樽區山田町成田忠治屋根用材出品解説書抄録

製造地 北海道小樽區山田町五番地所在工場平家木造建坪附屬物置共七十坪

原料 北海道石狩國札幌郡平岸村字完山溪附近ニ於テ産出スル蝦夷松及椴松ノ二種ヲ以

テ原料トス

製造用品 鋸、鉋、曲刀、曲尺

製造方法 寸法原料木材ヲ三分シ之ヲ大鉋ヲ用ヒ木理ニ從テ適宜ノ厚サ即チ一箇ノ原材

(厚サ一寸二分)ヨリ一分柎十六枚又ハ二分柎八枚ヲ製シ得ル様ニ度リテ之ヲ分割シ而シテ曲刀ヲ以テ四面ヲ平滑ナラシメ後チ鉋ニテ所要ノ枚數ニ分割シ之ヲ平行スレハ二十間ニ分柎ハ之ヨリ間數少ナシニ遠スルヲ限度トシ繩ニテ把束シ以テ其ノ需メニ供ス

沿革 明治十年生國ヨリ渡道ノ際ニハ當區未タ創業ニ際シ百般ノ事業微々トシテ振ハス從テ柎屋業ノ如キモ皆無ニシテ斯業ニ從事スルモノナシ然レトモ不肖將來必ス繁盛ノ地タルヲ慮リ居ヲ當區ニ占メ原料ヲ後志國余市郡ヨリ輸入シ銳意之レカ製造ニ從ヘリ爾來年ヲ逐フテ商工業ノ發達スルト共ニ業務ノ繁盛ヲ來タシ夜ヲ日ニ次クモ又タ足ラサルノ有様ニシテ余市郡而已ニテハ其需要ニ應スル能ハサルヲ以テ更ニ原料ノ本道札幌郡平岸村宇完山溪附近ニ仰キ現時ニ及ヘリ

製造ノ數量價格及其販路

| 數量價格 | 數量 | 價格 |
|--------|---------|---------|
| 明治三十二年 | 四萬三千三百把 | 壹萬千六百拾圓 |
| 同 三十三年 | 四萬五千〇〇把 | 壹萬參千五百圓 |
| 同 三十四年 | 五萬〇〇〇〇把 | 壹萬五千圓 |

販路 小樽ヲ最トシ利尻、禮文、燒尻、増毛、古手等ノ諸地之ニ次ク
效用 家根板用
褒賞 ナシ

審査請求ノ主眼 本島各地ニ於テ使用スル杉製柎板ニ比シ木理細密ニシテ油分ニ富ミ且ツ久シキニ耐ヘ能ク雨露ニ堪フル點

兵庫縣 同縣寺島半藏出品ノ鞭根ハ專ラ海外輸出ヲ目的トシテ原料ハ近畿ハ勿論四國、中國、東山、東海及ヒ九州地方等ヨリ蒐集加工ス其產額多量ニシテ品質亦太々適良ナルカ故近年著ク歐米人ノ費用ヲ受ケ年々其需要ノ多キヲ加ヘ前途極メテ好望ナル輸出品ナリトス本品ハ馬鞭トシテ洋杖トシテ又蝙蝠傘ノ柄トシテ或ハ其他ノ工藝的製作品トシテ近年之レカ製品種類甚ク増加シタリト雖トモ尙ホ他ニ用途ヲ擴張スルノ餘地アルヲ信ス當業者タルモノ決シテ今日ノ現狀ニ満足セス努メテ斯業ノ發達ニ盡瘁アラントラ望ム左ニ其解説書ヲ抄出シテ參照トス

兵庫縣神戸市寺島半藏出品鞭解説書抄錄

製造地 製造工場ノ如キハ各國原料品買集派先便宜假設ス其所以ハ本品ノ原料タルヤ他ノ物品ヲ買得スルト甚タ異ナリ何レモ深山幽谷ノ竹林ニ求メサレハ得ヘカラサル一大至難ナル原品ノミナラス日數ヲ經レハ忽チ品質ヲ傷損シ變色シテ其用ニ適セス故ニ原料ヲ出スニ便ナル土地ニ於テ假設スルカ故ニ是カ工場建坪等ハ明記セス

原料品 各國ニ産スレトモ九州各地最モ多シ四國、中國、畿内、東海、東山是ニ次ク雖然暖國ノ品質ヲ最モ可トス原料切取時期ハ九月中旬ヨリ年三翌月上浣迄ヲ適當ノ期間トシ其他ハ皆否ナリ

製造用品 小刀、弦掛鋸、煉瓦亦ハ木造ニ粘土ヲ用ヒタル等ノ火鉢、鐵製棒、檜木造萬力數百白砂、炭、硫黃、晒蜜蠟、麻布、白木、綿、麻繩、藥繩等其他暑夏ノ輸出品蟲害ニ供スル豫防ノ洋藥品等ニシテ製造用具ハ輕便ナリトス

製造方法 山谷竹林ヨリ切り出シ得タル根鞭ハ其節々許多ノ小根アリ之ヲ芽取りト稱ヘテ小刀ヲ以テ剪リ取り其芽取方ノ巧拙ヲ検査シ是ヲ火鉢ニ懸焙シ火力ノ程度ヲ計リ萬力ヲ以テ屈曲ヲ撓メ直シ而シテ清川若シクハ水舟ニ浸シ白砂ヲ以テ根鞭ノ油及垢ヲ磨擦洗除シ之ヲ検査シ而シテ三十本乃至四十本繩ニテ編ミ一連毎ニ木竹ヲ以テ作りタル乾燥場ニ釣リ下ケ日光ニ晒スコト三十五日乃至四十日間ニシテ乾燥ノ適否ヲ檢シ再ヒ清川ニ侵シ粉糠等ヲ用ヒ克ク洗滌シ水中ニ侵スコト數時間品質ニ依リ水中ニ沈ムル度ヲ判別シ程度アルヘシ而シテ清水ニテ洗上ケ再ヒ懸焙シ水分ト火力トノ作用ニ依リ其品質ノ實力效用上ニ適耐完全ナラシメ爾後日光ニ晒スコト四五日間而シテ歐米ノ寸尺適度ニ切揃ヘ然ル後三度目ノ火力ヲ以テ硫黃及晒蜜蠟等ヲ用ヒテ光艶ヲ平均シ綿布ヲ以テ克ク磨キ光澤ヲ出シ全ク終了スルナリ此日數五十日乃至六十日間ヲ要ス

沿革 本品製造ノ根鞭タルヤ維新前ニ在テハ我國大名ノ士卒馬術練習ニ用ヒタルモノニシテ其製産販賣ノ數ニ至ツテ僅少ナリシニ維新後歐米各國ニ通商貿易ヲ許容セラレタル好果ニ依リ明治七八年ノ頃市メテ常港居住ノ外商ニ見本ヲ販賣シ海外ヘ輸出ヲ試ミシニ其質粘塊堅剛久シキニ耐ユルヲ以テ幸ヒニ彼カ嗜好ニ適シ需要年月ニ増加シ來リ十一年

ニ至ツテ彌々盛況ヲ得タリト雖トモ其原料タルヤ漸ク近國ノ山谷ヨリ蒐集スルニ止マリ其需要ニ應スル不能故ニ余ハ遺憾ニ堪ヘス卒先シテ中國及九州各地ニ渡航シ汎ク深山幽谷ヲ跋渉シ我カ生國滋賀縣近江國栗太郡草津町ニ運輸シ鞠躬製造方法ニ勉務ス故ニ本品原料ハ十中ノ八九以上他國ニ得ルモ草津町ノ名産トナレリ然ルニ明治十四五年ニ至リ粗製濫造者交々起リ本品ノ信用ヲ失墮シ爲メニ聲價暴落非常ノ慘境ニ遭遇セリ此ノ間余ハ東國各地ノ山谷ヲ跋渉シ十七年秋四國及九州ヨリ再ヒ原料ヲ蒐集シ製造方法モ一大改良ヲ加ヘ遂ニ十八年ニ至リ前ニ勝ル盛況ヲ得タリ而シテ二十三年末ニ於テ再ヒ不況ニ陥ルト雖トモ余ハ經驗上克ク忍耐不撓一層原料ノ撰擇及製法ヲ研究シ二十四年末ニ至ツテ稍々需要ヲ増加シ來リ二十五年全ク恢復ス以後年々増進ヲ保テリ然ルニ二十九年亦々不況ヲ呈シ而シテ三十一年ニ至リ稍々挽回ノ域ニ達シ三十三年最モ未曾有ノ盛況タリシニ三十四年春後ヨリ北清事變ノ影響及社會一般ノ不振ニ伴ヒ大ニ需要ノ減退ヲ來シ今猶不況ノ範圍ヲ脱スル不能幸ヒ明春大阪市ニ於テ執行セラル、第五回內國勸業博覽會ニ出品シ歐米來客會覽者ヲシテ今後ノ需要ヲ企圖セントス

製造本品ノ數量及價格 海外輸出以來時ニ盛衰アリト雖トモ其需要ノ増進昔日ノ比ニアラス茲ニ既往五箇年ニ於ケル製造高及價額左ノ如シ

| | | |
|--------|--------|---------|
| 明治三十年 | 三六四五八九 | 一七六七八一四 |
| 同 三十一年 | 四三九一七〇 | 二一八七〇七九 |

| | | |
|--------|---------|-----------|
| 明治三十二年 | 五八三、六九二 | 二九、三五八、七〇 |
| 同 三十三年 | 七二八、二六五 | 三七、八二一、四六 |
| 同 三十四年 | 五二一、八〇〇 | 二五、七三六、〇八 |

本品ノ販路英國最モ多シ獨、佛、米其他聯邦領土
 效用 其最モ主用トスルハ身體健康ヲ保持センカ爲メ常ニ運動用洋杖或ハ馭者競馬等其
 他嗜好上意匠ヲ凝シ粧飾品細工用ノ原料トス其質堅剛克ク久シキニ耐ヘ年ヲ經テ其光艶
 ヲ増ス等本品ノ特色ナリ

審査要求ノ主眼 本品ノ原料ハ遠ク各國ノ産地ニ蒐集ヲ要セハ運送費用當ミ亦原料ノ傷
 損多ク加之ナラス販路ヲ阻害セラル故ニ余ハ鞠躬苦心ノ結果到ル所便宜其他ニ於テ製造
 ヲ企圖セシニ原料ノ傷損ヲ防キ許多ノ運輸費ヲ省キタル等大ニ本品ノ生産元費ヲ減少ナ
 ラシタル原山ナリ

本品輸出ヲ増進セシ所以ハ明治十七年秋余カ再ヒ九州渡航ノ際日向、大隅、薩摩等各地ノ山
 谷悉ク跋渉セシニ至ル所(五三竹)ト稱スル竹林及眞竹等許多アルヲ探見セリ適々(從來ノ原
 料ハ淡竹ト稱フ一種ニシテ需要ニ應スル至難ニ苦心シ各地ヲ探ル)余此二種ノ原料ヲ蒐集
 シ百方製造ノ適否ヲ研究シ遂ニ良好完全ナラシメ而シテ當港二十五番(館主フワバ獨逸人
 ボイト氏)商會ヨリ見本トシテ各國ニ輸送ヲ試ミシ好果翌年ヨリ之カ需要前品ニ勝レリ茲
 ニ於テ三種ノ原料ヲ製シ許多ノ需要ニ應スルヲ得セシメ大ニ本品ノ輸出ヲ増サシメタル

一大原山ナリ

本品カ屢キニ海外へ輸出ヲ試ミシ當時ニ在ツテハ未ダ歐米ノ風俗人情ニ暗キカ故ニ何用
 ニ主用スルヤ其智能ニ乏シク概子我曲尺三尺内外ニ切揃へ輸出セシニ本品カ特色堅剛粘
 撓ニ富メルヲ賞識シ彼レ等常ニ携帯スル運動洋杖ニ用ヒ大ニ流行セシモ嗜好ニ缺ケル處
 (短尺ニシテ曲ケ杖亦ハ馭者及其他粧飾細工用ニ適セス)アリ故ニ之カ探究上苦心ノ結果歐
 米ノ尺度ト改良シ長キハ七十吋迄ヲ製造輸出セリ其他藥品及火力ヲ利用シテ本品ヲ自在
 ニ曲ケ亦品質、光色、蟲害等製法上ニ改善ヲ加ヘタルコト頗ル苦心多カリキ本品輸出ノ初メ
 明治七八年ヨリ三十四年迄ハ光澤ニ意ヲ用ヒサリシ余茲ニ見ルアリ本品ハ是レ天産ナレ
 ハ其生地ノ土質或ハ品産年度ノ甲乙丙ニ依ツテ光色上ニ差異アルハ自然ノ數ナリ之カ等
 差ノ平均ヲナサシメハ其品位ヲ高メ需要ヲ増サシメンカ爲メニ余カ十七年千辛萬苦考究
 ノ結果硫黃及晒蜜蠟等ヲ利用シ遂ニ其異色ヲ平均シ克ク光澤ヲ永久ニ保持セシムルコト
 ヲ一大發明セシ所以ナリ

本品其切取季節ヲ九月中頃ヨリ翌年三月上旬迄ヲ適用ト定メタル所以ハ其製造法ニ俟ツ
 コト許多アリト雖トモ原料品質ノ撰擇適度ヲ缺クトキハ其粘撓堅剛ヲ永久ニ保持シカタ
 キハ余カ經驗上考究セリ故ニ我カ製品ハ此範圍内ニ蒐集セシカ爲メ久シキニ耐フルノ特
 色ヲ有セリ

本品ヲ海外歐米ニ試賣セシ以來既ニ二十七年有餘ノ久シキ星霜ヲ經タル間原料蒐集ノ爲

メニハ各地ノ山谷ニ東奔西走シ日没宿泊ナキニ窮困シ或ハ食ヲ求ムルモ得ヘカラス亦到ル所ノ細民ヲシテ製造ノ何タルヲモ辨知ナキニ指南誘導シ需要盛衰ノ劇變數回ニ遭遇セシ等悲境慘憺タル枚舉ニ遑アラスト雖トモ余ハ堅忍不撓一層原品ノ撰擇ニ意ヲ注キ是カ製造改良ニ努力セシ結果遂ニ今日ノ盛況ヲ致セリ此間余カ最モ遺憾トスルハ此長年月間ニ於テ勸業獎勵ノ爲メ内國勸業博覽會及五二共進會等數回アリト雖トモ如何セン前項陳ル如キ東奔西走ニ遮キラレ荏苒出品ヲ怠リシコト是レナリ然ルニ幸ヒナルカナ明春第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開會セラル、好機今ヤ余カ宿志亦誠遂ニ空シカラス茲ニ出品スルノ光榮ヲ得タリキ今後倍々本品ノ隆盛ヲ企圖シ廢物利用ニ努力シ我國ヲ裨益セントスル所以ナリ

滋賀縣 同縣木村熊次郎出品鞭根ハ特ニ品質優良ナルモノニシテ且ツ産額モ甚タ大ナリ同人ハ專ラ製造ヲ主トスルカ故ニ規模ノ廣大ナル恐ラク他ニ匹敵スヘキモノナシ而シテ年々ノ産額ハ實ニ百五十萬本此價格拾五萬圓ヲ下ラスト云ヘル故其收利亦甚タ尠ナカラサルヲ知ルヘキナリ右兩名ノ外愛媛大分鹿兒島宮崎ノ四縣ヨリ各二點熊本島根高知三縣ヨリ各一點ヲ出陳セシト雖トモ何レモ大同小異ニシテ品質ノ特ニ出色ナルモノアルヲ見ス且ツ産額モ太々僅少ナリ今左ニ滋賀縣木村熊次郎ノ解説書ヲ抄録シテ參照トス

滋賀縣栗太郡草津町木村熊治郎出品竹根鞭解説書抄録

製造地 滋賀縣近江國栗太郡草津町大字矢倉

製造工場 十四箇所

- 第一 二階造瓦葺 滋賀縣栗太郡草津町大字矢倉
- 第二 平屋造同 同
- 第三 二階造同 同
- 第四 平家造同 鹿兒島縣鹿兒島市鷹師町
- 第五 同 同 同縣薩摩郡川内町
- 第六 同 同 大隅國肝屬郡鹿屋町
- 第七 同 同 日向國東諸縣郡高岡町
- 第八 同 同 同國北諸縣郡庄内町
- 第九 同 同 肥後國上益城郡御舟町
- 第十 同 同 同國菊池郡隈府町
- 第十一 同 同 同國球磨郡人吉町
- 第十二 同 同 駿河國靜岡市裏一番町
- 第十三 同 同 筑前國福島町
- 第十四 同 同 同國秋月町

此建坪合計百六十九坪

乾燥場 十四箇所

第二部 機械、器具及製作用ノ加工木竹材

此坪數 合計二千七百九十九坪
製造人數 一箇年延へ人員

合計二萬四千人 但採取人此外トス

原料 淡竹根、苦竹根、小三竹根、黑竹根ノ四種トス

此產地 九州一圓、四國、石見、出雲、周防、長門、畿内及ヒ近畿諸國、遠江、駿河、甲斐

製造用品 矯曲器、木製、火爐、鐵架、小刀、鋸

製造方法

一採取シ來レル竹根ノ未タ乾燥ニ傾カサルニ先チ節々ノ小芽及其節々ニ環生セル細根ヲ小刀ヲ以テ剪除ス

二而シテ之レヲ炭火上ニ掛ケ熱ヲ與へ漸ク軟カナルヲ俟テ矯正器ヲ以テ一々其曲所曲所ヲ矯直ス

三之ヲ日光中ニ曝ス事三十日乃至四十日間

四而シテ其乾燥スルヲ俟テ之レヲ泥中ニ投シ其一端ヲ持テ用鋸的操作ヲ爲シ之レヲ摩擦スルコト數十回

五然ル後清水ニ洗ヒ日光ニ晒シ乾燥ノ後再ヒ炭火ニ上シ熱ヲ與へテ更ニ矯直ス而シテ之ヲ日光ニ晒スコト十日乃至十二三日間

六而シテ又之レヲ文火ニ上シ熱ヲ與へ丁寧ニ之レヲ矯直シ全體毫モ曲折無キニ至テ之レ

ヲ仕上ケトス

但經驗ニ依テ得タル製造上ノ改良ハ第一項ニ陳ル小芽又ハ節々ノ細根ヲ剪除スルコト
昔日ハ一人一日三十本乃至五十本ナリシモ今ハ二百本乃至三百四五十本ヲ剪除シ得ル
ニ至レリ又之ヲ磨クコト昔日ハ藤蔓ヲ束子タル(タワシ)ヲ用ヒテ之ヲ摩擦シタルモ近時
ハ第四項ニ陳ル如ク泥土ニ依テ磨クコトヲ發明シタルカ故ニ昔日ノ操業ニ比シ殆ント
七倍ノ多キヲ作シ得ルニ至レリ

右等實驗上ヨリ得タル所ノ製造法、改良法ノ一部ニシテ爲メニ大ニ産額ヲ増シ製造費ヲ
削減シ其價ヲ廉ナラシメタリ而シテ本品ノ製造ニ於ケル最モ必須ナル要點ハ第一其産
地ノ地質及ヒ氣候ニ由テ其品質ノ良否アルコトヲ鑑別スルコト第二其採取シ來レル際
ニ於テ其現品ノ良否ヲ鑑定スルコト、ス若シコノ鑑別撰擇ヲ誤ランカ如何ニ製造ニ力
ヲ盡スモ良品ヲ得ルコト能ハス

沿革 吾矢倉ニ於ケル竹根鞭ノ濫觴ハ遠ク後冷泉天皇ノ時代ニ在リ勿論内國用ニ在リテ
ハ乘馬用ナルカ故ニ爾來武門ノ繁榮ト共ニ漸ク其製造數ヲ増加シ來リ徳川時代ニ至ツテ
益々盛況ナリシト雖トモ現今ノ製産數ニ比スレハ僅カニ百分ノ一ニ過キス而シテ現今ノ
盛況ニ至リシハ專ハラ海外ニ輸出スルニ因ル海外ニ輸出ヲ試ミシハ明治六七年ノ交タリ
又木村熊治郎カ本業ヲ開始セシハ實ニ明治九年ナリ然ルニ當時ハ猶一箇年ノ輸出額僅カ
ニ十萬本許ニ過キサリキ於是漸次其製造方ヲ改良シ品質ヲ撰擇シ專ラ其價格ヲ廉ナラシ

メノコトニカヲ盡シタルノ結果販路自然ニ開ケ明治十五年ニ至テ總計六十萬本ヲ輸出セリ而シテ其翌十六年ハ外國市場ノ不景氣ニ遭遇シ殆ント其半額ニ減セリ翌十七年ヨリ漸次ニ恢復シ二十三年ニ至ル迄毎年平均六七十萬本ヲ輸出シ得タリ二十四年再ヒ不景氣ヲ來シ數ニ於テ凡ソ二割半ノ減少ヲ見價ニ於テ凡ソ三割ノ下落ニ遭遇セリ然レトモ吾カ竹根鞭ノ海外市上ニ於ケル弊價ハ決マテ此一時的不景氣ノ爲メニ失墜セサルノミナラス前途最モ有望ナルコトヲ確信シ毫モ屈撓セズ翌二十五年ニ於テ其製造額ヲ増加シ益々事業ヲ擴張セリ果セル哉景氣ノ恢復ニ連レ竹根ノ顧客多ク海外ノ市場ニ現ハレ此年ノ輸出額ニ多額ノ増加ヲ見ルニ至ラザリシモ六十萬本餘ヲ輸出シ爾來今日ニ至ル迄年々順況ニ發達シ遂ニ百四五十萬本ヲ輸出スルニ至レリ

製造品ノ數量價格及其販路 最近五箇年間平均一箇年凡ソ百五十萬本トス其價格ハ最上品一萬本ニ付金貳千五百圓最下一萬本ニ付金百五拾圓トス而シテ市價ハ此ノ五箇年間ニ在テハ格外ノ差違ナシ輸出先キハ(英國倫敦)獨逸(漢堡)米國(ニューヨーク)トス而シテ其數量ノ比較ハ英國(七)獨逸(二)五米國(〇)五

效用 乘馬用鞭、ステッキ、蝙蝠傘ノ握等ニシテ其他種々ノ工藝ニ應用ス
 審査請求ノ主眼 吾カ製造ニ係ル竹根鞭ハ元ヨリ天產物ナレハ其撰擇ニ因テ品質ノ良否ヲ定ムルヲ得ルノミ製造ノ巧拙ニ因テ其實質ヲ改良シ得ヘキ者ニ非ス故ニ今審査ヲ請フノ主眼トスル處ハ暫ラク類似ノ言ヲ假リテ之ヲ言ハ、所謂廢物利用ノ益トモ言フヘキ點

ニ在リ蓋シ採リテ竹藪ニ害ナキ部分(特ニ注意スヘキハ竹藪ノ利害ニ關スヘキ根部ハ製造鞭トシテ用フヘキ所ニ非ルコト是レナリ)ヲ剪取シ之レカ販路ヲ海外ニ開キ以テ國益ヲ謀ルノ一端ト爲ント欲スルニ在リ故ニ其製造方法ヲ改良スルモ單ニ需要者ノ眼ヲ引ンカ爲メノミナラス其嗜好ニ適センカ爲メノミナラス第一生産費ヲ減削シ海外市場ノ販路ヲ開キ其輸出額ヲ増加セント欲スルニ在リ故ニ單ニ吾國ニ於ケル竹根鞭ノ用途若クハ其效用等ニ重キヲ置キ以テ之レヲ論スルコト無ク特ニ貿易上ノ國利ニ著目セラレ物質以外ノ要點ヲ捉ヘ來テ以テ審査上ノ主要トセラレンコト實ニ吾竹根鞭ノ審査ヲ請求スル主眼トス

受賞 褒 狀 明治二十八年第四回内國勸業博覽會
 五等褒賞 明治三十年聯合共進會

有功賞銅牌 明治三十一年第二回五二會全國品評會
 埼玉縣 同縣比企郡松本忠治外二名ノ出品竹繩ハ古來此種ノ製品ナキニアラスト雖トモ比較的需要ノ途狹キヲ以テ之レカ改良進步ノ跡ヲ認メサリシカ近年之レカ效用ヲ知了スルニ隨ヒ漸次需要増加シ産額モ亦隨テ多キヲ致スニ至レリ之レカ製法タル地方ニ因リ多少ノ相違アレトモ先ツ若竹ノ未タ葉芽ヲ放タサル已前即チ八月上旬ヨリ同中旬頃迄ヲ見計ラヒテ伐採シ之ヲ葉火ニ炙リ然ル後チ長サ九尺幅一寸乃至一寸五分ノ小割トナシ日光ニテ乾燥シタルモノヲ五日乃至七日間水ニ浸シ置キ之レヲ七枚又ハ十二枚ニ薄ク剥キ其皮肌ヲ捨テ、中身ノミヲ日光ニ晒ラシ少ク水分アル中ニ手ニテ片撚リニナシ更ラニ坐繰ニ掛ケテ絢ヒ上

ケ夫レヨリ磨用ノ其繩ニテ磨キ上クルモノナリト用途ハ麻繩、椶櫚繩等ト異ナル所ナシト雖トモ其牽引力、耐濕力等ノ強キカ上ニ之レカ保存期モ亦遙カニ他ノ繩類ニ優レルモノアリトス故ニ近來ニ於テハ河岸ノ蛇籠ヲ緊束シ或ハ石倉及ヒ養蠶上簇籠ノ釣用ニ供用シ海外諸邦ニ於テハ洗濯物干繩トシテ需要スルモノ多シト云フ尙ホ一層ノ注意ト熟練トヲ重ムルトキハ幾多ノ所用ニ充當スヘキ良品ヲ製スルニ至ルヘキヲ信スルナリ

宮崎縣 勝元龍吉出品竹綱ハ即チ前記埼玉縣ノ竹繩ト同種異名ニ過キス唯タ製法上ニ於テ前者ハ笥ヨリ採收スレトモ後者ハ發生後二三年ヲ經タル大名竹ノ表皮ヲ撚リテ製造スルノ差違アルノミ效用ハ運搬ノ曳綱、卷綱及船舶ノ繫綱等ニ供シテ最モ堅剛ナリ一箇年ノ産額概子壹千圓ヲ下ラサルヘント云フ

奈良縣 中水松治郎、兵庫縣岸田藤太郎、靜岡縣御宿近吉出品ノ筆軸ハ品質共ニ適良ニシテ産額モ亦尠カラス就中中水松治郎ノ如キハ明治三十四年中四百五十萬對此價格參千五百圓ヲ産出セリト云フ元來本品ノ如キハ最モ單純ナル品種ニ屬シ單價トシテハ極メテ僅々タルモノナリト雖トモ之レヲ總合スレハ決シテ侮ルヘカラサル多額ニ達スルモノナリ而カモ此種ノ消耗品ハ他ノ永ク保存使用スル品ト異ナリ意外ニ多キ需要額ト利益トヲ有スルモノナリ而シテ筆ノ性質上ヨリシテ見ルモ成ルヘク優美ナルヲ重シ彼ノ文人墨客ノ如キハ努メテ其品質ヲ撰擇シ若シ其品質ノ劣等ニシテ製造ノ粗惡ナルモノニ於テハ往々ニシテ蠶蝕ノ害ヲ招クカ故製筆家ハ其筆毛ノ品質ヲ撰ムト同時ニ筆軸ヲモ併テ撰擇スルモノナリ今左ニ中水

松治郎ノ解説書ヲ抄録シテ參考トス

奈良縣奈良市中水松治郎出品筆軸解説書抄録

製造地 奈良縣奈良市大字中筋町九番屋敷平家木造間口四間奥行十六間 支場同縣同市

同町十三番屋敷平家木造間口八間奥行二十五間

原料 矢竹、子竹

山城笠置産
山城八幡産
大和生駒産
大和初瀬産

餅金粉
セシクズ

紅粉

エルロウ

木附子

ロウハ

紫粉

棗茶粉

青竹粉

製造用品 大銅釜、大鐵釜、軸洗船、軸洗櫓、ハンキリ、コシキ、軸格函、イカキ、軸提鍵、鎌、軸剝庖刀、切

臺、軸晒大函、篋繩

製造方法 總テ製軸ノ重要眼目トスル處ハ竹ノ性質ヲ十分撰擇シ産地、氣候、寒暖、山ニ生スル部分ヲ精査吟味ヲ凝ラシ品位類別ヲ辨理シ熟練ナル職工ヲ擇ヒ製作ナサシム其始メニハ竹ヲ六寸五分ノ長サニ切リタル千本或ハ二千本ヲ括リテ一束トシ其レヲ銅釜ニ水ヲ入レテ四五束ヲ二十分間煮テ軸洗船ニ入レ二人シテ軸洗櫓ヲ以テ垢ヲ落シ地上ニ三十日間晝夜廣ク置キ其レヨリ括リテ硫黃ト曹達ニテ洗ヒ後晒函ニ入レ函ノ底ニ孔ヲ穿テ函ノ下方ニシテ「ユヲ」花ヲクスメ其烟リヲ入レテ一晝夜置キテ後篋ノ上ニ廣ク五六日間日光ニ晒シ上中下ノ三段ニ區別シテ上ヲ白晒軸トシ中ヲ染木地トシ下ヲ剝軸トス而シテ末ト幹トヲ見分ケテ尙ホ大中小ノ三段ニ區別シテ括リ置キ其レヨリ各需要者ノ手本ノ太サニ寄ルモノナリ

染軸ハ黄赤青竹、樺、蕨、紫丹ハ各染料ヲ銅釜ニ水ト共ニ入レ三十分間程煮テ陰干ニシテ筵ニ廣ケ乾スモノナリ、黒染軸ハ木附子ヲ鐵釜ニ入レ二日間煮テ「ロウハ、センクズ」及「醋」ヲ入レ尙ホ二日間煮テ一週間筵ニ廣ケ日光ニ晒シテ後「コシキ」ニ入レ六時間蒸シテ艶出スルモノナリ、剝軸ハ軸ヲ一夜水ニ漬ケテ其皮ヲ軸剝庖刀ニテ剝クモノナリ、燒小紋軸ハ泥ヲ斑ニ軸ニ附著シテ「ニガリ」ヲ一面ニ塗りテ燒クモノナリ

沿革 自分製職業ハ祖先年間ヨリ此職ニ從事繼續シ來リ漸々世ノ開明文運ノ進歩スルト共ニ著々製職ニ留意熱心シ専ラ隆盛ヲ祈リ日々販路ヲ擴張シ大ニ需要者ノ信用ヲ博シ帝國到ル所製筆者ニ愛用セラレ大ニ幸榮ヲ受クル者ハ傳來ヨリノ職製ニ就テ好ニ應シ改良ニ改良ヲ加ヘ精工且篤實ノ製作ニ依ルナラン自分ハ尙ホ一層商威ヲ張ランカ爲メ製職并ニ卸業ヲ專トシテ諸國ノ製筆者ノ需要品ハ多ク自家ノ製作ニ係ルモノナレハ商運ノ振興ヲ希圖シ當代中水松治郎勲業ノ御主旨ヲ奉體シ今般博覽會ニ出品シ繼續ノ業篤實ノ職ヲ公衆ニ現シ益々商業ノ活氣ヲ振ハントス爰ニ三代同職ヲ連續スルモノナリ

製造品ノ數量、價格及其販路

四百五十萬對 明治三十四年度一箇年數量

參千五百圓 明治三十四年度一箇年價格

販路 奈良、西京、名古屋、岐阜、豐橋、靜岡、東京、仙臺、敦賀、富山、新潟、今町、筑前、熊本、紀州、大阪貿易商館、神戸貿易商館

效用 中字筆、習筆、水筆、捌筆、眞書筆、簾

審査請求主眼 自宅筆軸ハ改良ニ改良ヲ加ヘ精工ノ名物品質ノ良好ヲ作り出サンコトニ一意是レ勉メ本職業務ヲ擴張シ益々増進ヲ計リ本會ニ出品シ公評ヲ請ハント欲ス其製作ノ要ハ竹ヲ十分撰擇スルニ假令ハ十一月下旬ヨリ二月下旬迄ニ切りタル者ヲ最良質トシテ蟲等ノ食フコトナク其他ノ月ニ切りタル分ハ蟲食フヲ以テ染軸等ニ用フル事アルモ性質粗悪ナルヲ以テ宜シカラス故ニ十一月下旬ヨリ二月下旬ニ切りタル竹ノ中等ヲ以テ染木地トス尤モ白晒軸ハ氣候ノ宜キ季節切りタルモノヲ撰ヒ多年ノ經歷篤實ナル職手ヨリ製作セシモノ故其方法ノ熟練ハ一々監督ヲ經テ出品シタルノミナラス抑モ粗畧ニ扱ハシメス實ニ精密懇到極意是レ勉ム故ニ需要者ニ信ヲ措キ販路爲メニ廣マリ年々産出増加シ商運隆昌ノ榮ヲ博スルニ至ルモノハ製作篤實ニシテ價ノ安低ナルトニ在リ假令ハ黒軸ノ製法ハ木地ヲ充分吟味シ木附子ヲ鐵釜ニ水ト共ニ入レ二日間煮テ「ロウハ」及「センクズ」醋ヲ入レ尙ホ二日間煮テ一週間日光ニ晒シ後「コシキ」ニ入レ六時間蒸シテ艶出スルモノニテ其染料ノ調合製軸ハ皆篤實懇到ノ職手多年傳來工夫經驗熟練精巧ヲ以テ作り上ケタル品ナレハ需要者爲ニ衆夥ニシテ販路廣大從テ利益ヲ見ルニ年々増加スルハ自家ノ幸福ナリ依而極意ニシテ職之篤實ト價値ノ安價ハ此現物ニ就テ審撰ヲ乞ヒ前記製法ヲ併セ見テ實檢セラレンコトヲ併セ懇願スル處ナリ

靜岡縣 萩田久作出品ノ烟管ハ鼈甲薄色尺三、切返シ「ツマリ」山鳥等ノ數點ニシテ製法ハ山地

ニ自生セル女竹ヲ鎌ニテ根切り鋸ヲ以テ小切レトナシ喇苧匏ニテ其表皮ヲ剝離シ夫レヨリ大釜ニ投シ十分間許煮沸シタル後チ十五日乃至二十日間日光ニ曝ラシ乾燥スルヲ俟ツテ切リ返ト稱シ再ヒ鋸ヲ以テ切り直シ爐火ニ掛ケ燻メ木ニ依リ其屈曲ヲ矯メ膠ニテ荒塗ヲナシ更ニ漆ニ顔料ヲ和シテ種々ノ模様ヲ附スルモノトス今回ハ獨リ靜岡縣ノ出品ノミナリシカ其品質適良タルヲ失ハサルト同時ニ産額モ亦少ナカラスシテ年々ノ産出鼈甲印二百俵此價格九百貳拾圓薄色尺三同切返シ「ツマリ」ハ三百三十俵價格壹千八百四拾五圓山鳥印一百俵價格九百圓ナリト云フ又以テ本品カ筆軸ト共ニ輕々視スヘカラサルモノナルコトヲ知ルヘキナリ

右ノ外ニ誠ニ巧妙ナル岐阜提灯「ヒゴ團扇竹精工ナル福井ノ箴羽男山ノ目釘竹等ノ出陳アレトモ前回報告ニ於テ詳説セシ點モアリ再ヒ茲ニ評記スヘキ特殊ノ點ナキヲ以テ之レヲ省畧ス

△△△△△
官廳出品 本項ニ屬スル出品ハ其種類及ヒ其數共ニ太ク少シトセス而シテ出品ノ旨意ハ其材質ノ適否及ヒ用途ノ一般ヲ示スニアリテ出品官廳カ直接加工材トナシテ之カ供給ノ局ニ當レル所以ニアラス又加工木竹材ノ外ニ純然タル製作品ノ出品モ二三ニシテ止マラサルモノアリテ是等モ其用途ニ於ケル實質及ヒ其適否ヲ示スニ外ナラサルカ故其出品方法ニ於テハ特ニ嚴肅ナル注意ト周到ナル用意ヲ要セサルヘカラサルモノナリトス即チ其原材ヲ基トシテ所謂系統的ニ加工材若シクハ製作品ヲ併陳スルヲ要シ少クトモ其厚木資材ト共ニ出品ス

シ陳列上ニ於テモ亦其順序ニ遵フニアラサレハ單ニ製作品若シクハ加工材ノミニテハ之ヲ林産物ノ出品トシテ甚ク要領ヲ得難キノ憾アリ今回ノ官廳出品ニ於テ往々ニシテ此弊ニ傾ケルモノナキニアラス當用者ノ應ニ猛省ヲ要スヘキ所ナリトス

樽材ノ出品中注目スヘキ者ハ御料局ノ出品ニ係ル北海道御料林産シノのき材ヲ以テセル「セント樽材及ヒなら樽材并ニ青森大林區署出品ノ同署所管新莊國有林産ノなら材ヲ以テセル「ビール樽材ナリトス共ニ本邦ニ於テハ其用途近來ニ至リ初メテ開始セル所ニシテ將亦益々其需要ノ甚大ナルモノアルヘキカ故若シ其適材ヲ産出シ得ヘシトスレハ林業經濟上實ニ少カラサル效益ヲ與フルニ至ルヘシ青森大林區署出品ノなら材ハ其質佳良ニシテ「ビール樽材トシテ不可ナキヲ見ル本品ハ其解説ニ依ルニ伐リ倒シタル後直ニ山地ニテ長七尺七寸厚二寸八分幅六寸(五十)ヘクト樽側板長六尺一寸厚三寸幅七寸(同上鏡板)長五尺五寸厚二寸五分幅六寸(二十)ヘクト樽側板長四尺五寸厚二寸五分幅七寸(同上鏡板)ノ寸法ニヨリ手鋸ヲ以テ柁目ニ木取リタルモノニシテ此木ハ木理疎ニシテ稍々硬ク剝削シ易キ性アルカ故本品ノ如キニ製作スルニハ極メテ適當ナリ而シテ此木ハ同所管國有林ニ於テハ青森ひのき「羅漢柏又ハ赤松雜木等ト混淆シテ天然林ヲナシ巨樹大幹少カラサレトモ從來多クハ薪炭材ニ供セラルハノミニシテ他ニ著シキ用途ヲ有セス其蓄積未詳ナレトモ約七八百萬尺メヲ下ラサルヘク年伐量數十萬尺メヲ供給シ得ヘシト云ヘリ元來各地方トモ該材ノ潤澤ナル其蓄積及年伐量實ニ測ルヘカラサルモノアリ而シテ其巨材大幹ニ至リテハ却テ薪炭ニスラモ用ヒ難シトテ

遺棄セラル、モノ亦實ニ尠少ナラサルナリ苟モ意ヲ林業ノ開發林産ノ利用ニ注クモノ豈此好標本ヲ輕視スヘケンヤ御料局出品ノ「セメント」樽材及ヒなら樽材モ其材質甚々好良ニシテ適材ナルヲ認ム

其他鹿兒島大林區署ヨリ椎原料樽材及ヒ熊本大林區署ヨリ杉材樽丸ノ出品アリ共ニ各所管國有林産材ヲ以テセルモノニシテ其地方ニ於ケル材品トシテハ不良ナラス椎樽材ハ從來砂糖樽トシテ多ク之ヲ用ヒタルモノニシテ「セメント」樽トナスモ亦甚々適當ナルヘシト云ヘリ杉材樽丸ハ所謂插穗杉材ヨリ採製セルモノニシテ肥後樽丸ノ本色トシテ木香佳良樽トナシテ酒質ヲ變セサルヲ以テ重ニ關西地方ニ需要セラル、ト云ヘリ其品質可ナラサルニアラサルモ木理年輪ノ中途ニシテ没セルモノ兩端ノ角ニ缺ケアリテ其形正シカラサル等製作上ニ幾多ノ缺點ヲ見ルハ惜ムヘキナリ

桶材ノ出品亦數點アリテ青森大林區署出品ノ羅漢柏材風呂桶樽廣島大林區署出品ノ杉材酒桶樽高知大林區署出品同上并ニ金松風呂桶樽等各其所管國有林産材ノ材質及ヒ其用途ノ一斑ヲ示スモノニシテ適當ナル材品ナルヲ認ム東京大林區署出品ノ杉材酒桶樽ハ同地方産材ノ材質トシテハ不可ナシ桶樽トシテハ他ノ優良ナル産地材ニ比シテ劣ル所アリト雖トモ必スシモ其不適材ニアラサルヲ見ル

漆器木地及ヒ其製作品ハ是亦數十點ノ出品アリテ何レモ其有益ナル出品タルヲ認ム由來漆器ハ本邦ノ一大特産物ニシテ都鄙貴賤ヲ通シテ内國ニ於テ少カラス之ヲ重要スルノミナラ

ス外國へ輸出スルモノ其額一年ニ幾拾萬圓ニ上ル處ナルカ故其原料トシテ普通需要スル板材等ヲ除クノ外之カ特用トシテ需要スル板類若シクハ挽物等其木地ノ供給ハ林産物上一種ノ價值アルモノトシテ其適否等輕視スヘカラサルモノアリ青森大林區署出品ノ羅漢柏材木地ハ津輕漆器ノ原料トシテ適材ナルヲ見ル福島大林區署出品ノ會津漆器原料朴材板物同柄板材并ニ之ヲ原料トシテ製作セル漆器及ヒ山毛櫻櫻樽等ノ挽キ物木地ノ如キハ何レモ其質好良ニシテ寔ニ其適材ナルヲ見ル左ニ其解説書ノ一部ヲ抄録シテ參照ニ資ス

福島大林區署出品漆器木地解説抜萃

厚朴材 造材ハ主トシテ漆器板物木地ニ使用ノ目的ナルカ故凡テ丸太材トシテ搬出シ地元村落ニ至リテ板材トナシ市場ニ搬出ス造材ニハ單ニ人力ニヨリテ斧鋸ヲ用フ
效用 本材ハ其質輕ク柔カニシテ且ツ工作上縱横何レニモ鉋削自在極メテ工作ニ便ナリ
會津漆器板物木地トシテハ古來本材ヲ使用セリ
産額 一箇年平均二千尺、内外ハ國有林ヨリ供給シ得ヘシ
需要 現今會津漆器ノ板物木地トシテ供給スルモノ最モ多ク一年需要額平均四千尺、ニ達ス

ぶなさくらけやき

製作 林地ニ於テ形取りヲナシ之ヲ木地製作場ニ搬入シ轆轤機械ニテ先ツ荒挽ヲナシ更ニ之ヲ仕上クルヲ普通トス

需要 本木地原料トシテ會津地方ニ於テ年々需要スル額ハ一箇年平均一萬九千八百尺ベニシテ多ク國有林ヨリ供給ス

とち 造材ハ主トシテ漆器丸物木地ニ使用スルカ故造材方法モ亦多少異ナル所アリ農閑ノ時季八月頃伐倒シ丸太ニ造材シタル儘林地ニ放置シ充分乾燥セシメ十一月頃ニ至リ林地ニ於テ木地ノ形取リヲナシ木地製作場ニ運搬ス

效用 材質輕クシテ變形スルコト少ナク且ツ漆液ノ附著宜シキ故古來會津漆器丸物木地トシテ重用セラル

産額 一箇年平均八百尺ベハ國有林ヨリ供給スルヲ得ヘシ
需要 現今會津漆器ノ木地トシテ供給スルヲ主ナルモノトナシ一箇年平均需要額ハ千五

十尺ベ即チ蓋付枕七千挽(一挽ハ二百四十人分)ヲ製作シ得ル原料ヲ供給ス
石川大林區署出品扁柏材木地ハ有名ナル飛騨春慶塗ノ素材ニシテ其既製品ト共ニ材質及品質ノ如何ヲ示シタルモノナリ同漆器ハ主トシテ扁柏材ヲ用ヒ塗地ノ清妍ナルハ木地ノ堅美ナルト共ニ其聲響ヲ博スル所ナリ今回ノ出品ハ其材質ノ好良ナルハ前ニ木材ノ部ニ於テ評シタリ漆器木地トシテ甚タ其適良ナルヲ見ル同署出品羅漢柏材木地ハ是亦著名ナル能登輪島漆器ニ用フルモノニシテ需要甚タ尠少ナラスト云ヘリ材品佳良ニシテ寔ニ其適材ナルヲ見ル其他同署ヨリ樺はんさいたや厚朴等ヲ原料トセル椴類木地、蒔地、粗地、既製品等十數點ノ出品アリテ何レモ之レニ適スヘキ材質タルヲ認ム

宮城大林區署出品山毛櫨材木地ハ椀盆、菓子鉢、柄杓、杓子、篋及ヒ鍬柄、雪掻、ホツカイ、并ニ下駄齒材等ト共ニ其材質及ヒ同地方ニ於ケル用途ノ一斑ヲ示シタルモノニシテ甚タ其適良ナルヲ認ム山毛櫨材ハ從來多クハ薪炭ニ供スルノミニシテ是等器具用トシテハ其需要額未タ極メテ少量ナリト云ヘトモ同署所管國有林ニ於ケル山毛櫨ハ約數十萬町歩ニ涉リ純林亦少ナカラズ年伐量約百七十萬尺ベヲ供給シ得ヘシト云ヘリ之レカ利用ノ考按用途ノ啓發ハ林業經濟上寔ニ輕視スヘカラサルモノナリトス

其他建具用材及ヒ其製作品トシテハ青森大林區署ヨリ羅漢柏材障子骨、東京大林區署ヨリ杉障子上總戸、長野大林區署ヨリ唐檜帶戸、棧、白檜雨戸、棧、愛媛大林區署ヨリ杉戸等ノ出品アリテ何レモ其材質佳良ニシテ適當ナル用途タルヲ認ム巖手大林區署出品赤檜材及ヒ水檜材製作品、東京大林區署出品杉箸、石川大林區署出品楓材及ヒ水松製作品、扁柏材笠、高知大林區署出品扁柏材笠、鹿兒島大林區署出品榊盤材、柞製作品、檳榔製作品及椎ノ櫓腕木等何レモ其特殊ナル用途若シクハ應用ヲ示シ材質亦皆之ニ適スル良好ナルモノタルヲ見ル

石川大林區署出品ノみづめ材、板子ニ木取り、黒掛ケヲナセルモノ及ヒ其既製品洋傘柄ハ頗ル注目ヲ要スル出品ニシテ其解説ニヨレハ從來雜木ト共ニ薪炭ニ供スルニ過キサリシカ近年洋傘柄トシテ櫻ニ亞ケル適材ナルコトヲ認メ漸次製造スルモノ輩出シ飛騨地方ニ於テ工場ヲ設ケ之レカ製作ニ從事スルモノハ水力ヲ利用シ鋸器械ヲ据付ケ角材ヲ挽キ割り板子トナシ之ヲ乾燥シタル後木取り、黒掛ケヲナシ再ヒ鋸器械ニ掛ケ切斷シ更ニ之ヲ動力應用ノ匏ニ

掛ケ仕上ルモノニシテ其産額未タ大ナラスト雖トモ内國各地及ヒ清韓各地方へ既ニ輸出スルモノアルニ至レリト云ヘリ本品ハ飛驒國大坊本谷國有林産材ニシテ目通徑一尺三寸全長七十八尺餘樹齡約百八十年餘ノモノヨリ探製セリト云フ材品甚タ好良ニシテ頗ル用途ノ適スルヲ見ル總テ木材カ如斯新用途ニ向テ益々生面ヲ開發シ以テ林業上ニ裨補スル所ノ彌々大ナランコトヲ切望シテ止マサルナリ

御料林出品北海道御料林所産水松、しなのさ、どろ、はりぎり等ノ下駄材ハ其材質佳良ニシテ木材ノ應用上甚タ適切ナルヲ認ム

山林局出品寄木張床板ハ是レ亦注視ヲスヘキモノニシテ其解説ニヨレハ試験的ニ製作シタルモノニ過キサカ故精巧ノ點ニ於テハ幾多ノ缺所ヲ免レスト雖トモ由來寄木張ハ外國ニ於テハ建築上將タ器具ニ盛ニ之ヲ應用スル所ナルニモ拘ハラズ本邦ニ於テハ之ヲ用ヒルコト極メテ罕ニシテ僅ニ樺、檜等二三ノ材種ニ依テ製作セラレ頗ル高貴ノ裝飾用ニ供セラル、ノミ然ルニ其木材利用上ノ點ヨリシテモ亦建築器具等ノ種類漸次進歩スル上ヨリシテモ之レニ伴フテ寄木張ハ益々盛ンニ行ハルヘキ傾向ヲ有スルモノニシテ本品ハ其應用ノ一端ヲ示サンカ爲メニ特ニ從來本邦ニ於テ他ニ著シキ用途ヲ有セサル而カモ其産額ノ最モ大ナルいたや、しほぢ、ならら及ヒぶな材ヲ以テ製作シタルハ甚タ有益ナル出品ニシテ是等ノ諸材カ材質上將タ品様上床木トシテ敢テ不適良ナラサルヲ認ムルニ足ルナリ外ニ廣島大林區署出品樺寄木張モ亦材品良好ニシテ材質及ヒ用途ノ適當ナルヲ認ムルナリ

屋根板ハ木曾御料林産花柏材ヲ以テ探製セルモノヲ御料局ヨリ又柿板ハ杉及羅漢柏材ヲ以テセルモノヲ青森大林區署ヨリ杉へぎ板ハ高知大林區署ヨリモ上各一種ツ、ノ出品アリテ其材質及品様佳良ニシテ甚タ其適材ナルヲ認ム殊ニ御料局出品屋根板ノ如キハ此材質ニシテ始メテ此加工ヲナシ得キモノニ屬シ廣ク世ノ賞用措カサルヘキ特産物ナリ



材 工 加 種 各

第四編 皮、蔓、染料、塗料、其他工業用原料

審査官 江崎 政忠 報告

皮、蔓類

皮、蔓類ハ多クハ森林副産物ニ屬スルモノニシテ試ニ今其特質ニ就テ大別スレハ主産物タル木材ト共ニ伐採製造スル杉皮、檜皮等ノ如キアリ又榲皮、楡皮等ノ如ク其材部ヨリハ反テ採收ヲ主トスルモノアリ而シテ蔓類ニ至テハ偶々林地ニ野生スル純然タル副産物ニ過キスト雖モ亦多少ノ區別アルヲ免レス而シテ荒廢ニ傾ケル林地若シクハ一種ノ原生林ノ如キニ於テノミ發生スルモノアリ又假令法正ナル森林内ト雖トモ多少ハ必ス之ヲ副産スルカ如キモノアリ更ニ之ヲ效用上ヨリ區別スルトキハ其效用甚タ多クシテ殆ント特種ノ需要ヲモ領有シ前途益々有望ナルモノアリ之ニ反シテ現ニ生産スルカ故ニ僅々其利用ヲナスニ過キス效用亦太タ取ルニ足ラサルカ如キモノアリ而シテ幾ント採取ノ儘直チニ使用シ得ヘキモノ又或ル製作ヲ加ヘ若シクハ或ル精製品ノ原料ニ供スルカ如キモノアリ其他漸ク算ヘ來レハ其種類ノ繁多ナル其關係ノ廣汎ナル一々之ヲ枚擧スルニ遑アラサルナリ之ヲ要スルニ本類ニ屬スルモノト雖モ決シテ其一小産物トシテ漫ニ之ヲ輕視スルヲ得ス必スヤ其品質用途産額生育等ニ就キテ須ラク世ノ注視ヲ要スル點尠カラサルナリ今回ノ出品ハ其品種甚タ多ク出品點數亦必スシモ少カラサル所ナリト雖モ現ニ本邦所産ノモノニシテ盡サ、ルモノ甚タ多ク

又其利用ノ點ニ於テモ多少ノ進境ハ之ヲ認メ得ヘシト雖モ是レ將タ或ルニ三種ニ過キス他ハ舊態ニ依テ發達セサルモノ多キニ居ルハ遺憾トナサ、ルヘカラサルナリ今本類ニ屬スル今回ノ出品ニ係ル品種ヲ掲クレハ約左ノ如シ

- 一 檜皮、杉皮、楡皮、槭皮及ヒ其繩類
 - 二 へら皮、しな皮及ヒ其繩類
 - 三 わべまき樹皮及ヒこるく製品
 - 三 染用并ニ鞣皮用樹皮、樹葉、樹根其他
 - 五 竹皮
 - 六 藤、葛、葛蔓、白口蔓、熊蔓、車藤、姬藤、木通、蔓、小葡萄等
 - 七 松繩、捻苧
 - 八 麻繩
 - 九 割藤、木賊、棕葉、蕨葉、製蕨、菅、刈茅根、鳳尾、蕉葉、藜、虎杖、茨木
- 野州油坊(油坊トハ鹽檢ノ繼キニ用フ)屋根萱、晒歪木皮、藻玉、檳榔皮、藤
- 右ノ内第四ハ染料ニ屬スヘキモノアレトモ樹皮ナルヲ以テ本類ニ組ミ入レ第七以下ハ多クハ莖、根、葉若シクハ材部ヨリ資レル一種ノ製品等ニシテ必スシモ皮蔓ニアラサルモ便宜上本類ニ屬セシムルコトトセリ
- 第一ハ樹皮ハ杉皮ノ出品最モ多ク楡皮之ニ次キ楡皮、槭皮等ハ僅々一二點アリシノミ而シテ

是等ノ樹皮ハ何レモ建築用トシテ從來其需要甚タ多ク其質ノ疎密堅否若シクハ色澤ノ良否及ヒ其幅長等ノ如何ニ依テ大ニ品位ヲ異ニシ即チ亦用途ニ於テモ同シカラサルナリ而シテ之レカ採製ノ良否ハ其樹木ノ性質及ヒ材木ノ季節其他採製上ニ於ケル一種ノ技倆等ニ依レルモノナルカ故ニ從來到ル處多少ノ產出アラサルハナク年々總產額寧ロ多大ナルモノアリト雖モ其良品ヲ多量ニ產出スル處ノ如キハ甚タ稀レナリトス又是等ヲ以テ製造セル繩類ニ在テハ船舶用其他特殊ノ用途ヲ有スルモノニシテ需要亦必スシモ乏シカラスト雖モ將來ニ向テ大ナル販路等ヲ有スルモノニハアラサルナリ而シテ今回出品ノ樹皮中好良ナルモノ少カラサリシト雖モ其品種ノ選擇乾燥ノ方法等ヲ誤リ甚タシキハ微菌ヲ生シ變色ヲナシタルカ如キ劣品モ少カラス又其幅長ニ於テ短小ナルカ爲メ品位ヲ損セシモノ、如キモ往々認めシ所ナリ之ヲ要スルニ本品ノ如キハ一種有力ナル副產物トシテ需給共ニ將來益々多大ナルモノアルヘキカ故ニ務メテ其採製上ニ注意センコト切望ニ耐ヘサルナリ

第二ハへら皮ハ前回ニ於テモ之カ出品アリ其樹ノしな樹又ハ菩提樹ト同屬異種ナルコトハ是レ亦前回報告書中ニ記載セル所ニシテ未タ學術的ニ之ヲ研究シ其學名等ヲ一定シタルモノナカリシカ嚮キニ林學博士白澤保美ハ該樹ニ對スル多年研究ノ結果ヲ其博士論文中ニ加ヘタリ依テ參照トシテ之ヲ抄録スヘシ

林學博士白澤保美博士論文中へらのきニ關スル一節抄録

へらのきノ主ナル產地ハ九州ナルヲ以テ予ハ之レヲ *Pilea kiusiana* ノ羅甸名ヲ附シテ明治三

十三年農科大學學術報告第四卷第二號ニ植物學上ノ記載ヲ爲シタリ即チ此樹種ハ豊前豊後日向及筑前筑後等ノ境界山脈海面上千尺以上二千尺高ノ間ニ於テ雜木林内ニ點生シ陽向ノ山腹深キ土壤ノ地ヲ好ミ其生長甚タ可ナリ又同地方ニ在テハ樹皮ヲ採集スルノ目的ヲ以テ之レヲ栽植スルモノアリ一度之レヲ伐採スルトキハ其株ヨリ數莖ヲ簇生シテ其生長一層迅速トナル又神社佛閣ノ庭園等ニハ往々大樹ヲ見ル鳥取縣下ニモ亦之レト同種ヲ産ス樹皮ノ纖維ハ容易ニ之レヲ細裂スルコトヲ得且ツ甚タ強靱ナルヲ以テ麻ノ代用品トナシ蠶表ノ織絲其他ノ繩絲等ニ供用セラル其質ノ良好ナル本邦産シナノキ屬中之レニ及フモノナシ

いな樹皮ハ今回ノ出品ニ於テ各縣其方言ヲ使用セリ即チ岡山縣ノ「ヤマガケ」鳥取ノ「ヤマガキ」巖手ノ「マダ」等ノ如キ是レナリ而シテ巖手縣地方ニ於テハ農家ノ副業トシテ毎戸製造スル所アリト雖モ未タ廣ク其用途ヲ知ラサルカ爲メ他ニ之ヲ輸出スルコト少ナク從テ各自ノ製造額亦極メテ少量ナリ元來該繩ハ麻繩ニ代用シテ一種ノ特長アリ殊ニ其價格比較的低廉ナルニ依リ若シ世上ニ普ク之レヲ紹介スルニ至レハ多少ノ需要ヲ促シ自カラ其業ノ發達ヲ來シ

テ産額ノ増加ヲ見ルニ至ルヘキヲ信スルナリ
第三、わさき樹皮及こるく製品ハ前回ニ比シ僅ニ其出品數ヲ増加シタルニ過キスト雖モ原料樹皮ノ産出額并ニ其製造品ハ著ク増加シ又進歩ノ見ルヘキモノ少カラサルナリ然レトモ之レヲ歐洲諸國ノ産ニ比スレハ原料及精製品共ニ其品質并ニ産出額ニ於テ及ハサルコト甚

々遠ク加之我國ニ於テハ近年麥酒其他ノ酒類及飲料等ノ製造著ク發達セシニ伴ヒ之レニ要スル所ノ大形塞子徑八分以上ノ如キハ其需要頗ル多シト雖モ其供給ハ殆ント皆海外ノ輸入ニノミ待ツカ故ニ今日ノ要ハ只管原木ノ造殖及ヒ剝皮法ノ改良并ニ外國種原木ノ移植養成等ヲ獎勵スルニアリ由來本邦産ノわさき樹ハ各地ニ天然生尠カラス稀ニハ人造ヲモ見ル事ナキニアラサレトモ其數未タ充分ナラサルノミナラス其造林ノ目的タル元ト樹皮ヲ得ルカ爲メニアラサリシニ依リ之レヲ剝皮スルモ完全ナル原料ヲ得ル能ハサルハ數ノ免カレサル所ナリトス而シテ之レカ採收ヲ創始セシハ殆ント近年ノ事業ニ係レルヲ以テ「コルク」質外皮ノ再生セシモノ極メテ少ナキニ依リ多クハ年輪密ニシテ其質堅ク加フルニ其厚サ薄クシテ縱ニ皸裂多キ缺點アリ從ツテ其面亦半滑ナラス故ニ供用セラル、部分極メテ少ナシ而シテ其再生ニ係レルモノヲ見ルニ年輪ノ幅稍々廣クシテ其質割合ニ軟ク其外面モ亦比較的平滑ナリ然リト雖モ之ヲ外國産ニ比スレハ色赤ク年輪ノ幅尙ホ狭ク其質硬クシテ彈力少ク到底彼レニ及ハサル所甚タ多キナリ是レ畢竟其樹種ヲ異ニスルニ起因スヘキカ故ニ我カ現在セル該樹ノ養成上ニ就テ適當ナル改良ヲ施スト同時ニ併セテ外國種ノ移植増殖ヲ圖リ以テ其塞子輸入ノ途ヲ防遏スルハ寔ニ目下ノ要務ナリトス而シテ今回ノ出品ニ係ル本邦産ノ原料ヨリ成リシ製品ハ前記ノ如ク其原皮薄ク且硬キカ故ニ概シテ或藥品ヲ用ヒテ煮沸シ之レヲ膨脹且ツ柔軟ナラシメタル物ナラサルハナシ殊ニ其硫酸ヲ以テ煮タルモノ、如キハ之ヲ使用スルニ當リ更ニ清水ヲ以テ之レヲ煮沸スルニアラサレハ往々微少ノ硫酸ヲ殘留セルコ

トナキヲ保セス此ノ如ク我國産出ノ原料ハ其質ノ劣悪ナルノミナラス其産額少ク到底栓子製造ノ原料トシテ需要ニ應スルコト能ハサルニ依リ目下外國産ノ原料ヲ用ヒテ製作ヲ爲スモノ少カラス今回ノ出品中ニモ往々ニシテ此種ノ製品ヲ見タルハ寔ニ遺憾トスルトコロナ

第四ニ屬スル出品中其多數ヲ占ムルモノハ櫛皮ニシテ之ニ次クモノハ化香樹皮及ヒ黃蘗皮トス其他櫛皮、椎皮、楊梅皮等諸府縣ヨリ多少ノ出品アリ猶ホ岡山縣ヨリ胡桃皮、島根縣ヨリ松皮、沖繩縣ヨリ大ちく葉、黒皮、紅露根、鳥取縣ヨリ白膠木皮、茨城縣ヨリ長者園子等各一兩點宛ノ出品アリ而シテ其需要ノ最モ大ニシテ從テ其産額ノ最モ多キモノハ櫛皮、化香樹ノ二種ニシテ櫛皮、楊梅、黃蘗之ニ亞ク黃蘗ハ其用途主トシテ染料ニ過キサルモ時トシテ藥料ニ供スルコトアリ其他ハ皆單仁含有品ナルヲ以テ染料并ニ糝皮用ニ併用スルモノナリ今是等各樹皮ノ單仁含有量ヲ調査セルニ化香樹根皮最モ多量ニシテ櫛皮之レニ次キ椎、楊梅ハ其下位ニアリ而シテ通常化香樹皮ト稱スルモノハ皆其根皮ナリ然レトモ其單仁ヲ含有スルコト多キニモ拘ラス其色濃黒ニシテ糝皮ノ目的ニ依リテハ或ハ之レヲ使用シ難キモノアリ或ハ之レヲ櫛皮等ノ諸皮ト混淆シテ使用スルヲ反テ可ナリトスル場合アリ或ハ其目的ニ依リテ特ニ化香樹皮ノミヲ使用セサルヘカラサルコトアリ元來同樹ハ温暖ノ地方ニ産出スルモノニシテ東北地方ノ如キ寒冷ノ土地ニ在テハ繁殖セサルモノナレハ其産地ノ區域ハ到底彼ノ櫛皮等ニ及ハスト雖モ亦決シテ狭少ニアラサルナリ故ニ將來益々糝皮ノ需要盛大ニ赴クト共ニ

之レカ繁殖ヲ圖ルノ必要アリトス抑モ糝皮事業ハ一面ニハ牧畜ノ發達スルニ從ヒ一面ニハ工業ノ進歩スルニ伴フテ其盛大ニ赴クヘキハ爭フヘカラサル理數ニシテ歐米諸國ノ實例ニ徴スルモ亦明カナリ現ニ本邦ニ於テモ漸次其趨勢ヲ現ハシ來レル所ナルカ故ニ之レニ使用スル單仁含有ノ樹皮モ亦從テ其品質ヲ改良シ其産額ノ增多ヲ圖ラサルヘカラス今回是等ノ樹皮ノ出品數ハ甚タ多シト雖モ由來我邦ニ於テハ各地到ル處ニ此原料種ニ富ミ今日其樹皮ノ中外ニ需要セラル、量額亦極メテ大ナルモノアルニ比シテハ今回ノ出品數ハ割合ニ僅少ナリト云ハサルヲ得ス殊ニ各出品ヲ點檢スルニ其採收時季及ヒ乾燥并ニ荷造ノ方法等ヲ誤レルモノ少カラス爲メニ甚シキニ至テハ其内皮ニ微菌ヲ生シ或ハ雨水ノ浸潤セルモノ等ヲ出セルハ寔ニ遺憾トスル所ナリ元來單仁ハ其樹種、産地、樹齡及樹皮採收ノ時季等ニ依リテ其含有量ニ多少アルノミナラス乾燥、荷造并ニ輸送ノ方法如何ニ依リテハ或ハ微菌ヲ生シ或ハ日光又ハ雨水ノ作用ヲ受ケ自カラ分解シテ化學的變化ヲ起シ爲メニ著シク其含有量ヲ減シ或ハ時トシテ全然之レヲ失フカ如キ場合ナキニアラス故ニ假令善良ナル原料アルモ其採收、乾燥等ニ關シ其方法手段ヲ誤ルトキハ忽チニシテ著シキ惡變化ヲ起シテ其用ヲ爲サ、ルニ至ルヘシ然ルニ本邦ノ現況ハ各地トモ該樹ニ就キ是等ノ研究ヲ重視スルモノナク已ニ今回ノ出品中ニ於テモ特ニ是等ノ點ニ留意ヲ缺キシモノ多ク從テ其解説上ニ於テモ一トシテ是等ニ關スル説明ヲ掲ケタル者ナシ誠ニ是レ斯業ニ於ケル一大缺點ニシテ希クハ將來特ニ此ニ留意スル所アラシコトヲ要スルナリ而シテ是等ノ樹皮ハ今回第三部水産ヘモ漁網ノ染料

トシテ出品シタルモノ少カラス依テ其審査ノ均衡ヲ保タンカ爲メ兩部ノ共同審査ヲ行フニ至レリ是レ一ハ其使用ノ目的ヲ特定シテ出品シ他ハ廣キ用途ニ向テ出品シタルモノニシテ其間多少ノ意義ヲ異ニスト雖トモ固ト是レ同一物質ニシテ故ラニ兩部ニ跨リテ出品シタルカ如キハ稍々其例則ヲ缺ケルノ嫌ヒアリ次回ニ於テハ是等ノ點ニ反省留意スル所アラシコトヲ要スルナリ

第五ノ竹皮即チ籐ニ就テハ前回報報告書ニ於テモ縷々記述セル所アリシカ上古仲哀天皇熊襲征伐ノ時筑前香椎ノ行宮ニ於テ竹皮ヲ以テ履ヲ造ラシメ給ヒシニ始マリ爾來一千五百年ノ今日ニ至ル迄籐ナル名稱ノ行ハレツ、アルヲ見レハ如何ニ其起源ノ宏遠ナリシヤヲ知ルニ足ルヘキナリ元來何物ニモ限ラス産額ノ大ナルモノハ人口ニ増添セラレ易ク産額ノ少ナキモノハ世人ノ注意ヲ促シ難キハ通例ナリト雖モ獨リ籐ハ其産額比較上少クシテ其需要額モ亦限リアルニモ拘ハラズ其使用ノ範圍ハ意外ニ廣キモノアリ彼ノ下駄表ナルモノハ殆ト全ク籐ハミヲ以テ製造セラレタルコトヲ想ハ、籐利用モ亦大ナリト云フヘキナリ籐ハ其種類多々アリト雖トモ商品トシテ取扱フモノハ白竹枝皮大皮(棒皮)長皮(葉皮)六種トス白竹ハ一ニ浮子ト稱シ又天稀トモ云フ白竹(即チ苦竹ノ一種)ノ筍ニ生スルモノニシテ福岡縣筑後ノ特産物ナリ舊幕時代ニ於テハ久留米藩ノ國産トシテ大阪へ輸出シ更ニ大阪ヨリ江戸積ト稱シテ關東方面ニ輸送シ南部ニ於テ下駄ノ表ニ製造スル習慣アリシモノニシテ俗ニ南部表ト稱スルハ多クハ此天稀原料ヲ用ヒタルモノナリ近年ニ於テハ白竹ハ茨城縣愛知縣等ニ於

テ少額ノ産出アリト雖モ未タ以テ數フルニ足ラス然ルニ輓近著ク革靴ノ流行ヲ來シタルニ拘ラス所謂下駄料ニ供スル南部表ナルモノハ反テ年ニ月ニ其需要ノ數ヲ高ムル所以ノモノハ近來都鄙ヲ擧ケテ一般ニ華美ノ風行ハレ村嬢野夫ニ至ル迄亦表附ノ履物ヲ用フルモノ少ナカラサル有様トナリシカ故ニシテ隨テ其原料タル白竹皮ノ需要モ亦頗ル増加スルニ至レルナリ是レ斯業者タルモノ、大ニ留意シテ其増殖及ヒ品質ノ改良ヲ圖カラサルヲ得サル所ナルヘシ又枝皮即チ原皮(蟬皮)小皮ハ苦竹ノ新枝ニ生スルモノニシテ毎年七月下旬ヲ其採收ノ好時季トス而シテ九州、四國、中國、畿内其他關東到ルトコロ多少ノ産出ヲ見サルナシト雖モ其品質ノ良好ナルモノハ京都府ヲ以テ最トス近來各地共ニ竹材ノ需要年々増加スルニ伴ヒ竹幹ノ未タ成熟セサルニ當リ早クモ伐採スルノ弊アルヲ以テ枝皮モ亦其品質逐年低落ノ傾向ヲ生シ此ヲ以テ今回ノ原皮出品ニ於テモ亦寥々タルニ至リシハ殊ニ遺憾トスル所ナリ大皮即チ棒皮ハ苦竹ノ筍ヨリ收得スルモノニシテ其形狀ノ最モ大ニシテ且ツ強勁ナルモノヲ上等トス京都府之レカ主産地ニシテ各縣共ニ多少ノ産額ヲ見タリ現今棒皮ノ用途ハ之ヲ伸ハシテ包皮トスルノ外雜工業ノ材料ニ用ヒルニ止マリ他ニ著シキ需要ナシト雖モ熟々大皮ノ素質ヲ考察シ之レカ應用ヲ講究スルトキハ或ハ他日其用途ニ付新ニ一生面ヲ開キ得ヘキコトナキヲ保セス若シ適當ノ方法ヲ工夫シ彼ノ大皮ノ面上ニ散布スル黒斑、汚染等ヲ滌除シ去リ以テ白色清麗ノ物質タラシムルコトヲ得ハ實ニ好良ナル一工藝原料タルコト又難事ニアラサルヘシ而カモ大皮ノ下等品ニ至リテハ藪林ノ在ル所何レノ地ト雖モ産出セサルハナ

ク加之其價格ノ如キモ非常ニ低廉ニシテ處ニ依リテハ委棄シテ採取セサルカ如キ現狀ナルカ故ニ若シ是等ノ新用途ヲ發見セハ忽チ有望ナル叢林ノ副産物トナルヘキヤ必セリ從來籐ノ當業者ハ唯々天然ノ品質ノミニ留意シ之レヲ精製利用スルノ方法ヲ研究シタルモノアルヲ聞カサルハ大ニ遺憾トスル所ナリ

第六ノ、蔓類 即チ今回出品ニ係ル藤蔓葛蔓白口蔓熊藤(黒金蔓)車藤(姫藤)木通蔓山葡萄等ノ中ニハ之レヲ剥皮シテ其皮ヲ晒シタルモノアリ又木通蔓及葛蔓等ニハ粗皮著キノ儘之レヲ乾燥シタルモノアリ或ハ其粗皮ヲ去リ白ク晒シ上ケタルモノアリテ其最モ多數ヲ占メタルモノハ葛蔓ナリトス而シテ是等ノ多クハ山野ニ自生スル蔓草ヲ採收シ之ヲ乾燥シタルニ過キス而シテ葛蔓(姫藤)木通蔓等ハ種々ノ工業上ニ使用シ就中近年之レヲ以テ各種ノ手提籠等ヲ作り爲メニ一層其需要ヲ増シタルカ如シ其他藤蔓白口蔓(黒金蔓)車藤(山葡萄)等ノ如キハ或ハ其皮ヲ晒シテ麻ニ代用シ又ハ其直狀ナルモノヲ撰ヒテ洋杖ト爲スモノアリ已ニ今回モ其出品ヲ見タリト雖トモ要スルニ其主用ハ或ハ筏ヲ結束シ或ハ運材ノ場合ニ於ケル種々ノ裝置用ニ供シ極メテ必要ナル材料トセリ此ノ如ク目下其用途極メテ廣シト雖モ他日一般ニ材業ノ發達シテ森林ノ手入完全ニ行ハル、ニ至レハ自然其産額ノ減少ヲ見ルニ至ルヘキハ明カナリ

第七ノ、木繩類ノ出品中京都府ノ捻芋ヲ除キテハ悉ク松材ヲ薄片ニ割キテ繩ニ製シタルモノナリ木繩ハ近來稍々其需要ヲ増シ隨テ之レカ製造ヲ爲スモノ漸次多キヲ加フルニ至リシカ右ハ運搬不便ノ地方ニアルモノ若クハ間伐材等ニ於テ他ニ其需要ノ少ナキ場合ニ於テハ木材利用上ノ一新法トシテ之レヲ奨励スルノ必要ナキニシモアラサルヲ認ム然ルニ今回ノ出品中ニハ或ハ其綯方ノ不完全ナルモノアリ或ハ乾燥ノ宜シキヲ得サルカ爲メ微菌ヲ生シタルモノ等アリ宜シク斯業者ノ特ニ注意セサルヘカラサル所ナリトス

捻芋ハ又ねり木ト稱シ獨リ京都府下ニ於テ筏ノ組結用ニ供スルノミナラス奈良縣吉野郡北山村等ニ於テモ亦之レヲ使用スルモノニシテ固ヨリ一定ノ樹木ヲ以テ製造スルモノニアラス其主トシテ使用セラル、樹種ハさるた、ひいらぎ、ぐみ、かなつぶし、ゑび、しらつげ、さかき、あを、いで、さいふり木、まんざく、しやら等ナリトス又檜ノ枝材ヲ好ンテ使用スルコトアリ其太サハ五寸ヲ越ヘス其長サハ筏ノ縱繫キニ使用スルモノハ二尋半横繫キニ使用スルモノハ一尋半ヲ通常トセリ而シテねり木ヲ製造スルニハ通常生木ヲ取リテ直チニ之レヲ火ニ炙リ其幾分か柔軟トナレルヲ待ツテ之レヲ縲リ繩狀ト爲セルモノナリ其效用ハ長ク之レヲ水中ニ浸シ置クモ腐朽スルコトナク之レヲ藤蔓ト比シテ大ニ堪久力アルニアリ故ニ藤蔓ノ少ナキ地方ニ於テハ最モ費用セラル

第八ノ、藤類ハ先ツ藤根ヲ採掘シ之ヲ以テ藤粉ヲ製シ其殘留ノ纖維ヲ以テ製スルモノニシテ其質頗フル強靱ナリ水中又ハ土中ニ使用シテ久シキニ堪ヘ加フルニ垣籬等ニ用ヒテ最モ強靱ナルノミナラス大ニ雅致ニ富メルカ故ニ其用途頗フル廣シ故ニ農家ノ副業トシテハ必スシモ不適當ナル産物ニアラス而シテ巖手縣ノ如キ到ル所ニ於テ之レヲ製造スルニモ拘ハラ

ス概子自家ノ使用ニ止マリ他ニ輸出スルノ途ヲ講セサルカ如シ現ニ今回ノ出品ニ於テモ同縣ハ最モ其多數ヲ占メ且ツ好良ナル品種少カラスト雖モ其解説書ヲ見ルニ多クハ販路ナシト記入セリ故ニ其製造高モ亦極メテ少シトス然ルニ東京地方ノ如キハ藤繩ヲ使用セントスルモ其品鮮ク且ツ價格貴キヲ以テ多クハ梭欄繩ヲ黑色ニ染メタルモノヲ使用シツ、アリ而シテ奥羽地方ノ如キハ藤ノ發生極メテ多ク從テ藤粉ノ製造亦頗ル多キ地方ニシテ其冬季積雪中ニ於ケル農家ノ副業トシテハ寔ニ適當ナルモノナルニ拘ハラズ空シク其原料ヲ遺棄シテ之レカ製造ニ努メサルハ頗ル遺憾ニ堪ヘサル所ナリ而シテ其多數產出スル所ニ於テ販路ナキニ苦メルカ如キハ畢竟其販路ヲ求メサルニアルノミ宜シク這般ノ開發ニ向テハ官民一致ノ奮勵ヲ要スルナリ其他各府縣ノ出品中或ハ太キアリ又細キアリテ品質多少ノ優劣アルモ大差ナキヲ認ム之ヲ要スルニ本事業ハ藤粉ノ製造ヲ爲ス已上ハ其ニ之レヲ獎勵スルノ必要ヲ有スルモノナリトス

第九ノ割藤、木賊、棕、葉、葦、葦、製、葦、菅、刈、茅、鳳、尾、蕉、葉、藜、虎、杖、茨、木、野、州、油、苧、屋、根、萱、晒、空、木、皮、藻、玉、檳、榔、皮、藤、ノ、内、割、藤、野、州、油、苧、屋、根、萱、ハ、獨、リ、大、阪、府、ノ、出、品、ニ、係、ル、モ、ノ、ミ、ニ、シ、テ、割、藤、ハ、外、國、輸、入、藤、ヲ、織、細、ニ、分、割、削、製、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、リ、其、手、工、ニ、關、シ、テ、ハ、見、ル、ヘ、キ、點、ナ、キ、ニ、ア、ラ、サ、ル、モ、固、ト、是、レ、外、國、輸、入、品、タ、ル、ニ、過、キ、ス、又、野、州、油、苧、及、屋、根、萱、ハ、品、質、普、通、ノ、モ、ノ、ニ、シ、テ、其、ニ、稱、ス、ル、ニ、足、ラ、サ、ル、ナ、リ、

藻玉、檳榔皮及藤ハ皆臺灣ノ所産ニシテ藻玉及檳榔皮ハ其出品點數僅少ナルノミナラス其用

途亦著シカラス之レニ反シテ藤ハ其出品數ノ多キト共ニ産額モ亦尠カラス然レトモ特ニ遺憾トスルハ臺灣産ハ其品質粗惡ニシテ之レヲ乾燥スルトキハ收縮シ且ツ其外面ハ褐色ヲ帯ヒ到底美良ナルモノヲ得ルコト能ハサルニアリ然レトモ日常ニ使用スル各種ノ器具敷物等ノ原料ニハ適當ナルカ故其用途割合ニ廣ク將來其品質ノ改良ヲ圖リ産額ヲ増加セシムルノ必要アリト云フヘシ藜、虎、杖、茨、木、ハ、杖、ト、シ、テ、德、島、縣、ヨ、リ、出、品、セ、ラ、レ、タ、ル、モ、其、用、途、極、メ、テ、狭、少、ニ、シ、テ、果、シ、テ、商、品、ト、シ、テ、世、上、ノ、需、要、ヲ、博、ス、ヘ、キ、ヤ、否、ヤ、疑、ヒ、ナ、キ、能、ハ、ス、菅、及、ヒ、晒、空、木、皮、ハ、獨、リ、鳥、取、縣、ノ、出、品、ニ、止、レ、リ、菅、ハ、笠、箆、繩、等、ニ、供、用、シ、多、少、ノ、需、要、ア、リ、ト、雖、ト、モ、深、ク、稱、ス、ル、ニ、足、ラ、ス、晒、空、木、皮、ハ、其、産、地、冷、カ、ラ、サ、ル、カ、如、シ、ト、雖、ト、モ、今、回、出、品、ニ、係、ル、モ、ノ、ハ、其、品、質、佳、良、ニ、シ、テ、若、シ、多、量、ノ、産、額、ヲ、見、ル、ニ、至、レ、ハ、將、來、各、種、ノ、工、業、上、ニ、使、用、セ、ラ、レ、大、ニ、其、需、要、ヲ、來、ス、ヘ、キ、カ、故、ニ、其、蕃、殖、ニ、就、テ、ハ、斯、業、者、ノ、盡、瘁、セ、ン、コ、ト、ヲ、望、マ、サ、ル、ヲ、得、ス、

葦ノ莖及ヒ其皮ヲ晒製シタル纖維製葦ハ其狀からむしニ似テ大ナルモノニシテ其長サ殆ント麻ニ均シ然レトモ産額未タ僅少ナルニ依リテ世人ノ注意ヲ喚起セス隨テ需要少シト雖トモ將來多數ノ産出ヲ見ルニ至レハ地方ノ一產物トナルヤ必セリ

刈茅根ハ舊時ハ唯儲ニたはし製造ニ使用シタルニ止リシカ近時ハ其粗ナルモノヨリ繊細ナルモノニ至ル迄各之ヲ區別シテ各種ブラッシュニ製造用ニ供シ其用途極メテ廣ク隨テ其需要尠少ナリトセス然レトモ本品ノ如キハ山野ニ自生スルモノニシテ漸次殖林又ハ開墾セラレ、ニ至レハ其産額ノ漸次減少ヲ見ルヘキハ數ノ免カルヘカラサル所ナリ是レ其刈茅ヲ生育

セシメテ其根ヲ利用センヨリ殖林又ハ開墾スル方遙ニ利益アルヘケレハナリ
 木賊及棕葉ハ京都大阪二府及徳島縣ヨリ出品シタルモノナルモ大阪及徳島ハ僅ニ一二點ノ
 出品ニ止マリ獨リ京都ハ有名ナル産地タケアリテ極メテ良好ナルモノヲ多數ニ出品セリ
 十點^(木賊)本品ハ元來相應ニ需要アル工業品ナレハ益々其業ノ進歩發達ヲ望マサルヲ得ス又本
 業六點^(棕葉)品ニ關シテ前回ノ審査報告中ニ詳細ナル説明アルヲ以テ愛ニ之ヲ畧ス
 鳳尾蕉葉ハ之レヲ陰乾トナシ近年頻リニ外國ニ輸出セリ然レドモ目下ハ唯僅ニ鹿兒島縣下
 ニ於ケル二三營業者ノ從事セルモノアルヲ見ルニ過キス而シテ此ノ僅々タル營業者ノ手ヨ
 リシテ明治三十五年一箇年ニ海外ニ輸出セシ總額ハ實ニ七萬壹千六百七拾九圓ノ多キニ上
 レリ又以テ其有利ナル事業タルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ該樹ハ專ラ本邦西南及中央部ノ
 暖地ニ生育スルモノニシテ其葉ハ年々更新シテ發生スルモノナレハ若シ各地ニ於テ採收ノ
 途ヲ講スルアラハ其益スル所決シテ鮮少ナラサルヘキヲ信ス今已上列記セシ皮革及諸雜品
 ノ出品點數及受賞數表ヲ左ニ掲ケ尙ホ其主ナルモノニ就テ細評ヲ試ムヘシ

第九類 其三ノ内楡皮、杉皮、楮皮、楨皮及其繩類

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 京都 | 三五 | 一三 | | | | | 一 | |
| 大阪 | | | | | | | | |

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|---|---|--|----|----|
| 埼玉 | 三 | 三 | | | | | 二 | |
| 三重 | 二 | 二 | | | | | | |
| 愛知 | 二 | 二 | | | | | | |
| 岐阜 | 三 | 三 | | | | | | |
| 青森 | 三 | 三 | | | | | | |
| 福井 | 九 | 八 | | | | | 一 | |
| 鳥取 | 四 | 四 | | | | | | |
| 廣島 | 一 | 一 | | | | | 二 | |
| 和歌山 | 一 | 一 | | | | | | |
| 徳島 | 一 | 一 | | | | | | |
| 愛媛 | 一 | 一 | | | | | | |
| 合計 | 五六 | 三八 | 五 | 二 | 一 | | 六 | |

第九類 其三ノ内しな皮、へら皮及其繩類

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 滋賀 | 一 | 一 | | | | | 二 | |
| 長野 | 一 | 一 | | | | | | |
| 巖手 | 二 | 二 | | | | | | |
| 富山 | 四 | 二 | | | | | | |
| 鳥取 | 三 | 三 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | 二 | |

第二部 皮、塗料、染料、其他工業用原料

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | 三等 | | |
| 東京 | 二 | — | — | — | — | — | — | — | |
| 京都 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 大阪 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 兵庫 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 群馬 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 茨城 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 三重 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 愛知 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 山梨 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 長野 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 宮城 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 巖手 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 青森 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 山形 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 秋田 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 福島 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 島根 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 岡山 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 廣島 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 德島 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 合計 | 四 | 一〇 | 七 | 四 | 四 | 二 | 六 | — | |

四二七

第九類 其三ノ内染用并ニ櫟皮用樹皮樹葉樹根其他

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | 三等 | | |
| 東京 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 京都 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 大阪 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 神奈川 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 兵庫 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 愛知 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 岐阜 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 島根 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 岡山 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 廣島 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 德島 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 合計 | 二 | 二〇 | — | — | — | — | — | — | |

第九類 其三ノ内あべまき樹皮及こるく製品

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|
| 東京 | — | — | — | — | — |
| 京都 | — | — | — | — | — |
| 大阪 | — | — | — | — | — |
| 神奈川 | — | — | — | — | — |
| 兵庫 | — | — | — | — | — |
| 愛知 | — | — | — | — | — |
| 岐阜 | — | — | — | — | — |
| 島根 | — | — | — | — | — |
| 岡山 | — | — | — | — | — |
| 廣島 | — | — | — | — | — |
| 德島 | — | — | — | — | — |
| 合計 | 五 | 五 | — | — | — |

第二部 皮、塗料、染料、其他工業用原料

四二六

第二部 皮、塗、染料、漆料、其他工業用原料

第九類 其三ノ内木繩類(松繩、捻苧)

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | 三等 | | |
| 京都 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 奈良 | 三 | 三 | | | | | | | |
| 山梨 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 滋賀 | 三 | 五 | | | | | | | |
| 青森 | 六 | 七 | | | | | | | |
| 福井 | 八 | 三 | | | | | | | |
| 鳥取 | 三 | 七 | | | | | | | |
| 岡山 | 一 | 二 | | | | | | | |
| 德島 | 六 | 三 | | | | | | | |
| 大分 | 二 | 二 | | | | | | | |
| 宮崎 | 二 | 二 | | | | | | | |
| 合計 | 五八 | 五〇 | | | | | 五 | | |

第九類 其三ノ内蓼類

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|
| 大分 | 一〇 | 七 | | | |
| 熊本 | 二〇 | 二七 | | | |
| 合計 | 六六 | 四七 | 二 | 七 | 二 |
| | | | | 九 | 二 |

第九類 其三ノ内竹皮

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | 三等 | | |
| 京都 | 三 | 五 | | | | | | | |
| 茨城 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 奈良 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 三重 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 愛知 | 四 | 三 | | | | | | | |
| 福井 | 二 | 一 | | | | | | | |
| 富山 | 三 | 一 | | | | | | | |
| 鳥山 | 二 | 三 | | | | | | | |
| 岡島 | 六 | 五 | | | | | | | |
| 愛媛 | 一 | 一 | | | | | | | |
| 合計 | 一八 | 一四 | 一 | | | | 二 | | |
| | | | | | | | 三 | | |

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|
| 大分 | 五 | 二 | | | |
| 熊本 | 二 | 三 | | | |
| 宮崎 | 三 | 三 | | | |
| 北海道 | 四 | 七 | | | |
| 沖繩 | 七 | 一〇 | | | |
| 合計 | 二八 | 一〇 | 四 | 一 | |
| | | | | 八 | |

第二部 皮、塗、染料、漆料、其他工業用原料

第二部 皮、葉、染料、糖料、其他工業用原料

四三〇

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 京都 | 一 | 一 | | | | | | |
| 廣島 | 四 | 四 | | | | | | |
| 愛媛 | 二 | 二 | | | | | | |
| 高知 | 二 | 二 | | | | | | |
| 合計 | 一〇 | 一〇 | | | | | | |

第九類 其三ノ内藏繩

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 京都 | 四 | 一 | | | | | | |
| 奈良 | 三 | 三 | | | | | | |
| 巖手 | 一 | 一 | | | | | | |
| 高知 | 三 | 三 | | | | | | |
| 大分 | 二 | 二 | | | | | | |
| 合計 | 一三 | 一〇 | | | | | | |

第九類 其三ノ内雜品類 (漆、割藤、木賊、樟葉、製藤、管、刈、萱根、鳳尾、藤、菜、裝、皮、杖)

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 京都 | 一 | 一 | | | | | | |
| 靜岡 | 一 | 一 | | | | | | |
| 長野 | 三 | 三 | | | | | | |
| 秋田 | 三 | 三 | | | | | | |
| 島根 | 一 | 一 | | | | | | |
| 島 | 一 | 一 | | | | | | |
| 德島 | 六 | 六 | | | | | | |
| 鹿兒島 | 二 | 二 | | | | | | |
| 合計 | 一八 | 一五 | | | | | | |

| 府縣名 | 出品點數 | 出品人員 | 擬賞見込數 | | | | 合計 | 備考 |
|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等 | 二等 | | |
| 京都 | 一 | 一 | | | | | | |
| 大阪 | 一 | 一 | | | | | | |
| 靜岡 | 一 | 一 | | | | | | |
| 長野 | 一 | 一 | | | | | | |
| 秋田 | 一 | 一 | | | | | | |
| 島根 | 一 | 一 | | | | | | |
| 島 | 一 | 一 | | | | | | |
| 德島 | 六 | 六 | | | | | | |
| 鹿兒島 | 二 | 二 | | | | | | |
| 合計 | 一〇 | 一〇 | | | | | | |

第一檜皮、杉皮、楮皮、楨皮及其細類ニ就テ細評ヲ試ムレハ
 奈良縣 本縣ハ杉材ノ產地トシテ有名ナル處ナルカ獨リ材ノ佳良ナルノミナラス其杉皮モ
 亦頗ル良品ヲ産出スルヲ以テ其名甚タ高シ而シテ該皮ノ用途ニ就テハ前記概評ニ記述セル
 カ如ク其效用モ亦少カラサルモノニシテ本縣産ハ概シテ精良品ナルヲ以テ茶室又ハ雅致ア
 ル建物ノ天井或ハ壁ノ腰張或ハ垣籬等ニ使用シ頗ル趣アリ又家根葺用ニ向ツテモ多量ノ需
 要アルモノナリ其出品中三等賞格ニ入リシ吉野郡川上村仲西仙太郎ノ出品ハ品質大ニ優良
 ニシテ同人ハ明治三十三年ニ二百八十駄、三十四年ニ三百二十駄、三十五年ニ三百五十駄ノ産
 出ヲ爲セリト云フ又同郡四郷村阪本龜吉ハ同シク杉皮ヲ出品シテ褒狀ヲ受領セリ而シテ同

第二部 皮、葉、染料、糖料、其他工業用原料

四三一

人ハ明治三十三年ニ四千五百束、三十四年ニ五千二百束、三十五年ニ八千束ノ產出ヲ爲セリト云フ夫レ此ノ如ク杉皮ハ何レモ產額ノ遞加セルヲ見レハ其世人ノ嗜好ニ適シ前途大ニ好望ナルヲ見ルヘシ

和歌山縣^{△△△} 本縣ニ於テ檜肌繩ヲ出品シ褒狀ヲ受領セシハ海草郡日方町清水與次兵衛ニシテ同人ハ前回ニ於テモ褒狀ヲ受領セリ而シテ本品ノ販路ハ北海道、奥羽并ニ東海方面ニシテ其效用ハ鑛山又ハ鑛道ノ隧道及船舶ノ水留等ニ供用スルモノニシテ之カ產額ハ四萬束餘價格金壹萬貳千圓ヲ下ラスト云フ又本縣和歌山市下町池本虎吉ハ同檜肌繩ヲ出品シテ褒狀ヲ受領セリ

京都府^{△△△} 本府山城國愛宕郡鷹峰村鷹峰材木商組合モ亦杉皮ヲ出品シテ褒狀ヲ受領セリ其品質ハ佳良ニシテ產額モ亦頗ル多ク明治三十三年ニハ三萬五千束此價金貳萬圓、三十四年ニハ四萬三千束此價金貳萬參千五百圓、三十五年ニハ五萬束此價金貳萬七千五百圓ヲ出セリ而シテ其販路ハ主トシテ京都及伏見附近又ハ滋賀地方ナリト云フ

福井縣^{△△△} 本縣遠敷郡小濱町ノ河嶋源四郎ハ檜皮ヲ出品シ褒狀ヲ受領セリ其製法ハ原木ヨリ皮ヲ剝離シタル後一晝夜之ヲ水ニ浸シ後二日間日光ニテ之ヲ乾燥セシメ細カク割リ又焙爐ニテ之ヲ乾カシ更ラニ一晝夜ヲ經テ之ヲ横槌ニテ能ク叩キ打蕩ノ如クナシタルモノナリ而シテ明治三十二年ニ三百九(八九二)價參百圓、三十三年ニ三百九價參百拾圓、三十四年ニ四百九價四百八拾圓ナリト云フ其販路ハ北海道及北陸山陰兩道ノ諸縣ニ及ヘリ

以上諸縣ノ外大阪府及埼玉三重愛知岐阜青森鳥取廣島徳島愛媛ノ諸縣ヨリ少ナキハ一點多キハ十二點ノ出品アリシモ何レモ價格ニ入ル者ナカリシハ眞ニ遺憾トスル處ナリ將來一層良品ノ多產ヲ望マサルヲ得ス

第二ヘラ皮、しな皮及其繩類 本類ノ出品ハ僅カニ八縣ニシテ出品點數ハ五十九點ニ及ヘリ今左ニ其價格ニ入リシモノヲ列記センニ

大分縣^{△△△} へら皮カ本縣特產タルコトハ前記概評ニ於テ詳悉セルカ如クニシテ其品質ノ概シテ好良ナルハ要スルニ之レニ適當セル樹木アルト又之レカ剝皮晒白スルノ道ニ熟達セルトニ依ルヘシ今回本縣下毛郡中津町永木貞吉ハ本品ヲ出陳シテ三等賞ヲ受領セリ其解説書ハ大ニ參考ニ資スヘキニ依リ左ニ之レヲ抄録ス

大分縣下毛郡中津町永木貞吉出品へら皮解説書抄録

製造地 大分縣下毛郡東城井村大字曾木

製造方法 原料へら木ハ毎年五月中旬ヲ以テ伐採ノ時季ト定メ長サ六尺四寸ニ切斷シテ皮ヲ剝キ去リ之レヲ凡ソ四十日間位溜池或ハ川ニ浸シ置キ更ニ清水ニテ能ク洒ラシ日光ニテ十分乾燥セシメタル後製造シ居リシモ何分引力ヲ損シ又光澤ヲ失フ事アルニ依リ種々研究セルニ最初へら皮ヲ浸スニハ地質赤土ヲ帶ヒタル溜池ヲ用フル事ノ最モ肝要ナルヲ發見シタリ然ル時ハ決シテ光澤及引力ヲ損スル事ナシ

開業沿革 明治元年ヨリ引續キ營業

販路 大分縣 福岡縣 山口縣 岡山縣 大阪 神戸

産出高累計 明治三十五年中産出一萬貫目

販賣高累計 明治三十五年中販賣高六千五百圓

審査請求ノ主眼 縦サキ能ク分レ滑カニシテ花筵青筵等ヲ製造スルニ最モ適切良好ナリ
又本縣日田郡馬原村安達竹次郎并ニ同郡日田町渡邊芳太ノ兩名ハ亦本品ニ對シテ褒狀ヲ受
領セリ

巖手縣^{△△△} 本縣出品ノ極細ハ總テ二十九點ニシテ各府縣中最モ多數ノ出品ヲ爲セリ而シテ何
レモ板樹即チシナ樹ノ皮ヲ以テ製シタル長短細大各種ノ糾繩ニシテ該地方ニテハ之ヲ極細
ト稱セリ今之ヲ出品シテ褒狀ヲ受領シタルハ本縣下閉伊郡大川村川村安藏及九戸郡山根村
植野三太ノ兩名ニシテ其産額ハ何レモ數百本又ハ數百把ニ過キサレ少額ナリト雖トモ畢竟
世上ニ於テ未タ本縣ニ於ケル極細ノ效用ヲ知ラス從テ其需要少ナキニ起因セルヘシ當業者
須ラク販路ノ擴張ニ努力セサルヘカラス

岡山縣^{△△△} 本縣阿哲郡新郷村太田喜右衛門ハシナ皮方言山ガケヲ出品シ褒狀ヲ受領セリ
其他滋賀長野富山鳥取島根ノ諸縣ヨリ一點乃至四點ノ出品アリシモ何レモ賞格ニ入ラス將
來其剥皮并ニ晒白方法ノ改善ヲ講セサルヘカラサルナリ

第三 あべまき樹皮及こるく製品 本類ハ前記概評ノ部ニ於テ記述シタルカ如ク近時塞子
製造業ノ勃興セルニ從ヒ其産額著シク増加シタルハ明了ナル事實ニシテ今回出品中高等ノ

賞格ニ入ルノ價值ヲ有スルモノナカリシト雖トモ三等賞以下出品點數ノ割合ニ比シ多クノ
受賞者ヲ出セルハ斯業ニ取リテ聊カ人意ヲ強フスルニ足レリ而シテ出品者二十名出品點數
二十一ノ内三等賞格ニ入リシ者三名褒狀ヲ受領セシ者六名ナリ其三等賞格ニ入りタル者ハ
原料樹皮ノ生産者ニアラスシテ其塞子製造者ノミナリシハ少シク遺憾トスル所ナリ今左ニ
受賞者ヲ府縣別ニ記載スレハ

岐阜縣^{△△△} 本縣羽島郡竹ヶ鼻町塞子製練所代表者渡邊六治ハあべまき樹同皮同製皮及塞子ヲ
出品シタル者ニシテ其原料ヲ膨脹セシムルニ酒精及醋酸^{ナトリウム}ヲ使用シ明治三十年ニ
於テ之カ特許ヲ受ケタリ然レトモ自己カ特許ヲ受ケタル藥品ヲ使用スルトキハ其費用多額
ナルカ爲メ近時ハ概子重碳酸曹達ヲ代用セリ今参照トシテ之カ解説書ヲ左ニ抄録スヘシ

岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町塞子製練所代表者渡邊六治解説書抄録

産地土質 岐阜縣武儀郡上牧村ニ産シ土質ハ花崗岩質ニシテ疎立シタル野生ナリ日光及

風通能クシテあべまき樹ニ適當ノ地ニ産ス

種植及採取 あべまき樹ノ橡子^{シロイ}ヲ秋季採集シテ土中ニ埋メ置クトキハ翌春ニ至リテ發芽
ス其幼木ハ畑ニ於テ生長セシメ三年生位ニシテ日光及風通好キ山腹ニ植ヘ三十年位ニシ
テ夏七八九ノ三箇月間内ニ母皮ノ表皮ヲ剥キ去レハ翌年ヨリ漸次ニ新皮ヲ生シ十年内外
ヲ一期トシテ數回採取シ得ルモノナリ

製造地 岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町商號塞子製練所製造場建坪七十二坪

京都府北桑田郡鶴ヶ岡村(商號)塞子製煉所分工場 製造場建坪三十九坪

原料 塞子製造ノ原料ハあべまき樹皮トス當工場ノ供給ハ山陰、山陽、東海ノ三道ヨリ産出スルモノヲ用フ

製造用品 (原料精製用品) 原料煮釜、桶、烟通爐

(塞子製造用品) 回轉器械、渡邊式塞子器械、渡邊六治ノ工夫ニテ製作シタル者九

鋸丸錐、ナイフ

製造法 明治三十年七月十四日付農商務省特許局第二九二〇號特許證ニ據リ製造ス其方法ハ酒精、硫酸、ナトリウムヲ湯ニ混シ其液中あべまき樹皮ヲ能ク煮熟シ其皮ヲ石炭又ハ烟ノ多キ燻料ヲ一室、烟通爐ニ送烟シ煮タル皮ヲ之レニ入レ置ク時ハ暫時ニシテ樹皮ハ烟ニ觸レ三分ノ二内外膨脹ス其皮ヲ洗ヒ乾シ丸錐ニテ切斷シ渡邊式塞子器械ノ附屬丸錐ニテ各塞子ヲ抜キ之レヲ適宜ニ小刀ニテ切斷シ塞子トナス

沿革 明治二十六年以來渡邊六治塞子ノ製造ニ熱中シ二十八年頃ニ至リテ改良ノ端ヲ開キ林學博士河合錦太郎氏等ノ贊助ニ依リテ發明功ヲ奏シ明治二十九年六月岐阜縣竹ヶ鼻町ニ製造場ヲ設置シ爾來原料供給ノ爲メ東飛西走各山林家ニあべまき樹皮採取ノ利ヲ説キシモ木幹ノ枯死ヲ恐レテ容易ニ首肯セス茲ニ於テカ數本ノあべまき樹ヲ買ヒ自ラ皮ヲ剝キ翌年ニ至ルヲ待ツテ其枯死セサルヲ示シ或ハ種々ノ困難ヲ經テ一般山林家ニ悟ラセシムルヲ得明治三十三年度ヨリ漸次需要ヲ充シ得ルニ至レリ爾テ塞子製造ニ用フル器械

又技術ニ至テハ未タ内國ニ於テ斯業ノ發達シ居ラサル爲メ小刀細工ヲ以テ製スルト又輸入横削器械ヲ用フルノ外ナシ此等ノ方法ヲ以テ製造スル時ハ多額ノ勞費ヲ要シ低廉ナル製品ヲ成ス能ハス之ニ於テカ苦心以テ器械ヲ工夫シ三十二年四月ニ至リテ漸ク完成ヲ遂ケタリト雖トモ年々需要ニ應シ難キニ加ヘ原料ノ供給充分ナラス比年原料ノ缺乏ヲ生シ中途ニシテ休業ノ已ムヲ得サルニ接シ明治三十三年ニ至リテ山林家ノ悟ラテ相待テ供給増加シ同年二月ヨリ丹波國ニ分工場ヲ設置シ更ニ三十四年四月三河國足助町ニ分工場ヲ設置セントスルヤ時恰モ經濟界ノ不振ニ伴ヒ販路閉塞シ已ムナク其創立ヲ中止スルノミナラス當工場ト丹波分工場ハ三十四年八月ヨリ三十五年五月迄九箇月餘休業スルノ不幸ニ陥リ創設以來財ヲ失フモノ數千圓ニ及ヒ爲メニ組合員ハ皆去リテ跡ニ殘ル者己レ一人然レトモ自信ノアル處ヲ遂行シテ輸出ノ途ヲ開キ又内國市場ニ奔走シテ需要者増加シ今ヤ整理ノ期ニ至ラントセリ

| 年 度 | 塞 子 製 造 高 | 此 價 格 (圓以下切捨) |
|-------------|-----------|---------------|
| 明 治 二 十 九 年 | 百二十三萬二千箇 | 百六拾八圓 |
| 同 十 年 | 五百三十五萬五千箇 | 八百七拾六圓 |
| 同 十 一 年 | 千五百五十八萬千箇 | 千七百五拾貳圓 |
| 同 十 二 年 | 千六百七十一萬箇 | 貳千七百四拾五圓 |
| 同 十 三 年 | 五千六百八十萬箇 | 六千貳百五拾圓 |

第二部 皮革、染料、塗料、其他工業用原料

| | | |
|--------|-----------|---------|
| 明治三十四年 | 三千五百三十八萬箇 | 四千六百七拾八 |
| 明治三十五年 | 二千九百六十一萬箇 | 三千八百七拾八 |

第二部 皮革、染料、塗料、其他工業用原料

四三八
參內千六百七拾八
內千八百七拾八

褒賞 明治三十年六月 農科大學林學科賞讚受

同 年九月 岐阜縣五二會品評會銅牌受領

同 三十一年五月 第二回五二會全國品評會一等褒賞受領

同 三十四年四月 大日本山林會幹事長田中芳男氏當工場親觀製成適用途題額下賜

審査請求ノ主眼 我國維新以來塞子ノ輸入ヲ仰クト雖トモ内國ニ於テ未タ輸入ヲ防禦シ得ヘキ塞子產出セス纜カニ小瓶用ノ塞子ヲ產出スト雖トモ質堅ク又大ナル者ニ至テハ原料あべき樹皮薄キヲ以テ製造シ能ハス茲ニ於テカ原料あべき樹皮ノ膨脹法ヲ發明シ容易ニ大ナル塞子ヲ製造シ得ルト共ニ柔弱ナル良好ノ塞子ヲ製造シ得ルカ如キ大ヒニ誇ル處ナリ加之器械ヲ改良シ製造費ノ節減ヲ圖リ又産額ヲ年々増加シ又一斑山林家ニあべき樹ノ有用ナルヲ説キ保護植樹ヲ奨励シテ其功ノ著シキ等ハ審査ヲ乞フノ主眼トスル處ナリ

廣島縣 廣島市清谷角八ハ大小各種ノ塞子ヲ出品シタルモノニシテ今回三等賞ヲ受領シタリ本人ハ原料ノ粗皮ヲ膨脹且ツ柔軟ナラシムルカ爲メ之ヲ曹達ニテ熟煮セリ其解説書ハ参照ノ資トスルニ足ルヘキヲ以テ之ヲ抄録スヘシ

廣島縣廣島市中島新町清谷角八出品コロップ解説書抄録

製造地 コロップ製造ノ工場ヲ左ノ各地ニ有ス

- 第一工場 廣島市中島新町 建坪五十六坪 二階建
- 第二工場 備後國比婆郡庄原町 建坪六十五坪 平屋建
- 第三工場 石見國邑智郡市木村 建坪四十八坪 平屋建
- 第四工場 同 國同 郡田所村 建坪四十二坪 平屋建

原料 コロップ製造ニ要スル原料ハ土俗ニ阿部横ト稱スル喬木ノ厚皮ニシテ本邦ニ於テハ安藝備後ノ北部石見ノ西南部ヨリ西九州日肥ノ境上、東北海道ノ諸山ニ多ク之ヲ産シ其他全國到ル所ノ山林多少之ヲ產出セサルナシ毎歲六、七、八月ノ頃ニ於テ其表皮ヲ剝取シテ製造ニ供ス殊ニ其最モ其厚肥セルハ北米地方ニ産スル「コル」ク櫛ノ表皮ニシテ年々數千貫ヲ輸入シテ製造ニ供ス

製造用品 コロップ製造ニ使用スル機械器具及藥品左ノ如シ
 剝皮用鎌、皮煮用大釜、切皮機、立口機械、平口機械、片細機械、仕上庖丁、藥品炭酸曹達
 製造ノ順序方法 原產地ヨリ剝キ來リタル原料厚皮ヲ製造場ニ設ケタル火爐ニテ炙熱シテ後之ヲ大釜ニ投シ曹達ヲ混シテ熟煮スレハ澁ヲ去リテ皮ヲ軟化シ且其彈性ヲ増加ス之ヲ切皮機ヲ用ヒテ適宜ノ長サニ切り立口機械若クハ平口機械ニ掛ケテ大小任意ノコロップヲ抜キ製ス而シテ之ヲ仕上ケ庖丁ニテ全ク仕上クルナリ

第二部 皮革、染料、塗料、其他工業用原料

又片細口ハ右ノ順序ニテ仕上ケタルモノヲ更ニ片細機械ヲ用ヒテ製作ス、立口機械ハ從來一回轉ニ一箇ツ、ヲ抜キ取ルモノナリシカス業ニ從事以來改良ニ心ヲ寄セ明治三十二年終ニ一回轉ニテ大ナキモノヲハ七箇ヨリ順次小ナルモノニ至レハ二十箇ヲモ抜製スルヲ得ル様創意改良シ且惰輪ヲ加ヘテ大ニ製作者ノ勞力ヲ減シタリ、片細機械ハ去ル明治三十年全部自ラ案出シ爾來絶エス改良ヲ施シ今ハ全ク如何ナル寸法ノ片細ニテモ自由ニ製造シ得ルニ至レリ

以上ノ方法ニテコロップヲ製取シタル殘餘ノ切屑ハ之ヲ粉碎シテ防濕用トシテ軍艦商船等ノ内部ヲ塗ルニ用フ

效用 硝子瓶、酒類瓶、藥瓶等其他各種容器ノ口ヲ密封スルニ用フ
沿革 本品製造ノ業ハ去ル明治五年義父渡邊佐兵衛之ヲ本市天満町ニ創メ年ヲ追フテ其産額ヲ増シタリシカ其後一時内地ノ原料缺乏ヲ來セシカ爲メ明治二十五年以來遙ニ北米ヨリ其原料ヲ取リテ繼續シ居タルヲ明治二十八年其儘小生ニ於テ引受ケ爾來剥皮ノ時季ヲ按シ方法ヲ改善シ從來ハ全部剥皮ヲナシタルヨリ樹幹ノ枯死ヲ招キ居タルカ之レヲ其樹ノ性質ニ應シテ幾部ヲ存シ置クコト、シタル爲メ一樹ニ於テ幾回ト限リナク剥皮ヲナシ得ルノ法ヲ發見シ現今ハ内國産ノ原料殆ント有リ餘ルニ至リタリ加フルニ舶來ノ原料ヲモ併用シテ年々其業ヲ擴張シ同年直ニ第二工場ヲ備後比婆郡ニ設ケ明治三十年更ニ第三工場ヲ島根縣邑智郡市木ニ開キ明治三十四年第一工場ヲ中島新町ニ移轉シテ一層其製

造ヲ盛ニシ明治三十五年第四工場ヲ石見國邑智郡田所村ニ開設シタリ
製造品ノ數量、價格及販路 近頃數年間ニ於ケル製造高并ニ其價格左ノ如シ

| 年次 | 立口 箇數 | 平口 箇數 | 片細 箇數 | 總 價 格 |
|--------|-------------|-----------|-------------|------------|
| 明治三十三年 | 九百二十三萬五千箇 | 二百五十二萬三千箇 | 五百八十五萬七千箇 | 壹萬壹千貳百六拾五圓 |
| 明治三十四年 | 一千四百十八萬六千箇 | 五百四十一萬八千箇 | 八百六十二萬七千箇 | 壹萬七千六百五拾八圓 |
| 明治三十五年 | 一千八百二十六萬三千箇 | 七百二十三萬七千箇 | 一千二百六十五萬三千箇 | 貳萬貳千八百貳拾參圓 |

其販路ハ大阪市ヲ第一トシ東京及長崎ヲ經テ西比利亞地方ニ輸出スルモノ亦甚タ多ク支那、朝鮮、臺灣等之ニ次ク其他内地ニ於テ中國、四國、西國ノ各市皆需要者アリ年々ノ賣込高尠カラス

衰狀 渡邊佐兵衛製造中衰費ヲ蒙リタルコト左ノ如シ

| | |
|----------|--------------|
| 明治九年六月 | 京都博覽會ヨリ衰狀ヲ受ク |
| 同 十年十一月 | 内國博覽會ヨリ 同 |
| 同 十七年五月 | 奈良博覽會ヨリ 同 |
| 同 二十三年七月 | 第三回内國博覽會ヨリ同 |

審査請求主眼 品質ヲ改良シテ柔軟ナラシメ能ク薄弱ノ瓶ニモ使用シテ破裂ノ憂ナカラシメ且舶來品ニハ蝕孔多クセントモ本品ハ更ニ蝕孔ナクシテ其柔軟ノ度ハ舶來品ニ讓ラサルコト

器械ヲ改良シテ産額ヲ増加シ又剥皮ノ法ヲ改善シテ原料產出ヲ増加シタルコト

販路次第ニ擴張シテ輸入品ヲ減シタルコト

愛知縣 名古屋市藤井源治郎ハ十種ノ塞子ヲ出品シタルモノニシテ其原料ノ粗皮ヲ膨脹セシムルニ清水中ニ少量ノ硫酸ヲ加ヘテ之ヲ煮沸セリ又同人ハ此製法ニ付明治三十二年特許ヲ得タリ今回審査ノ結果三等賞格ニ入レリ今參考ノ爲メ其解説書ヲ左ニ抄録ス

愛知縣名古屋市松重町藤井源治郎出品塞子解説書抄録

製造地 愛知縣名古屋市松重町

原料 橡皮愛知縣東加茂郡產

製造用品 小飽丁一人要機械

製造方法 先最初橡樹皮ヲ水ト強硫酸ヨリ成ル液中ニ煮沸シ更ニ之ヲ冷水中ニ浸漬シテ

此改良塞子製造方法ハ自分ノ實驗考案ニ由ルモノナリ

沿革 創業ハ明治三十年二月ニシテ明治三十二年ニ至リ製造方法ヲ改良シ特許ヲ出願セ

シニ第四九二一號ヲ以テ許可セラレタリ依テ益々販路ヲ擴張シ現今ニ至レリ

製造品ノ數量價格及其販路

品目 明治三十二年 明治三十三年 明治三十四年

第一號 二百七十四萬七千箇 三百三十四萬箇 六百〇五萬箇 東京大阪北海道愛知縣

效用 壘口ヲ密閉スル用途ニ充ツ

審査請求ノ主眼 添付品ハ本品ノ製造原料ニシテ即チ橡樹皮ナリ要スルニ該皮第一號ヨ

リ第四號ハ初生皮ニシテ一見粗惡品ナルモノ、如ク又厚薄アリ其樹皮ノ性質ニ至リテハ強堅或ハ和柔ナル別アリ又第五號ハ再生皮ニシテ表裏面共ニ變更シテ好皮ノ結果ヲ得又ハ多量ノ收穫ヲ得ルモノナリ季節ハ五月ヨリ九月間ニ立木ノ儘採シ十二年或ハ十五年毎ニ採スルコトヲ得ルナリ

添付品ハ養成年度數ニ拘ハラス初生皮ノ性質ニアリテハ強堅和柔ノ別アリ又厚薄ノ別アルモ再生皮ヨリハ總テ和柔トナリ厚サニ至リテモ各種共大差ナキ好結果トナルコトヲ證セリ

添付品ノ俗名ハ各地毎ニ左ノ如ク稱セリ

橡樹、綿クス木、魁橫鬼皮、檳白楨、大ドラ、ドシ、栗、國津木、阿部クノ木、男楨、厚木、ホース、ホーソー楨、カナ木、クス木

自分改良ノ塞子ハ最モ彈力性ニ富ミ屈伸自在ナルヲ以テ能ク壓塞ニ堪ヘ栓塞ノ時ニ方リ毫モ縷口ヲ損スルノ憂ナク又自壞スルノ憂ナク加之壓力ニ堪ヘシムル爲メ使用前一々煮沸シ柔軟ナラシムルノ煩ヲ要セサル效用アリ願クハ右ノ件々御審査アランコトヲ審査請求スル要點ナリトス

東京府 東京市荒木嘉助ハ塞子ノ外ペン軸其他各種ノ製品ヲ出品シ襖狀ヲ受領セリ而シテ本人ハ粗皮ヲ膨脹柔軟ナラシムルカ爲メニ之ヲ煮沸スルニ硫酸ヲ使用セリ而シテ一箇年ノ製品高ハ凡ソ九十萬箇其價金六百參拾圓ナリト云フ

兵庫縣 佐用郡德久村ノ内林崎村鎌田和三郎ハ諸種ノ塞子ヲ出品シテ襜狀ヲ受領セリ同人ハ粗皮ヲ膨脹セシムルニ水八斗ニ重炭酸曹達二斤ヲ混シ凡ソ四十分開之ヲ煮沸セリ本人ハ明治十六年以降本業ニ従事シ三十四年ニハ百四十三捆金千七百拾六圓ヲ産出セリト云フ

島根縣 邑智郡市木村梶原榮太ハ十五種ノ塞子ヲ出品シテ襜狀ヲ受領セリ本人ハ粗皮十貫目ヲ二十分開水ニテ煮沸シ之レニ牛脂及重曹各二十五匁ヲ加ヘ更ニ少時間浸漬シ後之ヲ乾燥シテ製造用ニ供セリ其産額三十三年ニ大小五千八百萬箇金七百五拾圓三十四年ニ大小六千四百萬箇金九百貳拾圓三十五年ニ大小八千萬箇金貳千五百圓ナリト云フ

徳島縣 徳島市橋本吉次郎ハ十八種ノ塞子ヲ出品シテ襜狀ヲ受領セリ本人ハ粗皮ヲ膨脹セシムルニ曹達灰四分ノ一磅ニ水一斗ヲ加ヘ約一時間煮沸セリ明治三十二年ニ一千五百二十袋金壹千五百貳拾圓三十三年ニ一千六百三十袋金壹千七百九拾參圓三十四年ニ一千四百七十袋金壹千六百拾七圓ヲ産出セリト云フ

岡山縣 本縣阿哲郡豐永村吉岡忠治郎同郡新砥村伊達善一郎ハ共ニわさき樹ノ粗皮ヲ出品シテ襜狀ヲ受領セリ

其他大阪府ヨリ三人神奈川縣ヨリ一人ノ出品者アリシト雖モ多クハ外國ヨリ輸入ノ原料ヲ以テ製造シ又ハ他人ノ生産販賣者ニシテ特ニ斯業ノ進歩發達ニ著シキ影響ヲ及ホス者アルヲ認メサリシハ遺憾トスル處ナリ

第四 染用并ニ鞣皮用樹皮、樹葉、樹根、其他本類ハ東京府外二十四府縣ノ百〇八人ヨリ百十八點

ノ出品ヲ見タリ其三等賞格ニ入リシモノ四人襜狀ヲ受領セシ者十四人アリ今左ニ府縣別ニ之ヲ掲記スレハ

巖手縣 本縣巖手郡川口村高村喜藏ハ今回櫛皮ヲ出品シテ三等賞ヲ受領シタリ本人ハ自村地内ノ天然生櫛樹ヨリ採收セルモノニシテ春季立木ノ儘又ハ伐木ノ上剥皮シテ乾燥シ以テ諸方ニ輸出スト云フ其年額一萬貫ヲ下ラス

岡山縣 本縣苫田郡上加茂村内田貞太郎ハ亦櫛皮ヲ出品シテ三等賞格ニ入レリ毎年春季又ハ夏季ニ採收シ明治三十三年度ニハ二萬貫、三十四年度ニハ二萬三千貫、三十五年度ニハ二萬五千貫ヲ産出セリ

島根縣 本縣仁多郡八川村佐藤龜松出品ノ化香樹皮ハ品質頗ル佳良ニシテ三等賞ヲ受領セリ木村山林内ニ自生セル二十年以上生育セル香杳樹ノ根部ヲ掘リ取り適當ノ長サニ切斷シ櫛ニテ之ヲ打チ其皮ヲ剝キ凡ソ一週間日光ニ曝シテ乾燥セシム而シテ其賣買額三十三年ニハ四萬貫、三十四年ニハ四萬五千貫、三十五年ニハ四萬二千貫ニ達セリ又本縣能義郡布部村宇山榮太郎同飯石郡掛合村日森文太郎ハ共ニ化香樹皮ヲ出品シ何レモ襜狀ヲ受領セリ其品質ハ佐藤龜松ノ出品ニ次ケリト雖トモ其産額ハ遙カニ之レニ及ハス三十四年ニ前者ハ五百貫、後者ハ五千貫ヲ産出セルニ過キスト云フ

福井縣 本縣大野郡上穴馬村石神權太郎出品ノ黃蘗皮ハ品質優良ニシテ其産額ハ毎年平均八千貫目ナリト云フ今回三等賞格ニ入レリ而シテ之ニ次キ同皮ヲ出品シテ襜狀ヲ受領セル

ハ同村山本治七ナリトス

其他黄蘗皮ヲ出品シテ褒状ヲ受領シタルハ北海道石狩國空知郡瀧川村鈴木吉次及鳥取縣日野郡阿毘線村高木民彌ノ兩名ニシテ其品質大ニ見ルヘキモノアリ而シテ前者ハ毎年平均千

百石餘ヲ産出スルモ後者ハ僅カニ二百貫目ヲ出スニ過キス
其他又榭皮ヲ出品シテ褒状ヲ受領シタル者ハ青森縣西津輕郡車力村齋藤勇吉其産額ハ年々八百貫目宮城縣柴田郡川崎村佐藤善作(毎年ノ産額七八千貫目)東京府南多摩郡八王子町岩井國吉其産出年額二萬五千貫目山梨縣西八代郡鴨狩津向村宮澤晋一(其産額平均凡一萬七千貫目)長野縣北佐久郡協和村清水袈裟平(其産額平均一萬三千貫目)ノ五名ナリ其品質ハ何レモ優等ニシテ其間著シキ差異アルヲ見ス、

又椎皮ヲ出品シテ褒状ヲ受領セシ者ハ徳島縣那賀郡鷺敷村生杉徳見(其産出年額平均七百貫目)宮崎縣西臼杵郡岩井川村川中米吉(毎年産額平均三千四百貫目)ノ兩名ニシテ其品質ハ椎皮中稀ニ見ル良品ナリトス

三重縣 飯南郡柿野村丸山藤次郎ハ楡皮ヲ出品シテ褒状ヲ受領セリ其品質ハ頗ル優等ニシテ産額モ亦四千貫目ノ多キニ達セリ

沖繩縣 本縣八重山郡宮良間切古見村仲本松ハ紅露ヲ出品シテ褒状ヲ受領セリ本品ハ有要ナル單仁含有物ニシテ其量割合ニ多キ優等品ナリ毎年一萬斤内外ヲ産出シ販路ハ多ク南清地方ナリト云フ

以上各府縣ノ外大阪府兵庫縣群馬縣茨城縣愛知縣山形縣秋田縣廣島縣熊本縣諸縣ヨリ一點乃至四點ノ出品アリシモ何レモ賞格ニ入ルノ資格ヲ具備セサリシハ遺憾トスル處ナリ將來尙ホ其改良發達ノ獎勵ヲ當局者ニ向テ望マサルヲ得ス

第五竹皮 本類ヲ出品シタルハ京都府外十三府縣ニシテ四十七人六十六點ナリトス其最多數ヲ出品シタルハ福岡縣ニシテ京都府大分縣之ニ次ケリ而シテ三等賞格ニ入リシ者ハ二人ニシテ褒状ヲ受領セシ者ハ七名ナリ今府縣別ニ之ヲ記載スレハ即チ左ノ如シ

福岡縣 本縣浮羽郡姫治村國武利夫ハ白竹皮ヲ出品シテ三等賞ヲ受領セリ該皮ハ其色淡褐白色ニシテ光澤ヲ帶ヒ品質頗ル佳良ナリ其毎年ノ産額ハ八十貫目餘ナリト云フ又本縣八女郡福岡町松鶴彌市及同町高橋榮次郎ハ共ニ白竹皮ヲ出品シテ何レモ褒状ヲ受領セリ而シテ其品質ハ二者互ニ多少ノ優劣アリト雖トモ共ニ國武利夫出品ニ次ケル良品ナリ而シテ前者ノ賣買高ハ毎年五萬貫目内外ニシテ後者ハ三百貫目内外ヲ産出ス

京都府 葛野郡西院村中井瀧三郎ハ本皮中皮梢皮枝皮等ヲ出品セリ就中元皮(白竹皮)ハ品質最モ優良ニシテ三等賞ヲ受領セリ本人ハ諸皮ヲ加ヘテ一箇年平均百三十貫目餘ヲ産出ス又同郡川岡村岡區農會代表者大隅彌次兵衛ハ棒皮苦竹大皮及枝皮ヲ出品セリ其棒皮ハ形狀大ニシテ厚ク其質頗ル佳良ナルヲ以テ今回褒状ヲ受領セリ其黒斑アル棒皮ヲ出品シテ受賞セシハ獨リ本人アルノミ而シテ毎年ノ産額ハ平均二千二百貫目ナリト云フ

其他白竹皮ヲ出品シテ褒状ヲ受領セシ者ハ茨城縣行方郡太田村山野彌一(毎年産額平均五十

二貫目、愛知縣東春日井郡小川勝治郎、毎年産額平均二十五貫目、大分縣大分郡大分町渡邊安太郎、(毎年平均ノ賣買額五萬貫目)同郡湯平村秋吉一平、(毎年平均産額百貫目)ノ四名ニシテ其出品物ノ品質ハ多少ノ優劣アルヲ免レスト雖トモ何レモ優良ナリトス

其他、奈良、三重、福井、富山、鳥取、岡山、徳島、愛媛、熊本ノ諸縣ヨリ一點乃至六點ノ出品アリシモ賞格ニ入ルモノナカリシハ遺憾ニ堪ヘサルナリ

第六、蔓類 ハ其出品者ハ四十七名ニシテ、點數ハ六十六ニ過キス内、褒狀ヲ受領セシ者ハ六名ニシテ其縣別ハ即チ左ノ如シ

奈良縣 本縣宇陀郡宇太村樹田金治ハ、筏ヲ結束スルニ用フル藤蔓ヲ出品シテ受賞セル者ナリ其品質ハ極メテ適良ニシテ其一箇年ノ賣買高ハ五六萬貫目ノ間ニアリト云フ

滋賀縣 甲賀郡水口町盛進株式會社ハ、眞藤、引藤、堅藤ノ三種ヲ出品シタリ何レモ同町物産タル處ノ藤細工及刺編細工ノ原料ニ供スルモノナリ而シテ三十四年ニ眞藤ハ二千二百貫目、金貳千六百五拾圓、堅藤ハ三千五百貫目、金貳千百圓、引藤ハ千八百四十五貫目、金參千百參拾五圓ノ賣買ヲ爲セリト云フ

青森縣 本縣南津輕郡大鰐村島田淵太郎ハ、木通蔓ヲ出品シテ受賞シタリ其製法ハ春季發芽シタル蔓ヲ其年夏土用後ニ至リテ採收シ平釜ニ裝置シタル蒸桶ニテ之レヲ蒸シタル後、清キ流水ニ殆ント一箇月間浸シ置キ然ル後其皮ヲ剝キ取り米ヲ研キタル白水ニ浸スコト二日間ニシテ引揚ケ日光ニ晒シタルモノナリ本品ハ外觀優美其質強韌近年頻リニ手提籠等ノ器具

ヲ製造シ其需要頓ニ増加スルニ至レリ同人カ毎年産出スル處ノ額ハ凡ソ三千束内外ナリト云フ

福井縣 本縣遠敷郡松永村山崎源五郎ハ、粗皮ヲ去リテ晒白セシ葛蔓ヲ出品シタル者ニシテ其品質大ニ見ルヘキモノアリ其一箇年平均ノ産額ハ三百四十貫目、金五百拾圓ナリ

徳島縣 本縣阿波郡大俣村松永喜市ハ、種々ノ雜用ニ供スル皮付葛蔓ヲ出品シタル者ニシテ其品質佳良一箇年平均ノ産額ハ千四百貫目ナリ

以上諸縣ノ外、京都府、靜岡、山梨、鳥取、岡山、大分、宮崎ノ諸縣ヨリ各種ノ蔓類ヲ多少出品シタリト雖トモ何レモ特ニ稱スルニ足ルモノナカリキ

第七、木繩類 出品點數十二ノ内、京都府ノ捺苧一點ヲ除クノ外ハ、悉ク廣島、愛媛、高知、三縣ノ出品タル松繩ニシテ三縣共ニ各一名ノ褒狀受領者ヲ出セリ即チ愛媛縣北宇和郡吉野生村五島、証出品ノ松繩ハ品質佳良最モ見ルヘキモノニシテ漸次其産額ヲ増加スルノ勢ナリ其解説書ハ木繩製造ノ方法并ニ用途ヲ知ルノ便アルニ依リ左ニ之ヲ抄録ス

愛媛縣北宇和郡吉野生村五島証出品松繩解説書抄録

產地 北宇和郡吉野生村大字奥野川

採取 山野ニ自生スル凡ソ十四五年以上ヲ經タル松樹ヲ伐採シ枝或ハ節等ナキ幹ヲ撰ヒ本材ノ枯レサル内外皮ヲ除去シ曲リタル鎌様ノ器械ヲ以テ小口ニ切目ヲ入レ剝キ取り之ヲ貯フ繩ニ製スル前一二時間水ニ浸シ稍々和ラキタルヲ度トシ繩ト爲シ十尋ヲ以テ一房

トス

效用 大船ノ錨綱或ハ漁具タル大綱ノ大曳亦ハ車井戸ノ釣瓶繩等ニ用フ

産出高 本村ノ如キハ創業未タ年淺ク數量僅々タルモノ左ノ如シ

三十二年 六千房

三十三年 八千房

三十四年 一萬三千房

褒賞 年淺ク未タ出品セス故ニ褒賞等受ケシコトナシ

審査請求主眼 本村ニ於ケル創業以來久シカラスト雖トモ年々需要ノ多キ其増額ヲ視ル

年一年毎ニ増加セリ

又高知縣幡多郡十川村武林龜太郎廣島縣御調郡坂井原村楨次郎兵衛ノ二名ハ何レモ品質良

好ナル松繩ヲ出品シタル者ニシテ甲ハ毎年凡三萬把乙ハ平均五千六百本内外ヲ賣買セリ

第八級繩 本類ハ京都府外四縣ノ二十五人ヨリ二十八點ノ出品アリシニ止マリ其褒狀ヲ受

領シタル者ハ即チ左記ノ四名ニシテ其繩ノ製作ニ或ハ轆轤ヲ用ヒ或ハ手糾ノ別アリト雖ト

モ其製品ハ殆ント伯仲ノ間ニアリ品質何レモ優良ナルモノトス

京都府船井郡梅田村輕野善之助ハ手糾并ニ轆轤糾ヲ合セテ四點出品シタルモノニシテ前三

箇年間ノ平均産出額ハ一萬五千把金五百拾貳圓ナリトス

奈良縣吉野郡宗槍村岡本爲治郎ハ毎年平均三百束金參百圓ヲ産出セリ其出品物ハ手糾ナリ

巖手縣氣仙郡下有住村吉田駒藏ハ毎年四千尋ヲ製造シ其價僅カニ八圓ニシテ販路ナシト稱

セリ又同縣上閉伊郡小友村菊池種吉ハ毎年三百把ヲ製造シ其價僅カニ六圓ニ過キサルナリ

夫レ本縣ノ厥繩ハ何レモ手糾ニシテ品質佳良加フルニ價ノ廉ナルコト前記ノ如キニ拘ラス

其販路ナシト稱スルニ至リテハ實ニ一驚ヲ喫セサルヲ得サルナリ是レ全ク概評ノ部ニ於テ

述ヘタルカ如ク畢竟其販路ヲ求メサルニアルノミ當局者ノ特ニ注意獎勵ヲ望マサルヲ得サ

ルナリ

其他高知縣ヨリ三點大分縣ヨリ二點ノ出品アリシト雖トモ共ニ賞格ニ入ルモノナカリシ

第九雜品類 前記第一類ヨリ第八類迄ノ分類ニ屬セサル尙ホ種々ノ物品ノ出陳セラレタル

モノアリ即チ概評ノ部ニ於テ記述シタルカ如ク實ニ十七種ノ多キニ及ヒ其出品ハ人員六十

人ニシテ點數ハ八十ナリ内三等賞格ニ入リシ者一名褒狀ヲ受領セシ者八十名ナリトス左ニ

其種類府縣別人名等ヲ掲クヘシ

其一鳳尾蕉葉 鹿兒島縣大島郡金久村宮地注連太郎ハ鳳尾蕉葉ヲ出品シテ三等賞格ニ入レ

リ其品質ハ極メテ美良ナルノミナラス將ニ必要ナル輸出品タラントスルノ傾向アリ而シテ

其愛ニ至リタルハ出品者ノ苦心經營ニ因レルモノ少ナカラス其解説書ハ參照トナルコト少

カラサルニ依リ左ニ之ヲ抄録ス

鹿兒島縣大隅國大島郡金久村宮地注連太郎出品鳳尾蕉葉解説書抄録

産地土質及反別 鹿兒島縣大隅國大島郡金久村伊津部村外百二十箇村ニシテ土地ハ概子

第二部 皮、蓼、染料、塗料、其他工業用原料

乾燥赤粘土ナリ島民食料ノ爲メ數百年ノ昔ヨリ全郡至ル所ノ原野或ハ畑地ニ栽培シ來リタルモノ、葉ヲ購入スルモノナルカ故栽培反別ヲ掲記シ能ハス

種植及採收 播種及移植ニ一定ノ季節ナシ採收ハ移植後凡ソ五箇年後ニ一株ノ蘇鐵ヨリ無疵ノモノヲ撰ミ伐採ス刈取りハ毎年七月ヨリ十月迄ヲ良期トス

培養及保護 無肥料殊ニ蟲害ナキ植物ナルヲ以テ一定ノ養護方法ナシ
效用 獨逸國ニ於テ屋舎ノ裝飾又ハ葬式ノ際造花其他諸裝飾トナル

產出額 明治三十三年 三百二十五萬枚 此價格壹萬四千圓也

同 三十四年 四百八十七萬七千枚 同 壹萬五千圓也

同 三十五年 六百八十五萬枚 同 貳萬千七百六拾圓也

販路 神戸 横濱

沿革 明治十一年先島航海ノ汽船廣龍丸ニ賄長トシテ乘リ組ミ先島ニ至ル時ニ林中ニ夜光貝殻ノ拾テアルヲ認メ該島附近ニ貝殻類ノ多キヲ覺リ數箇ヲ拾ヒ神戸港ニ至リフアバ一ボーイ商會其他二三ノ外國商館ヘ示スニ何レモ有望ノ山ナルニ依リ翌明治十二年貝殻類採取ノ爲メ該島ニ下ル其節蘇鐵ヲ横濱港ノエルボーマー商會及神戸ノ二十五番館其他二三ノ外國商館ヘ出シタルニ是モ注文ヲ受ケタルニ依リ翌明治十三年住居ヲ琉球ニ移シ先島ヲ出張所トシ貝殻ノ採取傍ヲ蘇鐵ノ買入ニ從事ス明治十五年神戸港二十五番館ニ至リ蘇鐵ハ幹葉何レカ必要ニテ買入ヲナスヤヲ質問シタルニ枯葉ニ採色ヲ加ヘテ使用スル

モノナリト聞キ葉ヲ製スルノ感ヲ起シ其後亞米利加一番館主ノ談ニ海産ハ危險ニシテ滅滅ノ虞アリ山野ノモノハ安全ニシテ繁殖セシムルコトヲ得故ニ山ニ注意スヘシトノ忠告ヲ受ケ一層葉ニ熱心スルノ度ヲ高メタリ明治十六年ニ斷然意ヲ決シ住居ヲ大島ニ移シ琉球ヲ支店トシ専心葉ノ乾燥工風ニ著手ス(住居ヲ琉球ヨリ大島ニ移シタルハ沖繩ノ葉ハ幅狭クシテ粗葉ナリ大島ノ葉ハ幅廣クシテ密葉ナルカ爲メナリ)元來鳳尾蕪葉ハ他ノ草木ト異リ容易ニ乾枯スヘキ物ニアラス自然ノ乾枯ヲ待テハ實ニ長日月ヲ要シ隨テ多數ノ注文ニ應スルノ至難ナルヨリ可成輕便ニシテ早ク乾燥セシメント欲シ青葉ヲ蒸シ又ハ蒸或ハ養リテ乾燥セシメ其一方又屋舎ニ釣リテ蔭干ニナシ以テ明治十七年ヨリ同二十五年ニ至ル迄種々工風ヲ凝シタルニ蒸シ葉蒸葉ハ外部ノミ乾キテ内部ノ水氣去リ切ラサルカ故荷造リシテ運送スルトキハ運送中自然ト濕氣ヲ來シ麴ヲ生シ商館ニ納ムルコトノ出來サル様ニナリ全部神戸ニテ燒キ捨テタルコトアリ養リ葉ハ多數ノ燒傷ヲ生スルノミナラス光澤ノ一定セサルヨリ商館ノ意ニ適セス途ニ神戸沖ニ投棄シタルニ南風ノ爲メ海岸ニ漂著シ水上警察ヨリ呼ヒ出サレ再ヒ人夫ヲ雇フテ拾集シ燒キタルコトモアリ折角無疵ノ青葉ヲ撰拔シテ買入レ三十日内外ノ日子ヲ要シ種々ノ工風ヲ用ヒテ乾燥セシメ仕揚ケタル上荷造リシテ運送スルヤ前陳ノ如キ故障ヲ生シ商館ニテハ引取ラス不得止燒キ捨ツルノ悲境ニ陥リタルコト幾度斯クスルコト幾年遂ニ資本ノ缺乏ヲ來シ如何トモ爲ス能ハサルニ至リス明治二十五年ニ至リ蔭干ハ長時日ヲ費シ且ツ廣大ナル家屋ヲ要スレトモ光色共ニ

一様ニ美ニシテ變セス他ノ製品ヨリ優レルコト數等ナルノミナラス仕揚クル迄ニ傷ヲ生
 スルコトノ少キ爲メ大ニ利益ナルヲ悟リ斷然他ノ製法ヲ廢シ蔭干ノミニ掛リ他人ノ屋舎
 ヲ借りテ釣リタルニ大島ハ何レノ屋舎モ茅芒ヲ以テ葺キアル故俗ニカヤ蟲ト云フ害蟲生
 シ折角苦心シテ買入レタル葉ハ悉皆害蟲ノ爲メ一毛ノ價ナキニ至リ今迄ノ艱難辛苦ハ悉
 ク水泡ニ歸シ又如何トモスル能ハス泣カントスルモ泣ク能ハス遂ニ葉ノ製法ハ斷念セン
 トスル場合ニ立至レリ然ルニ幸ヒナルカナ注文ハ年々増加シ來リ初年ハ五千六千ノモノ
 ナリシニ今ハ十萬内外ノ注文アルニ至レリ是ヲ唯一ノ燈明臺トシテ既往ノ不注意ヲ悔イ
 再ヒ研究ニ掛レリ明治二十六年甫メテ三十萬ノ注文ヲ受ク葉ハ蔭干ニスレハ光澤美ナル
 モ其括リ方ハ屏風形狀ノ儘三枚或ハ五枚ツ、重子ヲ括リ一束トナシタルモ葉自然ノ屈曲
 ハ直スコト出來ス隨テ長短揃ハサル故不體裁ナルノミナラス荷造リニ餘程困難シタリ然
 ルニ此年竹ノ屈曲ヲ伸スニ炭火ニ掛ケテ矯ムルヲ見是ヲ葉ニ應用シタルニ意外ニ好果ヲ
 得タリ今迄ノ葉ハ屈曲ヲ伸スコトノ出來サリシ爲メ束ヲ造ルニ不便ナリシモ炭火ニ掛ケ
 テ矯ムルトキハ自由ニナスコトヲ得ル爲メ束ハ造リ易ク隨テ長短一定シ荷造ニ大ナル便
 利ヲ得ルノミナラス本品ニ品格ヲ興ヘ面目ヲ改メタリカヤ蟲ハ新ニ葺キタル屋舎ニ生ス
 ル蟲ニテ硫黃ヲ薰スレハ塵殺スヘキコトヲ知ル明治二十七年漸ク現今行ヒツ、アル製法
 ヲ案出シ出荷シタルニ大ニ仕向先ノ喝采ヲ得タリ以來年々注文ノ數ヲ増シ斯業ノ今日ア
 ルニ至レリ現今行ヒツ、アル製法ハ青葉ヲ五十日以上空氣ノ流通好キ倉庫ニ釣リ乾燥セ

シメ炭火ニ掛ケテ屈曲ヲ伸シ其モノ自然ニ元ノ如ク屈曲セサル様五枚ツ、抱キ合セテ括
 リ一束トナス明治二十八年同業者處々ニ起ル

審査請求ノ主眼 普通製ハ蒸氣ニテ蒸シ漸ク傘ヲ製スルニ止リ本品ハ日蔭ニテ乾燥シタ
 ル上火力ニ依リ屈曲ヲ伸シ「ブラシ」ヲ掛ケテ軟毛ヲ落シ長短ヲ揃ヘテ壓シ初メテ貿易品ニ
 適スルコトニナリタルヲ以テ此點ニ付キ御審査アランコトヲ希望ス

其二木賊及棕葉 本品ニ關シテハ概評ノ部ニ於テ陳述シタル如クナルニ依リテ其説明ヲ省
 畧シ其價格ニ入りシ者ヲ擧クレハ京都府船井郡西本梅村奥村槌之助木賊平均一箇年ノ産額
 千二百括金參百八拾六圓同郡東本梅村日下部嘉市木賊平均六十箇金貳拾八圓及同村日下部
 磯治郎木賊平均三百二十箇金百四拾圓棕葉百箇金八拾圓ノ三名ニシテ何レモ襖狀ヲ受領シ
 タル者ナリ

其三刈葦 本品ハ静岡長野兩縣ヨリ各一名出品セシニ止マレリ然レトモ兩出品共其品質優
 等ニシテ頗ル見ルヘキモノナリ爲メニ兩人共襖狀ヲ受領セリ即チ一名ハ静岡縣駿東郡原里
 村菅沼久三郎ニシテ一箇年産額五百貫目金壹千圓ナリ他ノ一名ハ長野縣北佐久郡布施村小
 松園藏ニシテ其解説書ハ參考ノ爲メ左ニ之ヲ抄録ス

長野縣北佐久郡布施村小松園藏出品刈葦根解説書抄録

產地 長野縣信濃國北佐久郡布施村

土質 有機質ニ富メル輕鬆土ニシテ赤褐色ヲ帶ヘル土質ナリ

生産地ノ狀況及成育 廣漠ナル原野ノ雜草中ニ交生シテ所々ニ株ヲナシテ天然ニ自生繁殖シ莖葉三四尺ニ達シ九月中旬ニ開花ス山麓少シク傾斜セル地ニ好シテ生育ス掘取リノ期節 九月下旬ヨリ翌年四月迄掘取リ得レトモ十月中旬ニ於テ掘取リタルモノ最モ可ナリ

掘取リノ器具及取扱 根ノ周圍三尺ヲ鶴嘴ニテ掘廻シ静ニ抜キ取リタルモノ最モ可ナリ製法 掘取リタル根ヲ二日間日光ニテ乾シ手ニテ揉ミ水ニテ洗ヒ干燥セシメ又手ニテ揉ミ乾シテ製ス

本事業ノ經年限及産額 明治二十五年ヨリ今日ニ至ル十一箇年間經年々平均精製品五十貫ヲ出シ價格百貳拾圓ヲ收ム

輸出地及效用 專ラ東京地方ニ輸出シ效用諸物品及畜類ノ拂拭用トナス

審査請求ノ主眼 長ク且ツコソクシテ色白キ點ハ當地地方ニ産出スルモノ、特點ナリ此部ニ就キ審査ヲ希望ス

其四、晒、木皮 本品ハ概評ノ部ニ述ヘタルカ如ク唯鳥取縣ヨリ一點出品アリタルノミ即チ同縣八頭郡用瀬村小松卯七ノ出品ナリ目下其産額僅少ニシテ未タ世人ノ注意ヲ呼フニ足ラスト雖トモ元來該品ハ織物、帶地又ハ雜人形ノ衣服等ニ供シ其用途廣キモノナリ將來其増殖ヲ望マサルヲ得サルナリ今參考ノ爲メ其解説書ヲ左ニ抄録ス

鳥取縣八頭郡用瀬村小松卯七出品晒木皮一名イサキ解説書抄録

産地土質及反別 八頭郡用瀬村大字用瀬宿土質花崗質肥土反別七反歩

種植及採取 播種ハ二尺二寸ニ幹ヲ切り苗トシテ干燥宜シキ畑又ハ畦畔ニ挿シ種々培養シ三年目ノ十一月ニ切り取り釜ニ周圍七尺高サ八尺位ノ桶ヲ載セ能ク蒸シ皮ヲ剝キ木ハ骨柳ニ製造シ則チ空木骨柳ト稱ス其皮ヲ春彼岸ニ水田又ハ池水ニ浸シ三箇月ヲ經テ後清水ニテ淨洗シ充分干燥スルモノナリ

效用 染メテ織物帶地又ハ雜人形ノ衣服等其他效用多シ

産出額 年内約十駄以上ヲ産出ス

販路及價格 京阪地方ノ商人又ハ地方織物師ニ販賣シ一貫匁ニ付價格ハ優等壹圓貳拾錢年間總價額凡四百參拾圓

審査請求ノ主眼 廢物ヲ利用シテ有用ノ原料ニ供スルヲ主眼トス

其五、藤 本品ハ臺灣ヨリ最モ多ク出品セラレ其他大阪ヨリ僅カニ三點ノ出品アリシノミ其褒狀ヲ受領セシ者ハ臺灣ニ於ケル宜蘭、管内張新、同李長芳、恒春、應管内陳尤儀、臺南、應管内張阿賽ノ四名ナリ元來臺灣産ノ藤ハ概評ニ記載セルカ如ク其質粗惡ニシテ到底美麗ナル工藝品ヲ作製スルニ適セスト雖トモ日常ノ用具ヲ製スルニ足ルヲ以テ敢テ之ヲ棄ツヘキニアラス其今日ニ於ケル産額及價格等ハ不明ナリト雖トモ其多額ノ産出ヲ爲シ得ヘキハ明ナル事實ナレハ將來同地方好個ノ物産タルニ至ルヘシ

入リシモノハ前記ノ外ニアラサルニ依リ其細評ハ之ヲ省畧スルコト、爲セリ
 官廳出品 單仁原料ノ出品ハ山林局ヨリ二十五種樹木ニ就テ各其材鑑粗製品及精製品ヲ併
 セ示シタルモノニシテ本邦林木中單仁ヲ含有スルモノヲ此ノ如ク多數ニ類聚シ以テ其適ス
 ヘキ樹種及品質ノ一斑ヲ示シタルハ頗ル注目スヘキ有用ナル出品ナリトス然レトモ其採取
 量ノ比較原料及製造費用并ニ之ヲ工業上ニ應用セル比較等幾多ノ調査ヲ盡サ、ル所アルハ
 甚ク遺憾ナリ又同局出品ノ製繩及其原料ハ十一種類ノ多キニ及ヒ其品質ノ優劣ヲシテ容易
 ニ批判スルヲ得セシメタルハ頗ル多トスルニ足ルヘシ然レトモ之レ亦經濟上ノ得失比較ヲ
 示サ、リシハ遺憾少シトセス今左ニ同局ノ「タンニン」製造及製繩ノ原料ニ對スル説明書ヲ披
 萃スヘシ

山林局出品タンニン製造原料説明書

佛人「ラック」氏ノ法ニヨリ色素ヲ除キシ浸出液ヲ「エキ」トナセシモノトス

| 品名 | 産地 | 效用 |
|------|------------|-----------------------------------|
| あかぎし | 安房國安房郡清澄山 | 常緑潤葉樹ニシテ暖帶地方ニ生ス其皮ハ鞣皮劑ニ用フヘシ |
| ぶな | 甲斐國北都留郡小菅村 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス其皮ハ時ニ槲皮ノ代用品トセラル、コトアリ |
| ふし | 武藏國秩父郡三ツ峯 | ぬるでノ葉柄ニ生スル蟲癭ニシテ「タンニン」製造ノ原料トシテ用ヒラル |
| はんのき | 飛騨國吉城郡坂上村 | 落葉潤葉樹ニシテ温帶ニ生ス鞣皮料トシテ用フヘシ |

| | | |
|-------|------------|--|
| しらかんば | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニシテ温帶ニ生ス此種ノ樹皮ハ露西亞皮ノ鞣皮劑トシテ名高シ |
| こなら | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス其樹皮ハ鞣皮劑トナスヘシ |
| かしは | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス其樹皮ハ鞣皮劑トシテ使用セラル |
| おにぐるみ | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス此樹皮ニテ鞣メストキハ皮ヲ軟カニス |
| くり | 安房國安房郡清澄山 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス此種ノ材ハ佛蘭西ニテハ鞣皮劑ニ用フ樹皮亦可ナリ |
| くぬぎ | 武藏國荏原郡駒場 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス「タンニン」ヲ多ク含ム鞣皮劑トナスヘシ |
| まてばしひ | 安房國安房郡清澄山 | 常緑潤葉樹ニテ暖帶ニ生ス其樹皮ハ鞣皮劑トナスヘシ |
| ぬるで | 安房國安房郡清澄山 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス其樹皮ハ鞣皮劑トシラ歐洲ニ用ヒラル |
| にれ | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帶ニ生ス有名ナル諾威ノ手袋皮ハ此種類ノ樹皮ニテ鞣メストモトス |
| のぶのき | 武藏國荏原郡駒場 | 落葉潤葉樹ニシテ温帶ニ生ス其樹皮ハ染網用トスヘシ |
| しらかし | 安房國安房郡清澄山 | 常緑潤葉樹ニシテ暖帶ニ多シ「タンニン」ヲ含ムコト多シ其樹皮ハ鞣皮劑ニ用フヘシ |
| たうひ | 陸奥國八甲田山 | 常緑針葉樹ニテ寒帶ニ生ス獨逸ニテ木纖維製造會社ノ餘セシ樹皮ヲ鞣皮劑ニ用フ |
| かはやなぎ | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニシテ温帶ニ生ス其樹皮ハ有名ナル瑞典皮ヲ鞣スニ用フ |
| やしやぶし | | 落葉潤葉樹ニテ暖帶ニ生ス其樹皮ハ染網用單寧劑トモナスヘシ |

| | | |
|-------|------------|--|
| やまも、 | 安房國安房郡清澄山 | 常緑潤葉樹ニシテ暖帯ニ生ス其樹皮ハ染網用單寧劑トモナスヘシ |
| つが | 安房國安房郡清澄山 | 常緑針葉樹ニシテ温帯ニ生ス其樹皮ハ鞣皮劑ニ用ヒラル |
| おほなら | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帯ニ生ス其樹皮ハ「タンニン」ヲ多ク含ムヲ以テ鞣皮劑ニ用フヘシ |
| かば | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ温帯ニ生ス其樹皮ハ露西亞皮ヲ鞣スヲ以テ名アリ |
| さいから | 安房國安房郡清澄山 | 落葉潤葉樹ニシテ暖帯ニ生ス樹皮ニテ鞣メセシ皮ハ色澤共ニ可ナリ |
| はこやなぎ | 石狩國札幌郡圓山官林 | 落葉潤葉樹ニテ寒温帯ニ生ス伊太利亞皮ハ此種類ノ樹皮ニテ鞣メスモノトス |
| しし | 安房國安房郡清澄山 | 常緑潤葉樹ニテ暖帯ニ生ス多量ノ「タンニン」ヲ含ム鞣皮劑及染網劑ニ用フ |

山林局出品製繩原料説明書

| 品名 | 産地 | 効用 |
|------|------------|---|
| あをざり | 武蔵國荏原郡駒場 | 暖温帯ニ栽培スル落葉潤葉樹ニシテ其樹皮ヨリ繩ヲ製シ麻繩ニ代用ス |
| びろろ | | 熱帯ニ生スル常緑植物ニシテ其苞ヨリ繩ヲ製ス |
| ふぢ | 安房國安房郡清澄山 | 暖温帯ニ生スル纏繞植物ニシテ其亞皮ヲ剝キ箕ヲ編シ絲繩ヲ製シ或ハ布ヲ織ルモノトス |
| がんび | 伊豆國 | 暖帯ニ生スル灌木ニシテ其亞皮ハ絲繩トナスヘシ |
| へら | 石狩國札幌郡圓山官林 | 温帯ニ生スル落葉潤葉樹ニシテ其亞皮ヨリ繩ヲ製ス |

| | | |
|--------|------------|---------------------------------------|
| ひのき | 紀伊國伊都郡高野山 | 暖温帯ニ生スル常緑針葉樹ニシテ其亞皮ヨリ繩ヲ製ス「まきはだ」ニ代用ス |
| こうやまき | 紀伊國伊都郡高野山 | 温帯ニ生スル常緑針葉樹ニシテ其亞皮ヨリ繩ヲ製ス「まきはだ」トナス |
| しなのき | 石狩國札幌郡圓山官林 | 温帯ニ生スル落葉潤葉樹ニシテ其嫩木皮ヨリ繩ヲ製シ又絲ヲ紡キ布ヲ織ルモノトス |
| あすなろ | 陸奥國八甲田山 | 温帯ニ生スル針葉樹ニシテ其亞皮ヨリ繩ヲ製ス「まきはだ」ニ用フ |
| ひのき(材) | 紀伊國伊都郡高野山 | 温帯ニ生スル針葉樹ニシテ其材ヲ薄片トナシ編物ニ供ス |
| やまぶたう | 飛騨國吉城郡坂上村 | 温帯ニ生スル纏繞植物ニシテ其亞皮ヨリ繩ヲ製シ梭欄繩及麻繩ニ代用ス |

ヲナスモノモ多シ此かしわ林ハ野火ノ害ニ罹リ易シ實生ノ稚樹少ナカラス又萌芽力モ壯齡以下ノ木ニハ強シ

産額 管内國有林ニ於ケルかしわノ蓄積ハ約五十尺萬ベニシテ年伐量約二萬尺位ヲ供給シ得ラルヘシ

需要 極メテ多ク東京其他ヨリ直接買入ニ來ルモノ多シ

價格 立木一尺ノ山元相場約貳拾參錢

備考 若シ運搬不便ノ地ニシテ老大ナル根株又ハ屈曲セル樹木ノミ多ク皮トナシテ出シ難キ所ニテハ所在ニ於テ農閑ノ期ニ網ノ染料ニ供スルタンニンエキスヲ造ル地方ニテ之ヲ玉澁ト稱ス近縣ノ海濱地方及北海道へ輸出ス又洗釜ニ箇ヲ用意シ鉈ニテ細斷シタルガ

第二部 皮、葉、染料、塗料、其他工業用原料

四六二

しわノ皮ヲ一ノ釜ニ入レ適宜水ヲ入レ約十二時間煮煎シタル上其汁ヲ他ノ釜ニ移シ再ヒ煮詰メ後之ヲ樽ニ移シテ冷却スレハ凝結スルニ至ル之ヲ生澁ト稱ス尙ホ之ヲ暖室ニ入レ乾燥セシメテ全ク固形状トナス

左ニ樹齡剝皮ノ取扱法製法ニヨリ疎製澁澁タル本品ノ量ヲ試験セシ結果ヲ擧ケテ參考ニ資ス

| 本品番號 | 原料樹齡 | 期 | 節 | 製法 | 原料事項 | 製造ニ供シタル生皮量 | 同上乾燥重量 | | 備考 |
|------|---------|---|---|--------|----------------|------------|-----------|-----------|----|
| | | | | | | | 生皮ニ對スル割合% | 生澁ニ對スル割合% | |
| 一幼 | 八一—二夏 | | | 膏釜ニテ製ス | 剝皮後直ニ製ス | 一〇、〇〇〇 | 六、二二五 | 〇、三九〇 | 七四 |
| 二中 | 一七一—二七同 | | | 同 | 同 | 一〇、〇〇〇 | 七、一三六 | 〇、二九五 | 五五 |
| 三中 | 三〇同 | | | 同 | 風雨ニ當リ三箇月貯ヘタルモノ | 一〇、〇〇〇 | 七、三〇〇 | 〇、二九二 | 四八 |
| 四不 | 詳同 | | | 同 | 二箇月風雨ニ暴露シタルモノ | 一〇、〇〇〇 | 七、三〇〇 | 〇、一八〇 | 二八 |
| 五老 | 一五〇同 | | | 同 | 剝皮後直ニ製ス | 一〇、〇〇〇 | 七、九七五 | 〇、一七二 | 三四 |
| 六不 | 詳同 | | | 鐵 | 同 | 一〇、〇〇〇 | 七、五一一 | 〇、一五〇 | 三〇 |
| 七幼 | 一五冬 | | | 製膏 | 釜同 | 一〇、〇〇〇 | 六、三七三 | 〇、四八〇 | 九三 |
| 八老 | 九五同 | | | 同 | 釜同 | 一〇、〇〇〇 | 八、二〇二 | 〇、一九八 | 三八 |

右ノ表及其以外ノ試験ニヨリ冬ハ夏期ヨリ生澁ノ量五割以上多ク十年生ノ樹皮ハ三十年或ハ四十年生ノ皮ヨリ二割以上多キコトヲ知レリ
 其他青森大林區署ヨリあすなら樹皮あけび細工ノ椅子及行李、福島大林區署ヨリ綿皮ノ製品即チ織物、繩及荷袋、岡山大林區署ヨリ杉皮、高知大林區署ヨリ松繩及炭繩、鹿兒島大林區署ヨリ椎皮、楊梅皮及榲皮等出品アリ何レモ斯業者ノ參照ト爲スニ足ル

審査官 守屋物四郎 報告

染料、塗料、其他工業用原料

本項ニ屬スルモノハ其範圍極メテ汎ク其種類亦甚ク複雑ヲ免レサル所ニシテ從來既ニ特産トシテ工業用原料ニ盛ニ供用セラル、モノアリ又近來ニ至リ始メテ有要ナル原料トシテ利用セラル、モノアリト雖トモ由來本邦ノ如ク極メテ豊富ナル森林ヲ有シ其産物ノ種類ニ於テ極メテ多キモノニ比シテハ尙ホ未タ是等ノ應用周子カラスシテ極メテ幼稚ナル境域ニアルカ如キハ最モ遺憾トスル所ナリ要スルニ這般ニ關スル發達若クハ發見ハ專ラ日進ノ學術ノ應用又ハ技術ノ進歩ニ待タサルヘカラサル所ナルカ故一面各種ノ工業益々隆盛ノ度ヲ加フルニ從ヒ又一面ニハ森林利用ノ開發愈々其急ヲ告クルニ伴フニ從ヒ勢ヒ是等原料ノ產出及ヒ需要ハ將來益々増加スルニ至ルヘキヤ敢テ疑フヘキニアラサルナリ苟モ斯業ニ志アルモノ這般ノ大勢趨嚮ニ著目シ決シテ區々タル一小産物トシテ輕視スヘキニアラス今回ノ出品ハ其種類甚ク多カラスト雖トモ其效用ニ於テ用途ニ於テ又其産額等ニ於テ重視スヘキモノ太タ少カラス左ニ其著シキモノヨリ逐次評説スル所アラントス

生漆ハ本類中最モ重用ナル産物ノ一ニシテ前回ニ於テハ製漆ト等シク第一部工業第一類化學製品及藥劑中ニ屬シタリシカ今回始メテ之ヲ別チテ木部林産塗料ノ中ヘ加ヘラレタリ然レトモ之レヲ審査スルニ當テハ尙ホ製漆及ヒ漆器等ト關聯スル所甚ク少カラサルヲ以テ第五部(化學工業)ト共同審査ヲ執行セリ

如シ

外國産漆液輸入額

| 年 | 輸入額 |
|--------|---------|
| 明治二十八年 | 五六三、八二〇 |
| 同二十九年 | 五二六、七九六 |
| 同三十年 | 六五〇、〇九九 |
| 同三十一年 | 五四四、二七七 |
| 同三十二年 | 五八三、八二七 |
| 同三十三年 | 五九四、五三三 |
| 同三十四年 | 六二二、九一九 |
| 合計 | 一四五、七二二 |

試ニ本邦産漆器ニ於ケル海外輸出額ヲ抄出スレハ左ノ如シ

自明治二十八年漆器海外輸出額調査一覽表

| 年 | 輸出港別 | 横濱 | 神戸 | 大坂 | 長崎 | 函館 | 其他諸港 | 合計 |
|-------|------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 明治廿八年 | | 八七、九五〇 | 三〇、八七〇 | 一、四三二 | 二、〇五八 | 三、八六〇 | 一、五六一 | 一〇、八三三 |
| 同二十九年 | | 七六、〇〇〇 | 一八、五八〇 | 一、三八〇 | 七〇九 | 三、〇〇〇 | 八七、六七〇 | 九、八三九 |
| 同三十年 | | 五七、九七〇 | 二六、六六〇 | 三、三三〇 | 六〇四 | 一、四七〇 | 一〇、四七〇 | 七、七四〇 |
| 同三十一年 | | 六三、五四五 | 一四、四九七 | 五、三九七 | 五、〇六五 | 二、二八八 | 二、三二八 | 七、六三二 |
| 同三十二年 | | 七五、九六〇 | 一七、〇六二 | 六、四七五 | 九、五七三 | 一〇、四九三 | 一〇、四九三 | 九、八六二 |
| 同三十三年 | | 八三、七六二 | 一五、八六一 | 一、三五四 | 五、四二一 | 五、〇〇〇 | 一七、四六二 | 一〇、六三九 |
| 合計 | | 七〇七、五二〇 | 一、一四五〇 | 一六、五五七 | 八、七四九 | 四、七六〇 | 六、九六八 | 九、四三三 |

| 年 | 輸出港別 | 横濱 | 神戸 | 大坂 | 長崎 | 函館 | 其他諸港 | 合計 |
|-------|------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 同三十四年 | | 七〇七、五二〇 | 一、一四五〇 | 一六、五五七 | 八、七四九 | 四、七六〇 | 六、九六八 | 九、四三三 |
| 合計 | | 五、〇八九〇 | 一、三三三 | 五、八二六 | 三、七三九 | 三、三三〇 | 四、〇三三 | 六、三三九 |

以上ノ諸表ニ據テ之ヲ觀ルニ最近七箇年間ノ漆器輸出金額ハ實ニ六百六拾貳萬千六百參拾九圓餘ニシテ其額決シテ尠少ナラサルナリ然リト雖トモ漆液ニ於テ同七箇年輸入金額百五十六萬參千五百六拾九圓餘ナルカ故漆器輸出ニ於テ頗ル有望ナル好果ヲ收メツ、アルニモ拘ハラス其二割三分七厘ハ恰モ其原料タル漆液輸入ノ爲メニ支拂フカ如キノ状態ナリ加之前掲出ノ表ニ依レハ本邦産漆液總量ナルモノハ我漆工ノ使用スル漆液全體ニ於ケル僅ニ三割弱ニシテ其七割強ハ輸入ニ係ル外國産漆液ヲ以テ之ニ充ツルモノナリ故ニ若シ外國産漆液輸入ノ中止スル場合アリト假定スルトキハ我漆工ハ一箇年中僅ニ四箇月許ヲ營業シ得ル原料ヲ有スルニ過キスシテ九箇月間ハ其業務ヲ中止スルノ已ムヲ得サルカ如キ割合トナルナリ然ラハ著大ナル輸入漆液ヲ仰ク所以ノモノハ其然ラサルヘカラサル事由ノ彼レ輸入品ニ附著セルヤト云フニ彼レハ價格ニ於テハ或ハ割合ニ低廉ナルノ點ナキニシモアラスト雖トモ若シ我ニ於テ生産上ニ對スル應策ヲ講セシニハ必スシモ一籌ヲ輸スヘキノ理アラサルナリ況ンヤ其品質ニ於テ彼レハ甚タ好良ナラサルモノ多ク本邦産ノ古來優良ナル特長アルモノニ比スヘキニアラサルニ於テオヤ是レ洵ニ生漆業及漆器業ニ於ケル一大問題ニシテ當業者タルモノ須ラク先ツ漆樹造殖ノ途ヲ講シ以テ輸出品トシテ好望ナル漆器ノ産出ニ對シ多々益々其原料ノ供給ヲ大ニシ一方ニハ又漆液採收法及ヒ採收用器具等ヲ改善シテ以テ可

及的多量ニ且ツ低廉ニ良質ナル漆液ヲ産出スルヲ努メサルヘカラス殊ニ最モ留意スヘキハ漆業モ亦其當業者間ノ組織ニ於テ複雑ナルモノアルヲ免レス漆樹栽培者ハ必スシモ漆液採取業者ナルニアラス生漆産出業者ハ亦必スシモ其栽培ヲ自カラスルニアラサルカ故其間ノ關係ニ於テ慣習上ノ弊因アリ之カ爲メ斯業全體ノ發達ヲ妨クルカ如キコト有ラハ是レ寔ニ等閑ニ附スヘカラサルコトニ屬ス速ニ之レカ一大刷新ヲ圖ラサルヘカラス
 今回ノ出品ハ三府十六縣ニ涉リ其出品點數二百二點出品人員百五十二人ニシテ之レヲ前回ニ比スレハ約二倍ノ多キニ達シ成績ノ見ルヘキモノ品質ノ好良ナルモノ亦少カラス全體ニ於テ敢テ進歩ノ績ナキニアラサルハ聊カ人意ヲ強フスルニ足ルヘキヲ認ム左ニ府縣別出品點數并ニ授賞數ヲ表シ其主ナルモノニ就キ更ニ細評スル所アルヘシ

生漆府縣別出品點數并授賞數一覽表

| 府縣別 | 出品點數 | 出品人員 | 授賞數 | | | | 計 | 備考 |
|-----|------|------|-----|----|-----|-----|---|----|
| | | | 金牌 | 銀牌 | 一等賞 | 二等賞 | | |
| 東京 | 二二 | 二 | | | | | | |
| 京都 | 六 | 二 | | | | | | |
| 大阪 | 一八 | 五 | | | | | | |
| 新加 | 一 | 一 | | | | | | |
| 埼玉 | 三 | 一 | | | | | | |
| 栃木 | 一 | 一 | | | | | | |
| 奈良 | 一 | 一 | | | | | | |
| 合計 | 二二 | 二 | 二 | 二 | 一 | 五 | | |

| 府縣別 | 出品點數 | 出品人員 | 金牌 | 銀牌 | 一等賞 | 二等賞 | 三等賞 | 褒狀 | 計 | 備考 |
|-----|------|------|----|----|-----|-----|-----|----|---|----|
| 愛知 | 一三 | 一 | | | | | | | | |
| 長野 | 一 | 一 | | | | | | | | |
| 宮城 | 三 | 三 | | | | | | | | |
| 福島 | 九 | 八 | | | | | | | | |
| 山形 | 二 | 七 | | | | | | | | |
| 秋田 | 二 | 二 | | | | | | | | |
| 福井 | 三 | 二 | | | | | | | | |
| 石川 | 四 | 二 | | | | | | | | |
| 鳥取 | 五 | 五 | | | | | | | | |
| 徳島 | 五 | 二 | | | | | | | | |
| 愛媛 | 二 | 一 | | | | | | | | |
| 熊本 | 一 | 一 | | | | | | | | |
| 合計 | 二〇 | 一五 | 二 | 三 | 八 | 三 | 九 | 二 | 五 | |

生漆ノ外本項ニ屬スル出品ノ種類ハ大約左ノ如シ今之カ府縣別出品點數ヲ表示シ尙ホ其梗概ニ就テ評説スル所アルヘシ

- 五倍子、罌子桐ノ實、松脂、紫根、ヤシヤブシノ實、椿實、クロモジノ實、山茶花ノ實、ヘンダノ實、アケビ、糊木、林投樹、帽子用月桃草、蓬草紙、薯榔、蘆花棉、香楠末、蓬草、香椒、椰子實、姜黃(林投樹以下ハ臺灣産)

ニ斯業ノ爲ニ遺憾ニ堪ヘサルトコロトス依テ宜シク支那ノ方法ニ倣ヒ人工育成ノ法ヲ普及シ蚜蟲ノ飼養ニ努メ之カ産額ノ增多ヲ圖ラサルヘカラス之ト同時ニ又前記採收時期ニ向テ大ニ注意ヲ加フヘキナリ蓋シ五倍子ハ「タンニン」酸ヲ含有スルノ多寡ニ依リ價格ヲ上下スルモノニシテ一朝其採收時期ヲ愆ルトキハ大ニ此含有量ヲ減退セシムレハナリ而シテ五倍子ニハ二種アリ一ヲ黒五倍子ト稱シ一ヲ白五倍子ト稱ス然レトモ決シテ其素質ヲ異ニスルニアラス唯其製法ノ如何ニ因リテ名稱ヲ異ニスルノミ即チ白五倍子ハ採收ノ後チ其儘天日ニテ乾燥セシモノヲ云ヒ黒五倍子トハ一度ヒ熱湯ヲ掛ケテ乾燥セシモノニテ俗ニ之ヲ湯掛ケト稱ス五倍子ノ用途ハ染料及ヒ藥用ニシテ獨逸、北米、合衆國、清國等ノ需要ハ年々其多キヲ致シ而カモ明治二十八年已後同三十四年ニ至ル海外へ輸出セルモノハ左表ニ示スカ如シ

五倍子輸出額

| 年 度 | 數 量 | 價 額 |
|--------|------------|---------|
| 明治二十八年 | 一、二四三、八九二斤 | 二二九、四九四 |
| 同 二十九 | 六七四、一五一 | 一五三、一六六 |
| 同 三十 | 三九九、〇五一 | 九八、二七八 |
| 同 三十一年 | 五四一、五五八 | 一一二、三三九 |
| 同 三十二年 | 八二九、八〇五 | 二〇一、五三五 |
| 同 三十三年 | 一、一五八、七九一 | 三〇六、三九七 |

同 三十四年

一五八、一五四

四一、八五四

已上ノ輸出表ニ據レハ明治二十八年ノ輸出額最モ多ク二十九年ヨリ漸次減退シテ三十年ニ至リ稍々恢復ノ徵ヲ示シ三十三年ニ於テハ實ニ五箇年間未タ曾テ見サル多額ニ上リ其數量百十五萬八千七百九十一斤價格參拾壹萬六千參百九拾七圓ニ高マレリ然ルニ同三十四年ニ至リ再ヒ一頓挫ヲ來シ僅々十五萬八千五百五十四斤ノ輸出高ヲ見ルニ過キス畢竟スルニ本邦産ノ五倍子ハ單ニ山野ニ自生セル天然産ノ一途ニノミ依リ曾テ之レカ增收ノ途ヲ講セサルニヨリ産出上ノ均衡ヲ失ヒ易キハ此輸出額劇變ノ一因タラスンハアラサルナリ當業者タルモノ宜シク此點ニ留意ヲ要スヘシ

桐實ハ今回福井縣ヨリ二十三點出品セルノミニシテ其他ニ於テハ一點ノ出品ヲ見ス而モ此出品中成熟及ヒ乾燥ノ度ニ於テ宜シキヲ得タルモノ太タ少カリシハ遺憾トスル所ナリ松脂ハ其採收法ノ如何ニ因リテ大ニ品質ノ優劣ヲ來スモノナリ而シテ之カ採收法ノ最モ進歩セルハ佛蘭西ニシテ其方法ニ依ルトキハ「テレピン」油ヲ多量ニ含有スルモノヲ低廉ニ採收シ得ヘシ故ニ「テレピン」油ニ富メル白色粘脂ヲ採收スルニ於テハ該油ノ製出ヲナスト同時ニ上等ノ「コロホニー」ヲ副生シ得ルノ大利アルモノナリ蓋シ「コロホニー」ハ製紙并ニ印刷インキノ製造用并ニ石鹼製造用等ニ夥シク消費セラル、モノニシテ已ニ本邦ニ於ケル年々ノ輸入額亦甚々尠シトセサル所ナリ若シ夫レ松脂採收法ニ於テ從來本邦ニ慣用シ來リタルカ如キ弊風ヲ打破シ根本的ニ一改良ヲ施スニ至ラハ獨リ本品ノ産額ヲシテ増大ナラシムルノ益ア

ルノミナラス随テ「アレン」油「コロホニ」等ノ輸入ヲ防止スルノ國益亦甚ク大ナルモノアルヘキヲ信ス然ルニ未タ佛國採收法ノ如キヲ採用スルモノ極メテ稀ナルハ頗フル遺憾ニシテ大ニ斯業者ノ茲ニ留意奮勵センコトヲ切望ニ耐ヘサレハナリ

紫根ノ出品ハ概シテ普通品質ノモノニシテ特ニ品階スヘキノ點ナシ

宮崎縣出品ニ係ル糊木ハ頗フル糊質ニ富メルモノニシテ製紙用ニ好ク適スルヲ見ル惜ムラクハ僅ニ二點ノ出品ニ過キス

臺灣ノ出品中薯榔、蓮草、林投樹及ヒ月桃葉帽子原料等ハ特ニ注意スヘキ要品タルヲ認メタリ抑臺灣ハ我カ領土ニ歸シテヨリ茲ニ殆ント十年其間當局者ハ努メテ殖産工業等ノ獎勵ニ意ヲ盡シ今ヤ未開ノ蕃土ニ於テスラ漸次好産物ノ開發ヲ見ルニ至レリ而シテ前記薯榔已下ノ數種ノ如キハ或ハ從來採取産出セシ所ノモノアリ或ハ近來創メテ利用ノ途ヲ開キタルモノアリト雖トモ要スルニ地方ノ特有物産トシテ或ハ對岸支那地方ヘ輸出シ或ハ内地ノ賞用ヲ博シ其將來ニ於テ益々有望ナルヘキハ信シテ疑フヘキニアラサルナリ

薯榔ハ紅露ノ一種ニシテ染料トシテ最モ其有要ナルヲ認メタリ而シテ之レカ輸出産額ニ付テハ明確ナル統計ヲ知ルニ由ナシト雖トモ年々大約六七千圓乃至壹萬圓内外ニ止ルヘシト云フ其向ヶ先キハ専ラ支那地方ナリトス

蓮草モ亦蕃地産ニシテ蕃人ノ手ニ依リ採收セラル、モノニ係リ年々ノ産額ハ是レ亦明確ナルモノヲ得難シト雖トモ臺灣稅關ノ最近六箇年間ノ統計ニ據レハ左ノ如シ

蓮草輸出表

| 年 度 | 數 量 | 價 額 |
|----------|---------|--------|
| 明治二十九年 度 | 一三、七〇六斤 | 二、七八〇円 |
| 同 三十 年度 | 一六、四一八 | 三、三三六 |
| 同 三十一 年度 | 二〇、九三五 | 五、一八四 |
| 同 三十二 年度 | 二一、四一四 | 四、六〇〇 |
| 同 三十三 年度 | 二三、五二三 | 一、四九九 |
| 同 三十四 年度 | 二七、一六八 | 六、八八六 |

蓮草紙輸出表

| 年 度 | 數 量 | 價 額 |
|----------|---------|--------|
| 明治二十九年 度 | 一六、四九四斤 | 一、九〇八円 |
| 同 三十 年度 | 一四、八四六 | 一、二八九四 |
| 同 三十一 年度 | 一五、七三二 | 一、二九五 |
| 同 三十二 年度 | 二一、三八八 | 一、三三八八 |
| 同 三十三 年度 | 一九、四九三 | 一、三五〇九 |
| 同 三十四 年度 | 一一、〇七五 | 一、〇八五〇 |

而シテ之カ輸出先キノ重モナルハ支那及ヒ香港ニシテ二十九年已來多少ノ消長アリト雖ト

簡年ノ製品産額及價格ヲ舉クレハ左ノ如シ

| 年 度 | 製品産額 | 價 格 |
|--------|---------|-----------|
| 明治三十三年 | 五千百十貫目 | 四萬貳千四百貳拾圓 |
| 同 三十四年 | 五千三百貫目 | 四萬貳千九百九拾圓 |
| 同 三十五年 | 五千二百十貫目 | 四萬千六百八拾圓 |

大阪府大阪市東區本町齋藤嘉兵衛出品漆解說書抄錄

沿革 開業ノ當時製造業者ハ近國産地ヨリ直買ヲナシ漆液ノ集散不調ニシテ需要供給共ニ不満足ナルヲ祖先ハ大ニ感シ全國各産地ノ採取者ニ資金ヲ貸與シ漆液ノ收集ヲ勉メ以テ需要者ニ利便ヲ與ヘ専ラ斯業ノ發達ヲ圖リタリ爾來間斷ナク營業シ幕府ノ時代ニハ漆御用ヲ勤メ多大ナル需要ヲ圓滿ニ供給シタリ世ノ變遷ニ連レ明治十年支那産漆ト稱ヘ輸入スルモノアリ之ヲ試ミルニ品質不良ニシテ我カ漆器塗料ニ適セス屢々排斥セシモ尙ホ密輸入スルモノアルヲ聞キ全國各産地ノ貨主ニ警告シ且ツ製造業者ニ協議シ一ノ研究會ナルモノヲ設置シ研究調査ノ結果純正ノ支那漆ニアラサルヲ認め不良漆液防禦策ヲ講シ一方ニハ支那産漆液調査ノ必要ヲ感シ爾來熱心ニ調査研究セリ越テ明治二十三年純正ノ支那漆ヲ輸入セリ其當時内國産漆ハ非常ノ缺乏ヲ告ケ價格騰貴シ隨テ品質粗製ヲ促シ製造業者ノ困難實ニ言フ可カラス茲ニ於テ價廉ニシテ品質佳良ナル支那産漆液ヲ輸入ス需要者ノ利便ニシテ世ヲ益スル實ニ僅少ナラス爾來年毎ニ輸入増加ノ傾アリ爲ニ支那原産

地踏査ノ必要ヲ生シ卒先明治二十五年三月渡航シ彼ノ産漆地ヲ跋涉シ地味漆樹栽培漆液採取ノ方法ヨリ漆工塗法ニ至ル周到綿密ナル視察ヲ遂ケ歸朝ノ後我同業者ニ實況ノ詳細ヲ報告シ大阪漆商組合ヨリ物品及ヒ感謝狀等ノ贈與ヲ受ク實ニ祖先ハ大阪漆問屋創設者ニシテ爾來二百三十有餘年間斷ナク營業シ斯業ノ進歩發達ニ勉メ公益ヲ圖リタリ近來我カ漆液缺乏ト價格ノ關係トニヨリ製漆ハ濫造ニ流レ隨テ漆器ハ粗製ニ赴キ爲メニ海外諸國ノ需要者ニ倍ヲ失フコト尠シトセス之レカ改良ヲ圖ラン爲メ同業者ニ圖リ明治三十年五月日本漆商同盟會ヲ組織シ爾來果シテ製漆ニ改良ヲ施シ今日ノ效果ヲ奏シタリ福井縣 同縣清水與三吉ノ出品ハ生漆一名返漆一號二號ノ二點ニシテ一號ハ茨城縣常陸國東茨城郡伊勢畑村ニ産セシモノナリ同地ハ土質下層砂礫ニシテ上層埴土或ハ砂壤土ノ乾燥地ナリト云ヘリ二號ハ栃木縣芳賀郡中川村ニ産シ其土質上層埴土ニシテ下層砂礫ノ乾燥地ナリト云フ而シテ本品ノ主用ハ漆器壁紙料并ニ製漆ノ原料ニ適シ其品質モ亦優良ニシテ太ク見ルヘキモノアリ即チ今回審査ノ結果二等賞格ニ入レリ今之レカ産額ヲ見ルニ第一號ニ於ケル最近三箇年ノ額左ノ如シ

| | |
|--------|---------|
| 明治三十三年 | 七百九十五貫目 |
| 同 三十四年 | 八百十一貫目 |
| 同 三十五年 | 九百五十貫目 |

第二號最近三箇年ノ額左ノ如シ

明治三十三年 一千二百貫目
 同 三十四年 一千二百貫目
 同 三十五年 一千二百五十貫目

左ニ同人提出解説書ノ一節ヲ抜萃シテ參照トナス

又同縣辻田重左衛門ノ出品生漆ハ產地常陸國那珂郡上小瀬ニシテ其土質赤土反別五十町歩ナリ本品モ亦前者ニ譲ラサルノ良品ニシテ今回二等賞ヲ受領セリ同人カ明治三十三年乃至三十五年ノ産額ヲ見ルニ實ニ左ノ如シ

明治三十三年 貳萬千八百圓
 同 三十四年 貳萬貳千五百圓
 同 三十五年 貳萬參千圓

同人ハ明治三十三年關西府縣聯合共進會ニ於テ五等賞ヲ受ケ同三十三年今立郡重要物産共進會ニ於テ二等賞ヲ受ケ同三十五年福井縣實業聯合組品評會ニ於テ三等賞ヲ受ケタルノ履歷アリ以テ同人カ斯業上盡瘁セシ跡ヲ見ルニ足ルヘキナリ

又同縣丸山久左衛門出品生漆ハ常陸國久慈郡大子岡産ニシテ地質ハ黑土ニ薄赤土ヲ加合シ尙ホ小砂利ヲ交ヘタルモノナリト云フ而シテ本品モ亦前者ト大同小異ニシテ品質佳良タルヲ失ハス産額ハ明治三十三年ニ一千二百貫目同三十四年ニ一千三百貫目同三十五年ニ一千八百八十貫目ニシテ同人ハ明治二十五年日本漆工會第一次漆工競技會ニ於テ生漆二等褒賞銀

牌ヲ受ケ同二十七年同上第二次競技會ニ於テセシメ漆二等褒賞銀牌ヲ受ケ同二十八年第四回内國勸業博覽會ニ於テ生漆有功三等褒賞銅牌ヲ受ケ同三十一年五月全國漆器漆生産府縣聯合共進會ニ於テ生漆二等褒賞銀牌ヲ受ケ同上共進會ニ於テ功勞四等賞木杯ヲ受ケ同年福井縣重要物産共進會ニ於テ生漆二等褒賞ヲ受ケ同三十三年第七回關西府縣聯合共進會ニ於テ生漆三等褒賞銀杯ヲ受ケタルノ閱歷アリ以テ其斯業上ニ貢獻シタル效績ヲ知ルニ足ルヘシ今回ノ出品ニ對シテモ亦二等賞ノ名譽ヲ負フニ至レリ而シテ同縣ニ於ケル生漆出品三十一年中上記三名ノ二等賞格ニ入りタル外三等賞二名褒狀十名ノ多數ヲ出セシハ實ニ同縣ノ名譽ニシテ三等賞格ニ入りシ二名ハ其品質ニ於テハ前記三名ニ比スルトキハ稍々遜色アリト雖トモ産額ニ於テハ一千二百貫目已上ニシテ他ハ一千八百餘貫目ヲ出セリ而シテ兩者トモ地方共進會第四次漆工競技會津五郡聯合會佛國巴里萬國大博覽會等ニ於テ木杯一等賞金牌二等賞銀牌及ヒ外國金牌等ヲ得タルノ名譽アルモノニシテ今回三等賞ノ賞格ニ入りタルハ又方サニ良品ニシテ且ツ其效績ノ少ナカラサルヲ證スルニ足ルヘキナリ又今回褒狀受領者中ニ於テ其多キハ一千二百貫目其少ナキハ二百貫目ノ産額ヲ出シ品質モ亦二三等ノ賞格ニ入りタルモノニ比シ稍々劣等タルヲ免カレスト雖トモ是レ唯々比較上ノ優劣ニテ之ヲ單獨ニシテ視ルトキハ巒然普通品等ニ優レルモノナリ希クハ更ニ培養上ニ一段ノ注意ヲ施シ併セテ搔キ取り採製等ニ熟練ヲ加ヘ前途益々其品位ヲ高メンコトヲ要スルナリ

福井縣今立郡服間村清水與三吉出品 至白一 生漆解説書抄錄

種植及ヒ採收 播種及ヒ根別ケ挿木等トス漆液搔取法ノ大體ハ搔枯法、養生搔ノ二トス搔枯法ハ細木ニテ一箇年ニシテ全木ノ漆液採盡終業後根際ヨリ伐採シ其伐採シタル株ヨリ發芽即チ葉ヲ培養生長セシメテ漆液採取ニ充ツ養生搔ハ漆質採取ヲ要トスル喬木ニ施ス最モ全國各産地トモ十中八九迄搔枯法ヲ採用ス其用具ハ圖示ヲ省ク其使用法即チ搔取方ノ大畧ヲ記セン先ツ植付後七八年ヲ經テ周圍凡ソ六七寸ヨリ一尺餘ニ至レハ初メテ漆液ノ搔取ヲ初ムルモノナリ漆液ヲ搔取ランニハ其初メニ當リ漆樹ニ向テ右側(又ハ左側)ノ一面ニ地上ヨリ凡ソ六七寸ヲ隔テ皮剝鎌ヲ以テ表皮ヲ削リ而シテ搔鎌ヲ以テ樹皮ヨリ樹質ニ達スル迄ニ稍々深ク一文字形ニ切斷シ漆汁分泌ノ切口ヲ作ル更ニ漆樹幹ノ左側(又ハ右側)即反對ノ一面ニ地上ヨリ凡ソ一尺二寸ヲ隔テ前同様ニ切斷シ而シテ兩側順次漆樹ノ上部ニ一尺二寸ヲ隔テ切口ヲ施シ而シテ分泌セル漆液ハ漸々此切口ニ集マルヲ金篋ヲ以テ漆壺ニ移入スルナリ斯クナスコト一日一人ニシテ二百本ヨリ二百五十本位ヲ搔取ルナリ而シテ一日搔取ノ本數ハ土地ノ平坦險惡漆樹ノ大小職工ノ巧拙ニヨリ差異アリト雖トモ四日間ニ一回ツ、搔取ルモノニシテ初メノ切り口ニ添ヘ并行シ二分ヲ隔テ樹ノ上部ニ漸々切口線ヲ延長切斷シ搔液ノ分泌ヲ促シ之ヲ搔取ル者ニシテ四日分本數凡ソ八百本ヨリ一千本内ヲ以テ一箇年一人搔ノ受持トナス其搔取季節標準ハ毎年六月三日ニ初メ十二月二日ニ搔了ル其就業中季節ヲ五段ニ分チ第一段十月五日ヨリ返搔第二段十月二十四日ヨリ浦搔第三段十一月十二日ヨリ留搔第四段十一月二十二日ヨリ枝打第五段十二月二日ヨリ枝搔季節ト

出品人ハ十數年間繼續採收業ニ從事シ専ラ斯業上ニ思料ヲ盡シタリ即チ其採收上ニ稍々改良法ヲ採用シ陽氣温暖ノ度合ニヨリ其季節ヲ伸縮シ用具ノ製造適否如何ヲ鍛冶職ニ告ケ就業中漆樹ノ枯衰ヲ養護シテ出液多量ニ且ツ純良ノ漆液ヲ得タリ以上ハ出品人ニ於テ目下ノ急務ト信シ内職工一般ニ之ヲ傳授シ以テ漆液採收家ニ満足ヲ與フル事ニ努メツ、アルモノナリ

培養及保護 肥料ノ種類施肥ハ掃留ノ芥、古草鞋、藁、乾草凡テ放棄物等ニシテ堆肥、牛、馬等ノ糞ナレハ至極適當ニシテ一番耕耘ノ際幹ノ邊リ凡ソ一尺五寸ヲ隔テ埋メ二番耕耘ニ掘出シテ散シ廣ムルヲ良シトス而シテ其栽培適當地ハ山林ヲ開墾シタル土地又ハ斜面ノ地、堤防、川岸、溜池ノ岸等ニシテ地土、礫土ノ如キ常ニ濕氣ノ絶エサル地ヲ忌ム出品人ハ本邦産漆液ノ産額著シク減少セルヲ慨シ漆樹繁殖ノ必要ヲ感シ曩時本邦産漆液保護ノ儀ヲ農商務省且ツ貴衆兩院ニ請願シ本省技手金子篤壽氏ニ謀リ常野兩國ノ産地ニ出張即チ栃木縣芳賀郡中川村長矢野澤衛氏、同縣同郡小貝村助役荒井由治氏、同縣那須郡會議員勝木辰吉氏、茨城縣東茨城郡伊勢畑村長蓮田竹彦氏、同縣那珂郡長倉村長大森彦十郎氏、同縣同郡小瀬村助役懸札純一氏其他漆樹栽培家ト協力シ漆樹栽培適當地ヲ撰ミ漆樹増殖ノ經營ヲナシタリ斯クナスコト十數年昨今栽培家ハ利益ヲ得同時ニ採收家ニ原料ノ富裕ヲ與ヘ此際漆液ノ多少缺乏ヲ補ヒ國家ノ福利ヲ増進スルコトヲ得タリ

褒賞 明治三十一年五月全國漆器漆生產府縣聯合共進會三等褒賞明治三十一年十一月第一回福井縣重要物産共進會三等褒賞明治三十二年五月日本漆工會第四次漆工競技會一等褒狀明治三十四年五月同上二等褒狀明治三十五年十月同上三等褒狀以上ハ採收適良品質克ク需要ニ適スル事山ニ依リ褒狀ヲ受領ス明治三十三年十一月第三回福井縣今立郡重要物産共進會明治三十五年九月福井縣實業組合聯合品評會明治三十五年十一月第四回今立郡重要物産共進會以上審査員タルニ付キ出品ノ審査ヲ謝絶シタリ明治三十三年三月漆液業ニ從事シ専ラ改良發達ニ精勵其功勞トシテ福井縣今立郡長ヨリ褒賞受領ス

審査請求主眼 出品人ハ祖先ヨリ累代繼續シテ本業ニ從事シ(祖父故上坂忠七郎明治三十一年五月全國漆器漆生產府縣聯合共進會追賞金五拾圓拜領)年々品質純良産額ヲ増加シ産出費ヲ減少シ又販路ヲ擴張ス且ツ漆樹ノ繁茂ヲ經營シ搔取法ヲ改良ス其品質ニ於ケル粘度ノ適切及ヒ透明度ノ佳良色彩光澤ノ良好乾燥ノ迅速含有物ノ多寡克ク製漆家ノ用途即チ色漆、研出蠟色漆、梨地漆、黒塗立漆、朱合漆、春慶漆等ニ適シ又漆器製作上ニ於ケル其下地用及ヒ蒔繪用等ニ適合セシメタル等特ニ審査ヲ要スル主眼トス

京都府^{△△} ニ於ケル出品二十二點中賞格ニ入りタルモノ二名褒狀ヲ受ケタルモノ五名而シテ同府西垣重次郎ノ生漆盛一點ハ岡山縣備中國川上郡湯野村ノ産ニシテ出品人カ普通漆液搔取法ニ依リテ集液シタルモノナリト云フ而シテ其效用ニ至リテハ黒目漆トシテ各工藝美術上ノ塗料ニ供スルモノニシテ販路ハ京都、大阪、廣島ヲ主トシ其他各地漆製造業者間ノ供給ニ

應シ來リ産額ハ明治三十三年ニ三百五十貫目同三十四年ニ四百〇五貫目同三十五年ニ三百八十八貫目ニ過キスト雖トモ今回ノ出品ヲ見ルニ確ニ一種ノ佳品タルヲ失ハス若シ夫レ更ニ一層精勵シテ以テ其産額ノ增多ヲ見ルニ至ラハ是レ亦一ノ好産品トシテ其裨益スル處鮮少ナラサルヘキナリ同府ノ加藤小兵衛ノ出品ニ係ルモノハ一號ヨリ七號マテニシテ丹波産生漆盛、丹後産生漆盛、下野産生漆上邊、常隆産上邊、下野産生漆、古上邊、南部産生漆上邊、丹後産生漆、セシメ等ナリ第一號ハ京都製梨地漆ノ原料ニ供シ第二號ハ京都製「ウワスリ」青野漆又ハ春慶漆、生漆其他ノ原料ニ供シ第三號第四號ハ京都製「ロイロ」漆ノ原料其他ニ供シ第五號ハ古漆ナルカ故ニ製造者カ他ノ漆ノ混合品ニ供シ第六號ハ花漆及「ロイロ」漆ノ原料ニ供シ第七號ハ京都名産美術品最上ノ漆器製、作下地漆ノ原料ニ供スルモノナリト云フ而シテ之レカ集液ノ時季ハ其品類ニ依リ多少ノ相違アリテ第一號ヨリ第六號ハ八月上旬ヨリ同下旬迄ヲ最上好季トシ第七號即チ古漆ハ十二月上旬ヨリ同下旬ヲ集液ノ好季トスト云フ今同人カ最近三箇年間ニ於ケル産額ヲ見ルニ左ノ如シ

| 年 度 | 産 額 | 價 格 |
|--------|----------|---------|
| 明治三十二年 | 三千八百五十貫目 | 參萬壹千八百圓 |
| 同 三十三年 | 三千九百九十貫目 | 參萬貳千六百圓 |
| 同 三十四年 | 四千貫目 | 參萬參千四百圓 |

同人ノ祖先カ斯業ニ從事シテヨリ茲ニ百七十年ニ及ヒ當代小兵衛ニ至テ六代ニ涉リ繼續從

事スル所ナリト云フ同人ハ明治三十一年京都市開會全國漆器漆共進會ニ於テ一等褒賞金杯ヲ受領シ同三十三年富山縣開會第七回關西府縣聯合共進會ニ於テ二等褒賞銀杯ヲ受領シ其他五二會及共進會等ニ於テ金銀銅牌等ヲ受領セシ閱歴アリ而シテ今回ノ出品ニ係ル第一號乃至第七號ノ品質ハ大阪府出品ノ優品ニ對シテハ稍々遜色アリト雖トモ其産額ノ上ヨリ見ル時ハ本邦斯業者中屈指ノモノトシテ數ヘサルヘカラス今回審査ノ結果三等賞格ニ入りシモノ蓋シ偶然ニアラサルナリ而シテ同府ニ於ケル褒狀受領者五名ノ出品ハ悉ク盛漆「セシメ」漆ノ二種ニシテ品質佳良ナラサルニアラス何レモ大同小異ナリ而シテ右ノ内四名ノ出品ハ京都府下ノ生産ニ係ルモノニシテ他ノ一名ノ出品ハ岡山縣美作國生産ニ係ルモノナリ産額ハ三百貫乃至七百貫ニシテ將來其品質ヲ精良ナラシメ又其産額ヲ増加シ得ルノ望ミアルカ故大ニ當業者ノ奮勵ヲ要セサルヘカラサルナリ

△△△ 同縣ハ相澤藤四郎ノ出品唯タ一點ニシテ產地ハ同縣秩父郡兩神村トス地質ハ砂石混交ノ真土ニシテ栽培反別十一町五反歩ナリ一箇年ノ産額約五百貫目ニシテ第二回内國博覽會ニ於テ褒賞ヲ受ケ京都市開會全國漆器及生漆共進會ニ於テ褒賞ヲ受ケ宮内省御買上品ノ一タル榮譽ヲ荷ヘリ今回ノ出品ハ其品質ニ於テ太々佳品タルヲ失ハスト雖トモ唯タ其産額ノ比較的少量ナルハ遺憾ナキ能ハス

△△△ 同縣ノ出品ハ總テ三點ニシテ内初瀬川健増ノ出品ハ三等賞格ニ入りタリ產地ハ同縣岩代國大沼郡川路村ニシテ出品者居村ノ生産ニ係ルモノナリ産額ハ僅々一千斤ニ過キス

ト雖トモ品質ハ甚々佳良ニシテ明治二十二年五月佛國博覽會ニ出品褒狀ヲ受ケ同二十六年米國シカゴ世界博覽會ヨリ褒賞ヲ受ケ同三十一年同國漆器漆生産共進會ヨリ二等賞銀杯并ニ功勞金杯ヲ受ケ同三十三年佛國巴里萬國博覽會ヨリ褒狀ヲ受ケ以テ斯業ノ上ニ貢獻スル所ノ少ナカラサルヲ知ルヘキナリ

右ノ外褒狀ヲ得タルモノ二名ナリ而シテ同人ノ出陳ハ返漆、浦漆、留漆ノ三點ニシテ其品質亦好良ナリ由來巖手縣下ハ漆樹栽培ヲ以テ名アリ其採收培養等大ニ參照トスルニ足ルモノアリ左ニ同人ノ提出ニ關スル解説書ヲ抄録スヘシ

巖手縣二戸郡荒澤村大字淺澤佐藤三郎出品至自一返漆、浦漆、留漆、解説書抄録

產地土質反別 巖手縣二戸郡荒澤村ニシテ土質ハ砂地、真土等ナリ砂地ハ總テ藪地山林ヲ切り拂ヒタル土地ナレハ多ク瘠地ナレトモ真土ハ耕地畠ノ畦畔等ニ栽植スルヲ以テ土質多クハ肥土ナリ漆ハ土質ノ如何ニ拘ハラヌ成木スレハ成ルヘク濕土ヲ避ケ并ニ畦畔ナレハ凡ソ十三町歩内ニ一萬本餘栽培ス

種植採收及培養保護 播種ノ方法ハ冬季ニ至リ種子ヲ漆ノ實ト稱ス採收シ表皮ヲ剝奪シテ水ニ浸スコト殆ント一箇月間ノ後之ヲ策ニ揚ケ水氣ヲ取り更ニ桶ノ中ニ右種子ヲ入レテ熟湯ヲ注キ之ニ火交リノ熱灰ヲ多量ニ入レテ強力ヲ以テ木ノ棒切ニテ充分攪拌シ種子ノ蠟分ヲ除去シタル後チ再ヒ策ニ揚ケ水ニテ洗ヒ一日乃至二日間ニ乾燥シ然後之ヲ整地ニ播種ス季節ハ年ニ相違アレトモ全ク雪ノ消ヘタル後直チニ整地スルヲ適當トス播種シ

タル種子ハ凡ソ一箇月乃至四十日間ニ悉ク發芽ス發芽後極メテ稀薄ノ糞汁ヲ施肥シ翌年ニ至リ之ヲ移植ス移植スルコト三箇年乃至五箇年ニシテ耕地或ハ藪地ニ栽植ス凡ソ十五箇年位ニシテ漆液ヲ搔取ルモノトス耕地畦畔ニ栽植セシモノハ其儘放任セルモ充分成長ス藪地ハ年々下芝草一回ヲ刈取ルノミニテ充分足レリ施肥手數ナク除害ノ患ナシ(半夏ヨリ秋彼岸迄)

ニ搔取ル漆ヲ返漆ト云ヒ秋彼岸後搔取ル漆ヲ浦漆ト稱ヘ浦漆ノ後ニ留漆ヲ搔取リ冬期ニ至リ枝ヲ伐採シテ搔取ルモノ之ヲ枝漆ト云フ

褒賞 明治三十四年東京ニ開催セル第五次漆工競技會ニ出品シ同年五月二十日三等褒狀ヲ贈與セラレ

效用、産出額及審査請求主眼 自己ノ所有セル立木ヨリ搔職人ヲ雇ヒ採取シタルモノニシテ其質善良塗料トシテ能ク久ニ耐ユ

本郡ニテ産出スル漆汁ハ年ニ一萬貫目内外ニシテ販路ハ東京大阪福島青森秋田静岡名古屋其他各地ニ輸出ス

青森縣 同縣出品十八點中三等賞ノ資格ニ入リシモノ安達甚右衛門一名外ニ褒狀ヲ得タルモノ四名トス同人ノ出品生漆ハ單ニ一點ニシテ産地ハ同縣三戸郡三戸町大字梅内字梨ノ木平、土質ハ砂質ニシテ黒色ヲ帶ヒ乾燥地ニシテ寧ロ瘠地ナリトス反別五町步種植及採收ニ至テハ普通ト大差ナク始メ滿二箇年ヲ經タル苗木ヲ栽植シ滿七八年乃至十四五年ニ及ヒ搔取ルモノナリト云ヘリ産額ハ明治三十三年ニ一千五百貫目同三十四年ニ一千七百貫目同三十五年ニ二千貫目ニシテ同人ハ明治三十五年第六次漆工競技會ニ於テ二等賞銀牌ヲ受ケタ

リ今回出品ノ品質ハ良好ナリ右ノ外東京府ノ出品二點中褒狀ヲ得タルモノ一名産額ハ一箇年一千九百五十貫目價格壹萬貳千五百圓トス新潟縣ノ出品八點中褒狀ヲ得タルモノ三名産額ハ一箇年三百四十五貫目乃至一千八百貫目トス奈良縣出品十一點中褒狀ヲ得シモノ五名産額ハ一箇年何レモ一千貫目ヲ上下セリ宮城縣ハ出品五點中褒狀ヲ得シモノ二名産額一箇年何レモ四五百貫目トス山形縣出品八點中褒狀ヲ得タルモノ一名産額一箇年二百貫目トス秋田縣ノ出品二點中褒狀ヲ得タルモノ一名一箇年ノ産額ハ約三百貫目鳥取縣出品五點中褒狀ヲ得タルモノ一名一箇年ノ産額八百貫目熊本縣ノ出品十三點中褒狀ヲ得タルモノ二名一箇年ノ平均産額約百五十貫目ナリトス栃木愛知長野愛媛ノ四縣ヨリノ出品ハ殆ント見ルニ足ルヘキモノナシ當業者タルモノ一層奮勵シテ後回ニ於テハ良品ヲ出品シ以テ大ニ其面目ヲ改メンコトヲ企望ス

兵庫縣 同縣阿波野松太郎ノ出品ニ係ル木附子即チ五倍子ハ一號二號ノ二點ニシテ産地ハ紀伊、周防、土佐、石見、因幡、伯耆、長門、阿波、九州一體及ヒ近江、美濃、伊勢、東海、東山ノ西部等トス已上ノ産品ハ主モニ黒附子ニシテ伊豫、美作、備前、備中、備後、安藝、播磨等ハ主モニ白附子ノ産地トス同人ハ二等賞格ニ入ルノ榮譽ヲ博セリ同人ノ製出ニ係ル黒附子ハ主モニ京都西陣機業友染等ニ用ヒラレ白附子ハ米澤織又ハ各紺屋ニ使用セラレ又本品ノ海外ニ輸出セララル、モノ、如キハ或煤染劑又ハ葡萄酒醸造ノ溢除キ等ノ要劑トシテ供用セララル、モノトス今同人カ提

出セシ解説書ノ一節ヲ左ニ抄録シテ年産額并ニ輸出産額ノ一斑ヲ示スヘシ

兵庫縣神戸市榮町阿波野松太郎出品自ニ木附子解説書抄録

産出額ハ大凡ソ一箇年ニ一百万斤以上ノ産額アリ是レヲ統計的ニ表示セハ左ノ如シ

(但シ概畧ノ計算トス)

| | | | |
|--|--------|-----------|-------|
| 明治二十三年度 | 一百萬斤 | 明治二十八年年度 | 二百萬斤 |
| 同 三十三年度 | 百四十五萬斤 | 同 三十四年度 | 百五十萬斤 |
| 沿革 往古該品ハ實ニ婦人ノ齒ヲ染ムルヲハグロヲ塗ルニ使用セシフシノコト稱スルモノニテ内地用品トシテ眞ノ小額カ一部ニ使用セラルニ過キサリシヲ多年業ヲ營ムノ餘功ニテ漸ク染織用ノ要品トシテ特效アルコトヲ發見シ大ニ其用途ヲ擴張シ明治十三年初テ海外試賣ヲ爲シテ輸出ヲナシ爾後大ニ販路ノ擴張ヲ來シ實ニ左ノ如キ長足ノ發達ヲ見ルニ至レリ | | | |
| 明治十三年(試賣ノ年) | 五千斤 | 代金八百圓 | |
| 同 十八年 | 十萬斤 | 同 壹萬六千圓 | |
| 同 二十三年 | 三十五萬斤 | 同 六萬參千圓 | |
| 同 二十八年 | 九十二萬斤 | 同 貳拾貳萬八百圓 | |
| 同 三十三年 | 四十萬斤 | 同 拾壹萬貳千圓 | |
| 同 三十四年 | 五十萬斤 | 同 拾四萬圓 | |

五倍子ノ蓑狀ヲ得タルモノヲ列記スレハ大阪府ニ一名愛知縣ニ一名鳥取縣ニ一名岡山縣ニ一名廣島縣ニ一名山口縣ニ二名和歌山縣ニ四名愛媛縣ニ一名ニシテ其品質ハ何レモ大同小異ナレトモ其産額ニ至テハ大差アルヲ免レス即チ大阪府ノ分ハ最近三箇年ノ平均十萬斤廣島縣ノ分最近三箇年平均一萬三千斤和歌山縣ノ分最近三箇年平均三萬斤愛媛縣ノ分最近三箇年平均五萬斤ナリト云フ斯業ノ爲メニ盡瘁スルノ點亦太々多トスヘキモノアルヲ認ム桐實ハ已ニ總評セシカ如ク今回ノ出品ハ福井縣ノ二十三點ノミ而シテ其内蓑狀ヲ得シモノ三名ナリ由來同品ハ意外ニ其結果ノ早收ヲ爲シ得ルモノニシテ始メ播種ノ後チ二三年ヲ經タル上之レヲ圍畑ニ移植シ七八年ヲ經過セハ直チニ結實スルモノトス肥料ニ於テモ他ノ樹木ノ如キ煩ナク下種二三年ハ肥料トシテ人糞ヲ施スモ其後移植ノ上ハ單ニ下草ヲ刈リ取ルニ止マリ特ニ肥料ヲ施スノ要ナシト云フ本品ノ用途ハ專ラ製油原料トナスニアリ之レヨリ探レル製油ハ點火用防水用或ハ海外輸出茶函ノ塗料トシテ效用多ク其絞滓ハ頗フル肥料ニ適セリト云フ價格ハ其年ノ豊凶等ニ依リ小異アリト雖トモ大約一石參圓四五拾錢ヨリ四圓貳參拾錢ヲ上下シ毎年ノ産額ハ平均二三十石乃至七八十石ニシテ販路ノ大部分ハ京阪地方ナリト云フ

松脂ノ出品ハ島根縣九點福井縣一點ニ過キス而シテ蓑狀ヲ得タルモノハ島根縣一名ニシテ品質ハ本邦從來ノ採收法ニ依リタル割合ニハ好良ナルモ未タ以テ優品タリト稱スヘカラス之カ採收方法ヲ見ルニ自然生松樹ノ凡ソ十五箇年已上ヲ經タルモノヲ撰ヒテ毎年五月頃突

キ藤ヲ用ヒ根柢ヨリ約一丈許ニ向テ數箇所ノ樹皮ヲ剝取シ十月頃ニ及ヒ其箇所ニ凝結セシモノヲ採收スルナリ産額ハ最近三箇年ノ平均五六貫目トス其採收法ハ頗フル單純ニシテ且ツ幼穉タルヲ免レサルカ故將來ニ在テハ須ラク佛國ノ採收法ニ則リ其産額ヲ高メ併セテ品質ノ改良ヲ圖ラサルヘカラサルナリ

巖手縣ノ出品紫根ハ靜岡縣ノ出品ヤシヤブシ（ヤシヤブシハ樺木料赤楊屬ノ植物ニシテ形ハンノキニ類ス）共ニ一名宛ノ褒狀受領者ヲ出セリ而シテ紫根ハ野生宿根ニ屬シ毎年秋其根ヲ採掘シテ乾燥スレハ足レリヤシヤブシハ栽植ヲ要スレトモ該植物ハ特ニ礮礮ナル瘦土ニ於テ且ツ日光直射風力劇甚ナル土地ニ適ス之カ播種ハ中春ニシテ移植ハ晩春ヲ以テシ而シテ果實ノ收穫ハ七月下旬トス巖手縣太田德治出品ノ紫根ハ最近五箇年間ノ産額平均二千斤ニシテ此價格參百六拾圓靜岡縣山田市太郎出品矢砂ハ毎年平均産額十五石トス效用ハ主モニ染料ニ供シ布帛ヲ染ムルニ當リ下染用トシテ必ス之ヲ使用スル所ナリト云フ以上ノ品質ハ特ニ評騰スヘキ點ナシト雖トモ亦太々不可ナキヲ認ム

臺灣臺北廳管内大庭貫一出品林投樹纖維ハ臺北管内及ヒ全島到ル處海岸ニ遠カラサル山野又ハ路傍ノ如キニモ能ク生育スル天然植物ニシテ四季共ニ綠葉蔚タルカ故ニ之レヲ採取スルニハ一定ノ季節ナシ巖手縣ニ同島ノ我カ領土ニ歸スル以前ニ在テハ其枯葉ヲ採リテ燃料トナスニ過キサリシカ近年ニ至リ之カ纖維ヲ以テ帽子原料ニ供スルニ至リ其製法ハ林投樹葉ノ裏皮ヲ削リ採リテ水中ニ浸漬シ次キニ日光ニ曝シ漂白劑ノ溶液ヲ以テ十二時間内ニ三十

度乃至六十度洗滌シ終テ更ニ水洗ヲナシ然ル後乾燥ヲ加フ之ヲ一般ニ於ケル漂白法ナリトス而シテ今回出品ニ係ルモノ、如キハ未タ漂白ノ精巧ヲ極メスト雖トモ著々其效ヲ奏シ前途頗フル有望ナリトス同品ハ今回三等賞ノ賞格ニ入りシモノニシテ今其提出ニ係ル解説書ノ一節ヲ左ニ抄録スヘシ

臺灣臺北廳大加納堡北門外街大庭貫一出品林投樹纖維解説書抄録

製造地 臺北廳大和納堡大稻埕建成後街ニ設置セリ

原料 臺北廳管内及ヒ全島到ル所ニ生産スル林投樹（土語ニナタウ）ト云フ

製造用品 湯沸風呂、漂白風呂、削板、削小刀、水溜桶

製造方法 林投葉ノ裏皮ヲ削リ水中ニ浸漬シ次ニ日光ニ曝シ藥品酸化アルカリ（鹽酸）マグネシウム（珪酸）アルカリ（樹脂）等ヲ加ヘ得ル處ノ溶液ヲ以テ十二時間ノ内ニ三十度ヨリ六十度迄ニテ處理シ次ニ水洗シ乾燥シ此ノ如クニシテ漂白ヲ行フ故纖維ヲ害スルコトナシ

沿革 創業ハ明治三十四年以來ヨリ從事ス

製造品數量及價格販路 出品物ト同一種ノ物品ヲ一箇年間製造數量七千二百斤此價格金四萬參千貳百圓其販路ハ外國貿易品ニ付キ東京、橫濱、神戸、大阪地方ニ輸出ス

效用 帽子敷物卷蓑入其他總テノ編物ヲ製造スルトキハ其光澤最美ニシテ一見米領バナ

マ製ニ優ルト雖トモ劣ルコトナシ